

千葉市における
女性の社会参画に関する意識調査

調査結果報告書

令和2年3月

千葉市

公益財団法人 千葉市文化振興財団

千葉市男女共同参画センター

目次

I.	調査概要	1
1.	調査目的	1
2.	調査方法	1
3.	回収結果	1
4.	前回調査	1
5.	報告書を読む際の注意事項	2
6.	標本誤差について	3
7.	回答者の属性	4
	(1) 性別	4
	(2) 年代	5
	(3) 就労状況	6
	(4) 家族構成	8
II.	調査結果	9
1.	「男女共同参画社会」に関する意識	9
	(1) 言葉の認知度	9
	(2) 各分野での男女の地位	13
	(3) 性別役割分担意識	24
2.	地域活動における女性の参画	26
	(1) 現在参加している地域活動	26
	(2) 地域活動のきっかけ	28
	(3) 今後の地域活動への参加	29
	(4) 地域活動に参加しやすい環境	32
	(5) 地域活動に参加しない、又は参加しづらい理由	34
	(6) 地域活動における方針・意思決定する際の影響力	36
	(7) 地域活動における方針・意思決定の場に女性の参画が必要だと思ふ理由	38

3.	職場における女性の参画	41
(1)	女性に対する職業観	41
(2)	職場内の性別による差別的待遇の有無	45
(3)	職場内の性別による差別的待遇の具体的内容	46
(4)	男性を優遇する差別的待遇が生じる理由	48
(5)	職場における方針・意思決定する際の影響力	50
(6)	職場における方針・意思決定の場に女性の参画が必要だと思ふ理由	52
(7)	上場企業役員に占める女性の割合	55
4.	政治における女性の参画	57
(1)	政治への関心	57
(2)	政治に関する情報の入手方法・政治とのかかわり方	59
(3)	政治における方針・意思決定する際の影響力	62
(4)	政治における方針・意思決定の場に女性の参画が必要だと思ふ理由	64
(5)	衆議院議員に占める女性の割合	67
(6)	「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」の認知度	69
III.	調査結果のポイント	71
1.	「男女共同参画社会」に関する意識	71
2.	地域活動における女性の参画	72
3.	職場における女性の参画	73
4.	政治における女性の参画	74
5.	今後に向けて	75
IV.	自由意見	76
V.	調査票	80

I. 調査概要

1. 調査目的

女性の社会参画に関しては、地域や職場、政治などの場において、長年努力が続けられてきた。行政に限らず、社会のなかで様々な人々が、両性の平等や男女共同参画社会の実現を目指してこの努力を継続しているが、しかし、いまだに女性の立場や社会参画の機会が、男性に比べ低く抑えられている側面がある。

本調査では、女性が地域活動、職業、政治などの分野に参加することに対する市民の意識と実態を探り、今後の施策や事業に反映させることを目的とする。

2. 調査方法

- (1) 調査区域：千葉市全域
- (2) 調査対象：千葉市内に居住している満 20 歳以上 65 歳未満の 3,000 人
(男女各 1,500 人)
- (3) 抽出方法：住民基本台帳からの無作為抽出
- (4) 調査方法：郵送による配布・回収方式
- (5) 調査期間：令和元年 7 月 30 日～令和元年 8 月 29 日

3. 回収結果

- (1) 配布数 : 3,000 件
- (2) 回収数 : 917 件
- (3) 回収率 : 30.6%
- (4) 有効回答数 : 866 件
- (5) 有効回答率 : 28.9%

4. 前回調査

報告書で結果を引用した前回調査（平成 19 年 9 月調査）は、次のとおりである。

（今回調査と調査区域、抽出方法、調査方法は同様である。）

- (1) 調査期間 : 平成 19 年 9 月 14 日～平成 19 年 9 月 30 日
- (2) 調査対象 : 千葉市内に居住している 20 歳以上の 3,000 人（男女各 1,500 人）
- (3) 配布数 : 3,000 件
- (4) 有効回答数 : 1,253 件
- (5) 有効回答率 : 41.8%

5. 報告書を読む際の注意事項

- (1) アンケート集計は、各設問の単純集計と前回調査との比較、並びに性別、年代、就労状況や家族構成とのクロス集計を行った。
- (2) 調査結果の数値は原則として回答率（%）を表記し、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記する。このため、単数回答の合計が100.0%とならない場合（例：99.9%、100.1%）がある。小計についても同様に各回答の計と一致しない場合がある。また、一人の回答者が2つ以上の回答をしてもよい質問（複数回答）では、回答率が100.0%を上回ることがある。
- (3) クロス集計の場合、分析軸の該当者が50人未満の場合は標本誤差が大きく異なるため、分析の対象からは除いている。
- (4) 性別や年代別などでクロス集計を行う場合、それぞれ無回答の方がいたため、合計が全体と一致しない。
- (5) 本文やグラフ・数表上の選択肢の表記は、場合により語句を簡略化してある。
- (6) 本文やグラフ・数表上で次の略称を使用する。 n：回答者の数
- (7) 表については、回答割合の高い項目について以下の通り、網掛け等で表記を行う。

最も高い割合（網掛け白抜き）

0.0

2番目に高い割合（網掛け黒字）

0.0

- (8) 前回調査との比較について、一部の質問では、前回と質問文の異なるものや、該当者の定義の異なるものがあるため、単純に比較することができない。そのような場合には、その都度ただし書きをしているが、原則として参考値として見ることとし、比較についての言及はしない。
- (9) 前回調査では65歳以上も調査対象者に含まれている。性・年代別などの経年比較の際、都度ただし書きをすることはないが、この点注意が必要である。また、今回調査では男性の20歳代の有効回答数が35人にとどまっており、分析軸の該当者が50人未満となってしまうが、性・年代別の分析は頻繁に行っているため、男性の20歳代にまったく言及しないことは難しい。よって、男性の20歳代については、必要に応じて参考値と明記したうえで取り扱う。

6. 標本誤差について

今回の無作為抽出法による調査の場合は、ここで出された数値 (%) をそのまま 20 歳以上 65 歳未満の全市民の回答として単純に置き換えると、多少の誤差が生じる。統計学的には、次式で標本誤差を計算して、20 歳以上 65 歳未満の全市民の回答を推測する。(信頼度 95%)

標本誤差の算定式

$$b = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差

N = 母集団数 (556,568 人)

n = 有効回答数 (866 件)

令和元年 6 月 30 日現在の 20 歳以上 65 歳未満の住民基本台帳人口

P = 回答比率

今回の意識調査 (n=866) における回答比率別標本誤差

回答の比率	標本誤差
10%または90%	±2.0%
20%または80%	±2.7%
30%または70%	±3.1%
40%または60%	±3.3%
50%	±3.4%

7. 回答者の属性

(1) 性別

図表(1)-1 性別

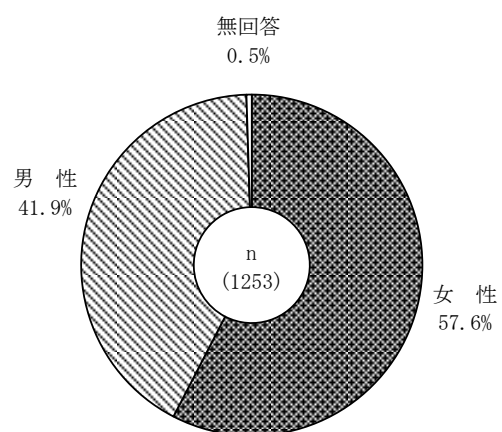
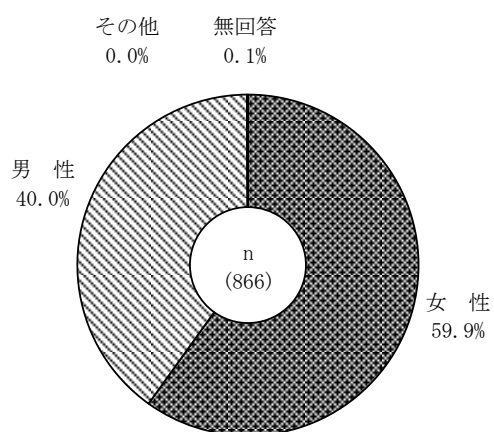
今 回

	回答数 (件)	構成率 (%)
女 性	519	59.9
男 性	346	40.0
その他	0	0.0
無回答	1	0.1
合 計	866	100.0

前 回

	回答数 (件)	構成率 (%)
女 性	722	57.6
男 性	525	41.9
その他	0	0.0
無回答	6	0.5
合 計	1253	100.0

※前回調査では「その他」を設けていない

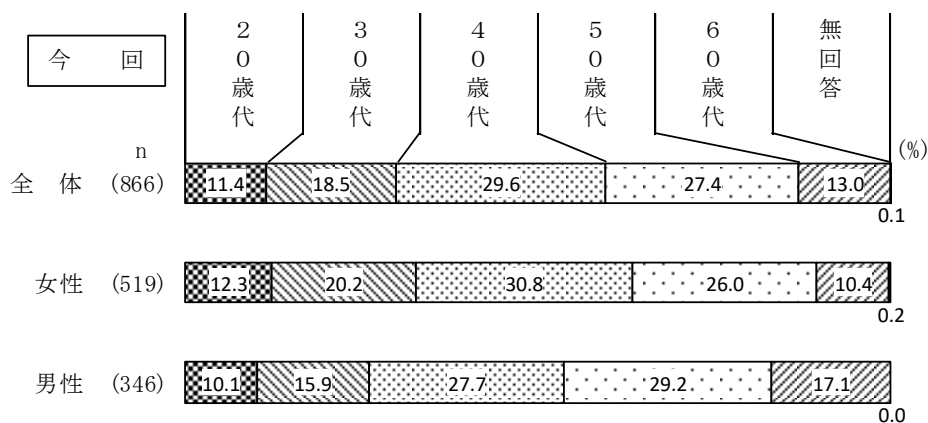


(2) 年代

図表(2)-1 性別／年齢

今 回

今 回			前 回			今 回					
年齢	回答数 (件)	構成率 (%)	年齢	回答数 (件)	構成率 (%)	年齢	回答数 (件)	構成率 (%)			
全体	20歳代	99	11.4	女性	20歳代	64	12.3	男性	20歳代	35	10.1
	30歳代	160	18.5		30歳代	105	20.2		30歳代	55	15.9
	40歳代	256	29.6		40歳代	160	30.8		40歳代	96	27.7
	50歳代	237	27.4		50歳代	135	26.0		50歳代	101	29.2
	60歳代	113	13.0		60歳代	54	10.4		60歳代	59	17.1
	無回答	1	0.1		無回答	1	0.2		無回答	0	0.0
	合計	866	100.0		合計	519	100.0		合計	346	100.0



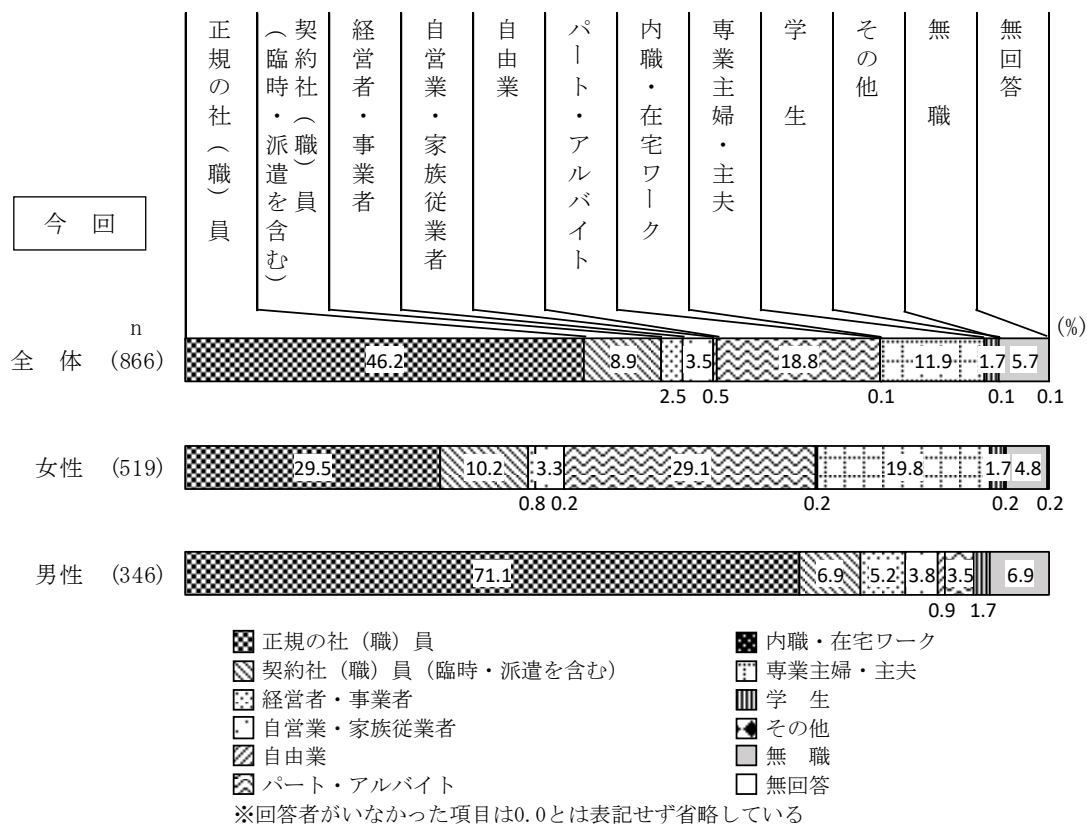
前 回

今 回			前 回			今 回					
年齢	回答数 (件)	構成率 (%)	年齢	回答数 (件)	構成率 (%)	年齢	回答数 (件)	構成率 (%)			
全体	20歳代	108	8.6	女性	20歳代	66	9.1	男性	20歳代	42	8.0
	30歳代	219	17.5		30歳代	146	20.2		30歳代	73	13.9
	40歳代	189	15.1		40歳代	104	14.4		40歳代	85	16.2
	50歳代	232	18.5		50歳代	140	19.4		50歳代	92	17.5
	60歳代	281	22.4		60歳代	149	20.6		60歳代	131	25.0
	70歳以上	221	17.6		70歳以上	117	16.2		70歳以上	102	19.4
	無回答	3	0.2		無回答	0	0.0		無回答	0	0.0
	合計	1253	100.0		合計	722	100.0		合計	525	100.0

(3) 就労状況

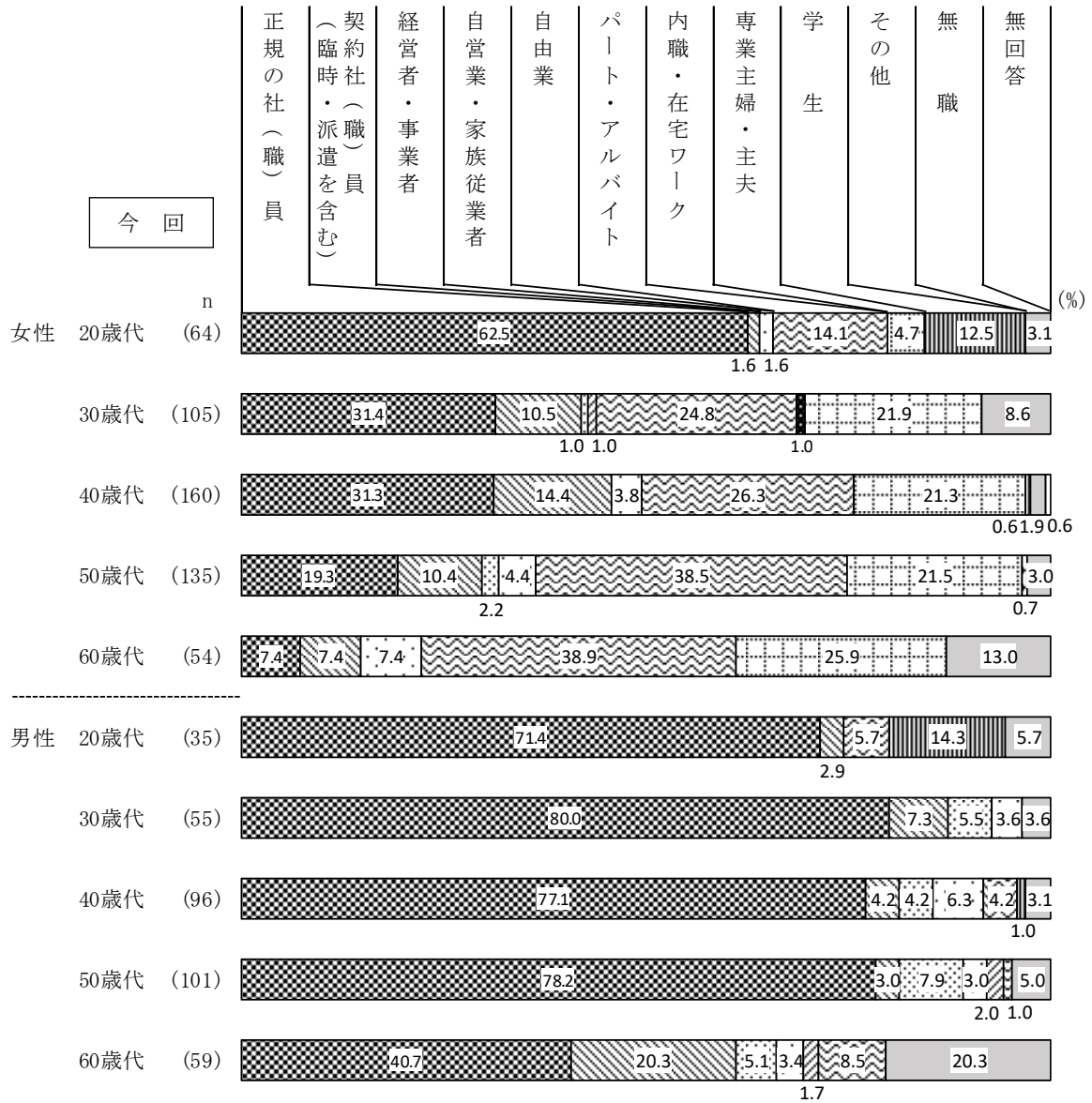
図表(3)-1 性別／就労状況

今 回													(件)
	正規の社(職)員	契約社(職)員(臨時・派遣を含む)	経営者・事業者	自営業・家族従業者	自由業	パート・アルバイト	内職・在宅ワーク	専業主婦・主夫	学生	その他	無職	無回答	合計
全体	400	77	22	30	4	163	1	103	15	1	49	1	866
女性	153	53	4	17	1	151	1	103	9	1	25	1	519
男性	246	24	18	13	3	12	0	0	6	0	24	0	346
無回答	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1



前 回											(件)
	正規の社(職)員	契約社(職)員	自営業・家族従業者	自由業	パート・アルバイト・内職	専業主婦・主夫	学生	その他	無職	無回答	合計
全体	341	85	78	12	170	284	24	23	229	7	1253
女性	114	52	24	5	141	282	12	11	79	2	722
男性	227	33	54	7	29	2	12	12	147	2	525
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	6

図表(3)-2 性・年代別／就労状況



⊠ 正規の社（職）員
 ⊠ 契約社（職）員（臨時・派遣を含む）
 ⊠ 経営者・事業者
 ⊠ 自営業・家族従業者
 ⊠ 自由業
 ⊠ パート・アルバイト
 ⊠ 内職・在宅ワーク
 ⊠ 専業主婦・主夫
 ⊠ 学 生
 ⊠ その他
 ⊠ 無 職
 ⊠ 無回答

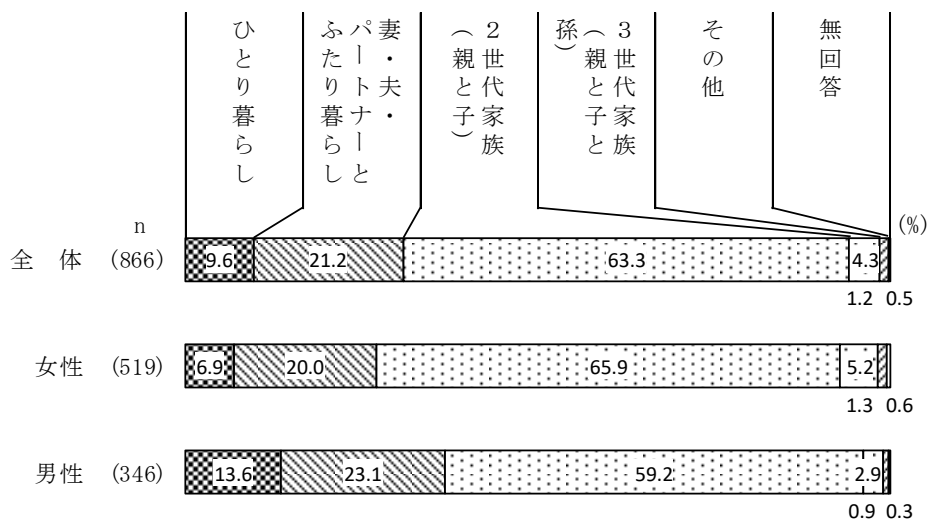
※回答者がいなかった項目は0.0とは表記せず省略している

(4) 家族構成

図表(4)-1 性別／家族構成

(件)

	ひとり暮らし	妻・夫・パートナ－とふたり暮らし	2世代家族(親と子)	3世代家族(親と子と孫)	その他	無回答	合計
女性	36	104	342	27	7	3	519
男性	47	80	205	10	3	1	346
無回答	0	0	1	0	0	0	1
全体	83	184	548	37	10	4	866



Ⅱ. 調査結果

1. 「男女共同参画社会」に関する意識

(1) 言葉の認知度

問1 あなたは、以下の言葉を知っていますか。あてはまる番号をそれぞれ1つずつ選んでください。

男女共同参画社会

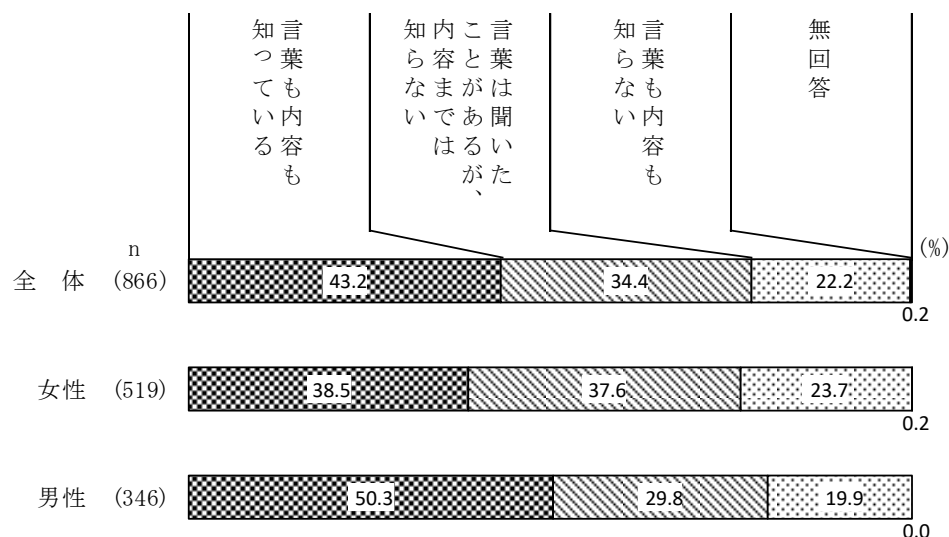
8割近くが『言葉を知っている（聞いたことがある）』と回答。

全体では、「言葉も内容も知っている」、「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」の両者を合わせた『言葉を知っている（聞いたことがある）』は77.6%である。

性別で見ると、女性では38.5%が「言葉も内容も知っている」と回答したのに対し、男性では50.3%と、男性の方が11.8ポイント高い。

【図表 1-1 参照】

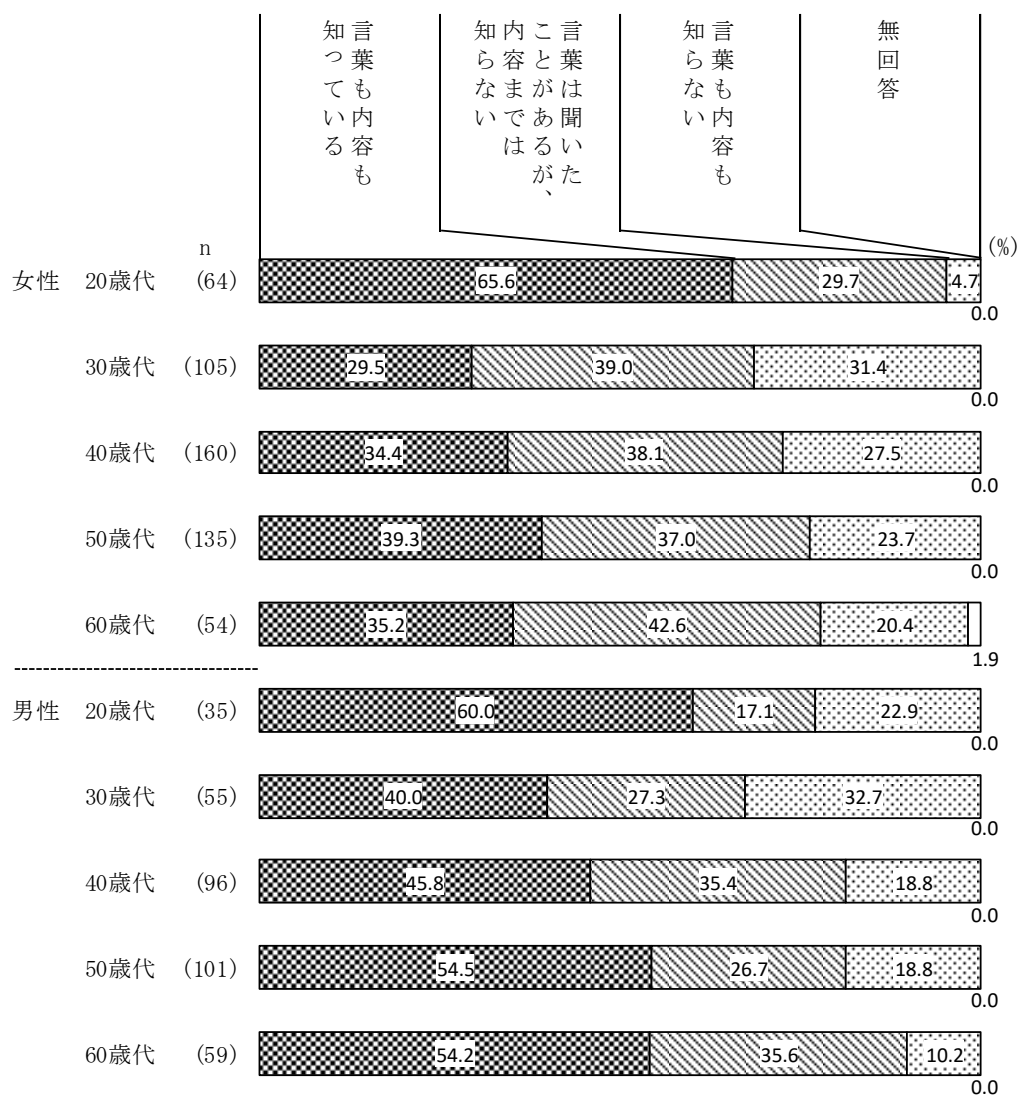
図表 1-1 性別／言葉の認知度「男女共同参画社会」



男女それぞれを年代別にみると、「言葉も内容も知っている」は女性の 20 歳代 (65.6%) が最も高い。同様に、『言葉を知っている (聞いたことがある)』も女性の 20 歳代 (95.3%) が最も高く、男性の 30 歳代 (67.3%) が最も低い。

【図表 1-2 参照】

図表 1-2 性・年代別／言葉の認知度「男女共同参画社会」



仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

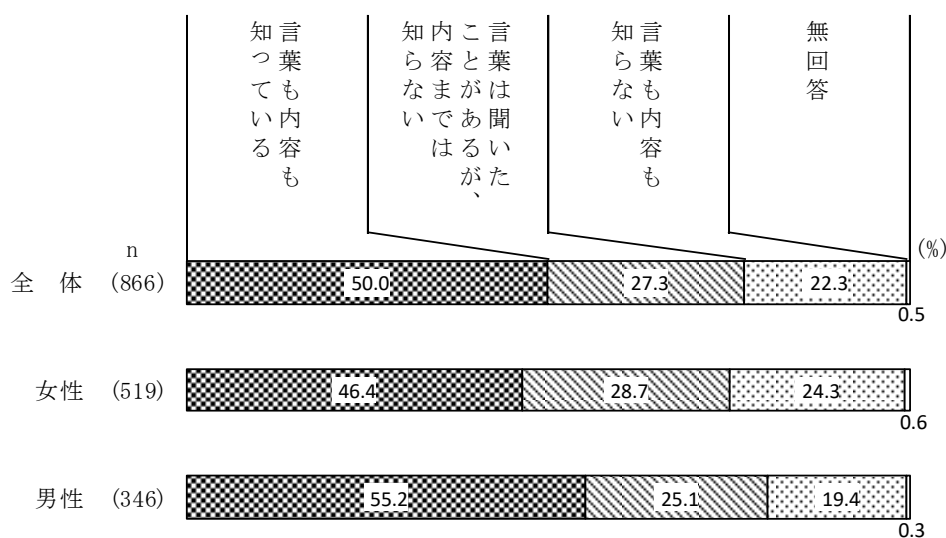
8割近くが『言葉を知っている（聞いたことがある）』と回答。

全体では、「言葉も内容も知っている」、「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」の両者を合わせた『言葉を知っている（聞いたことがある）』は77.3%である。

性別で見ると、女性では46.4%が「言葉も内容も知っている」と回答したのに対し、男性では55.2%と、男性の方が8.8ポイント高い。

【図表 1-3 参照】

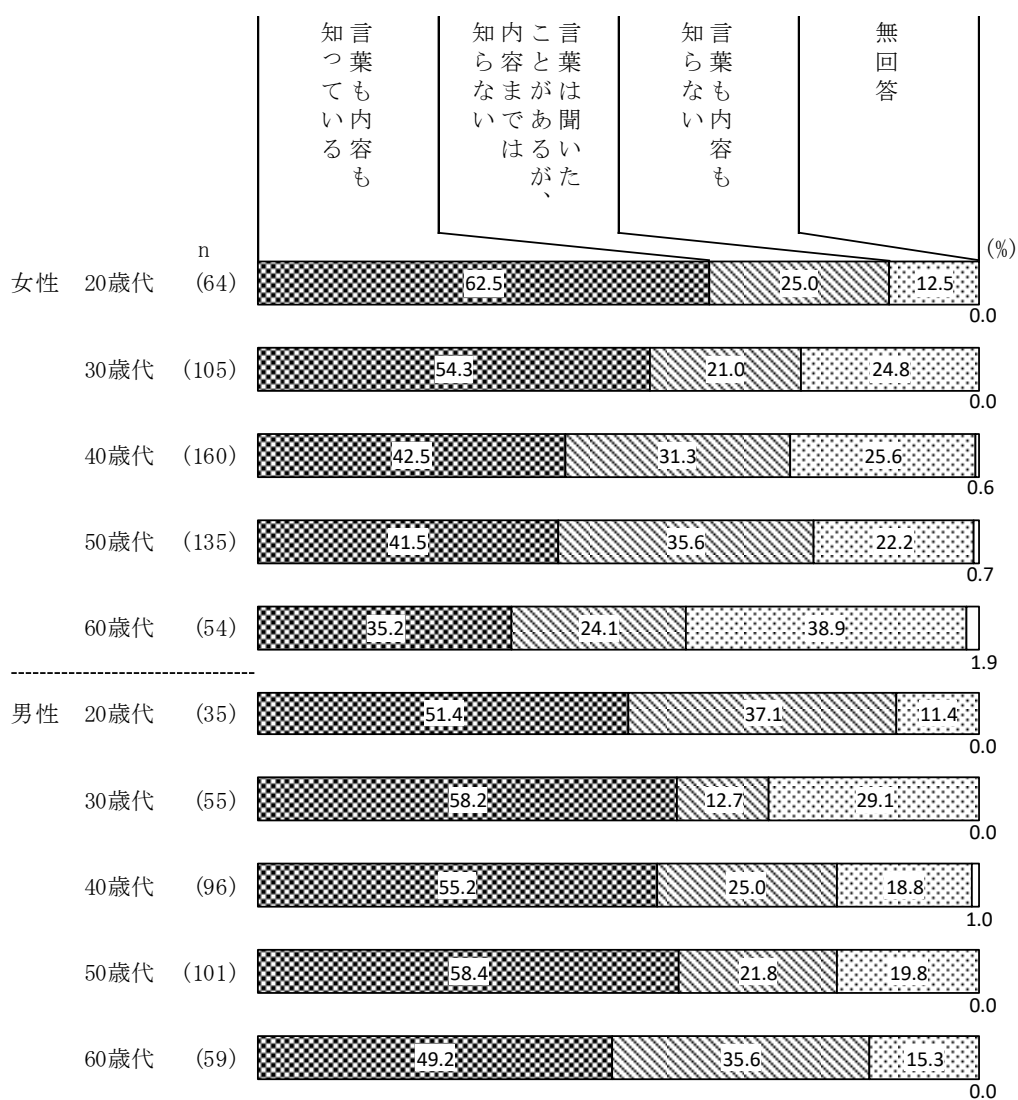
図表 1-3 性別／言葉の認知度 「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」



男女それぞれを年代別にみると、「言葉も内容も知っている」は、女性は20歳代(62.5%)が最も高く、男性は50歳代(58.4%)が最も高い。一方、「言葉も内容も知らない」は、女性は60歳代(38.9%)が最も高く、男性は30歳代(29.1%)が最も高い。

【図表 1-4 参照】

図表 1-4 性・年代別／言葉の認知度
「仕事と生活の調和 (ワーク・ライフ・バランス)」



(2) 各分野での男女の地位

問2 あなたは現在、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

(A)～(E)のそれぞれの事項について、あてはまる番号を1つずつ選んでください。

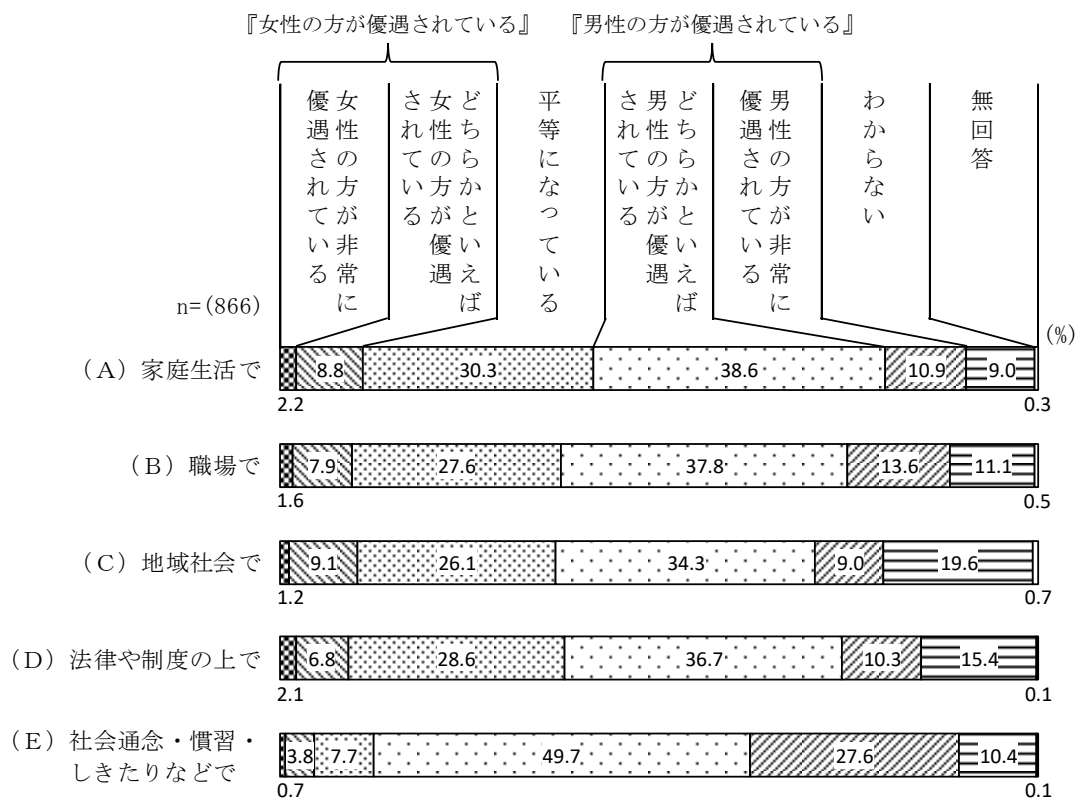
「社会通念・慣習・しきたりなど」で8割近くが『男性の方が優遇されている』と回答。

全体では、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性のほうに優遇されている』は、「社会通念・慣習・しきたりなどで」が77.3%で最も高く、次いで「職場で」の51.4%である。

一方、「平等になっている」は、「家庭生活」が30.3%と最も高く、「社会通念・慣習・しきたりなど」が7.7%と最も低い。

【図表 2-1 参照】

図表 2-1 各分野の男女の地位



(A) 家庭生活で

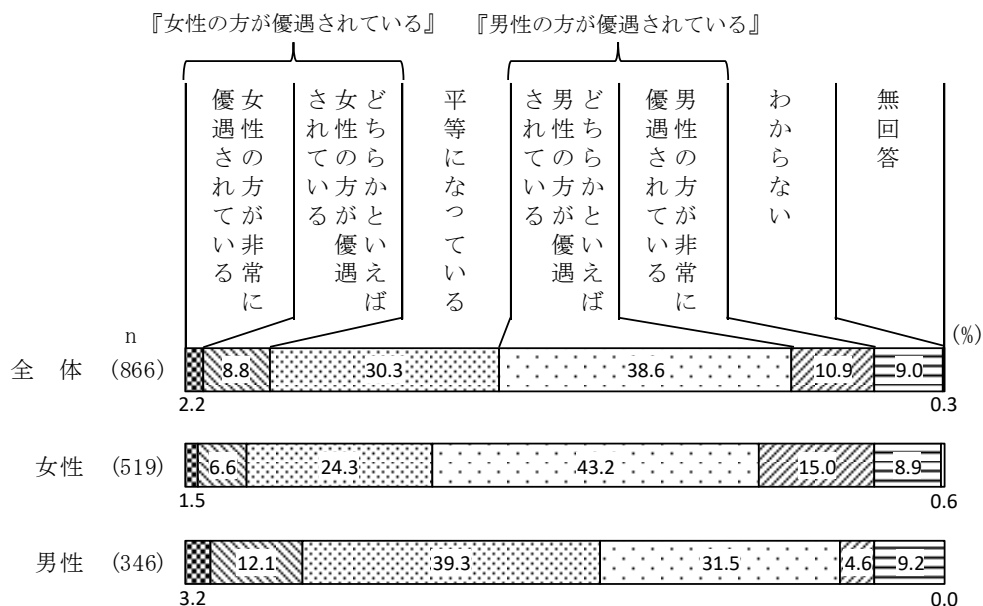
「平等になっている」は男女間で1割半の差。

全体では、49.5%の人が『男性の方が優遇されている』と回答した。また、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた『女性の方が優遇されている』は11.0%、「平等になっている」は30.3%である。

性別で見ると、女性は『男性の方が優遇されている』が58.2%であり、「平等になっている」は24.3%。一方、男性は『男性の方が優遇されている』が36.1%、「平等になっている」は39.3%である。男女間では、『男性の方が優遇されている』は、女性の方が22.1ポイント高く、「平等になっている」は、男性の方が15.0ポイント高い。

【図表 2-2 参照】

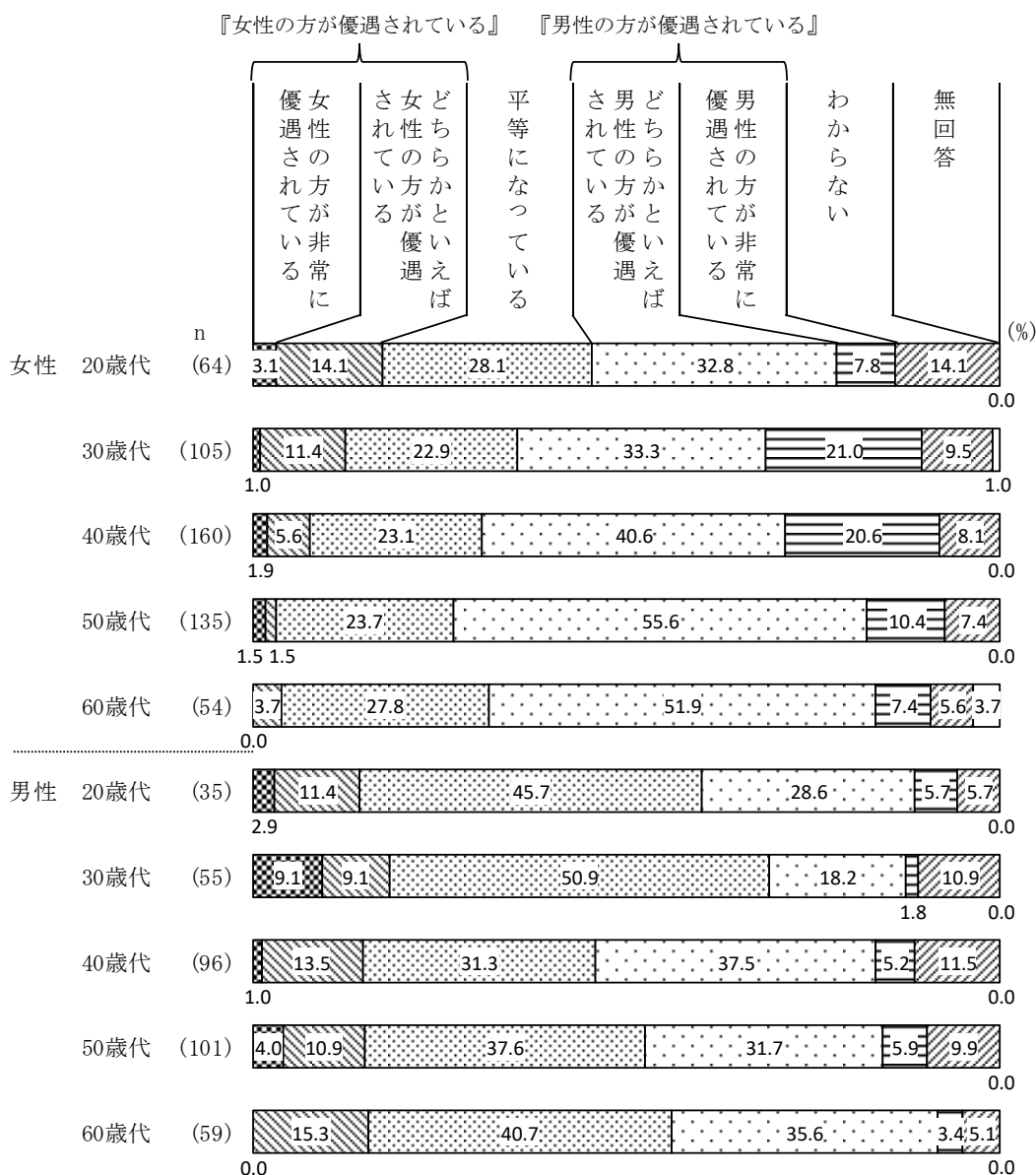
図表 2-2 各分野の男女の地位 (A) 家庭生活で (全体、性別)



男女それぞれを年代別にみると、『男性の方が優遇されている』は、女性の 50 歳代 (66.0%) で最も高い。一方で、『女性の方が優遇されている』は、男性の 30 歳代 (18.2%) で最も高く、次いで女性の 20 歳代 (17.2%) である。また、「平等になっている」も男性の 30 歳代 (50.9%) で最も高い。

【図表 2-3 参照】

図表 2-3 各分野の男女の地位 (A) 家庭生活で (性・年代別)



(B) 職場で

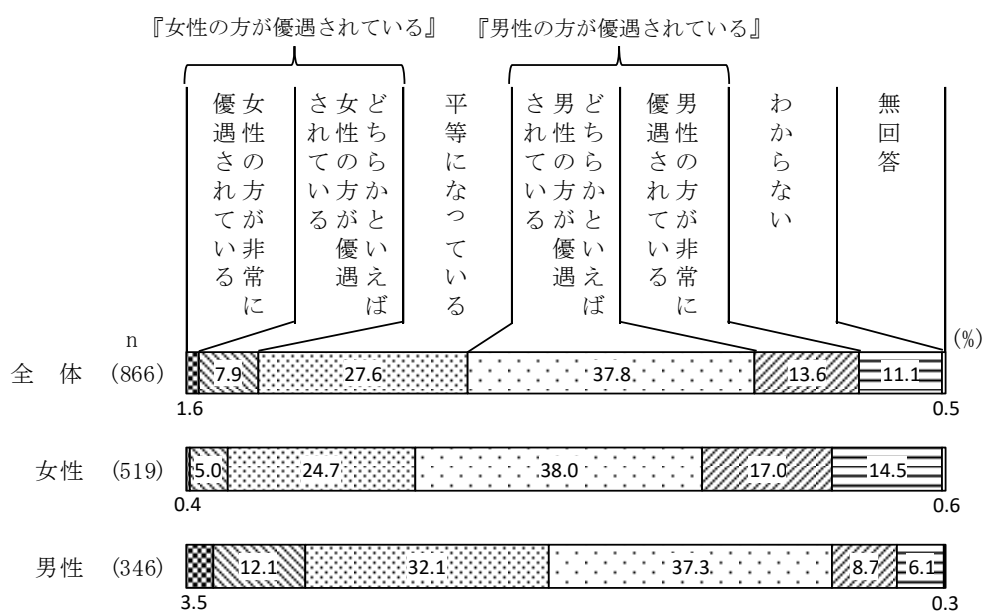
全体の5割以上が『男性の方が優遇されている』と回答。

全体では、『男性の方が優遇されている』は51.4%である。『女性の方が優遇されている』と回答した人は9.5%。また、「平等になっている」は27.6%である。

性別で見ると、『男性の方が優遇されている』(女性55.0%、男性46.0%)は、女性の方が9.0ポイント高い。また、『女性の方が優遇されている』(女性5.4%、男性15.6%)は、男性の方が10.2ポイント高い。さらに、「平等になっている」(女性24.7%、男性32.1%)は、男性の方が7.4ポイント高い。

【図表 2-4 参照】

表 2-4 各分野の男女の地位 (B) 職場で (全体、性別)

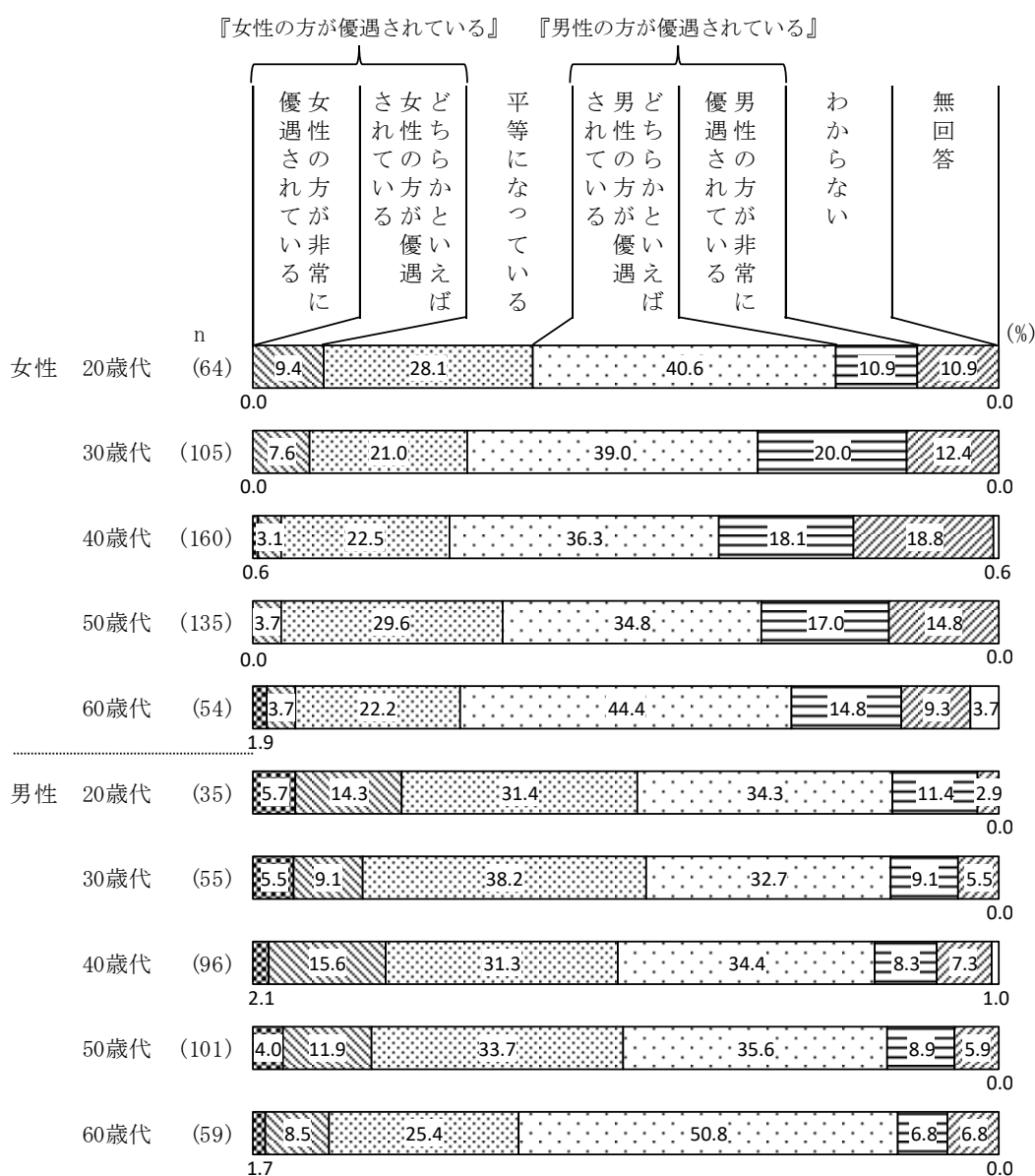


男女それぞれを年代別でみると、「男性の方が非常に優遇されている」は、女性の30歳代（20.0%）が最も高く、反対に男性の60歳代（6.8%）が最も低い。ただし、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と合わせた『男性の方が優遇されている』では、男性の60歳代は57.6%と、男性の中では最も高い。

「平等になっている」は、男性の30歳代（38.2%）が最も高く、反対に女性の30歳代（21.0%）が最も低い。

【図表 2-5 参照】

図表 2-5 各分野の男女の地位（B）職場で（性・年代別）



(C) 地域社会で

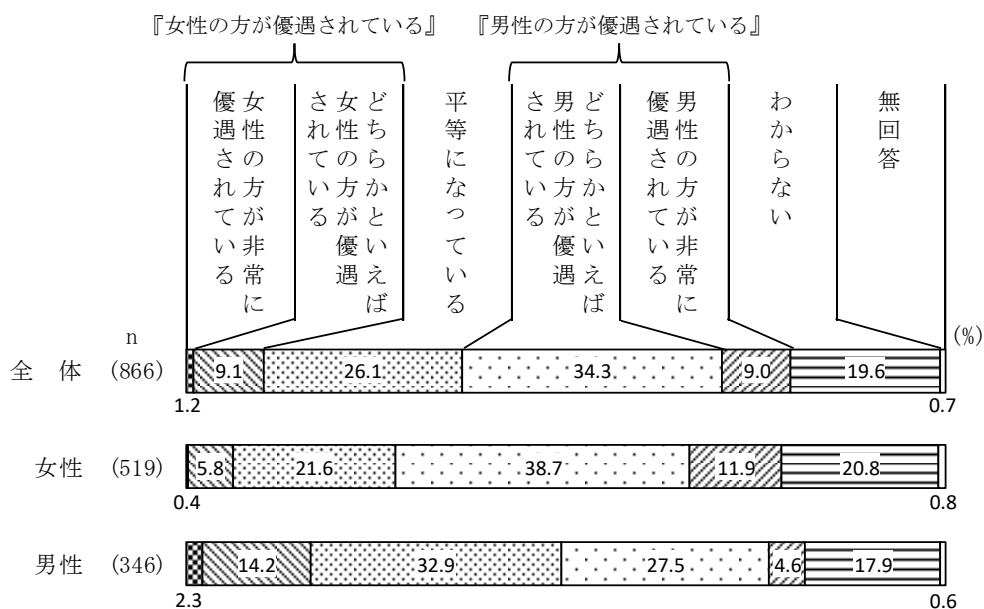
全体の4割以上、女性の約5割が『男性の方が優遇されている』と回答。

全体では、『男性の方が優遇されている』が43.3%で最も高い。次いで『女性の方が優遇されている』が10.3%、「平等になっている」が26.1%と続く。

性別で見ると、『男性の方が優遇されている』（女性50.6%、男性32.1%）では、女性の方が18.5ポイント高い。また、「平等になっている」（女性21.6%、男性32.9%）をみると、男性の方が11.3ポイント高い。

【図表 2-6 参照】

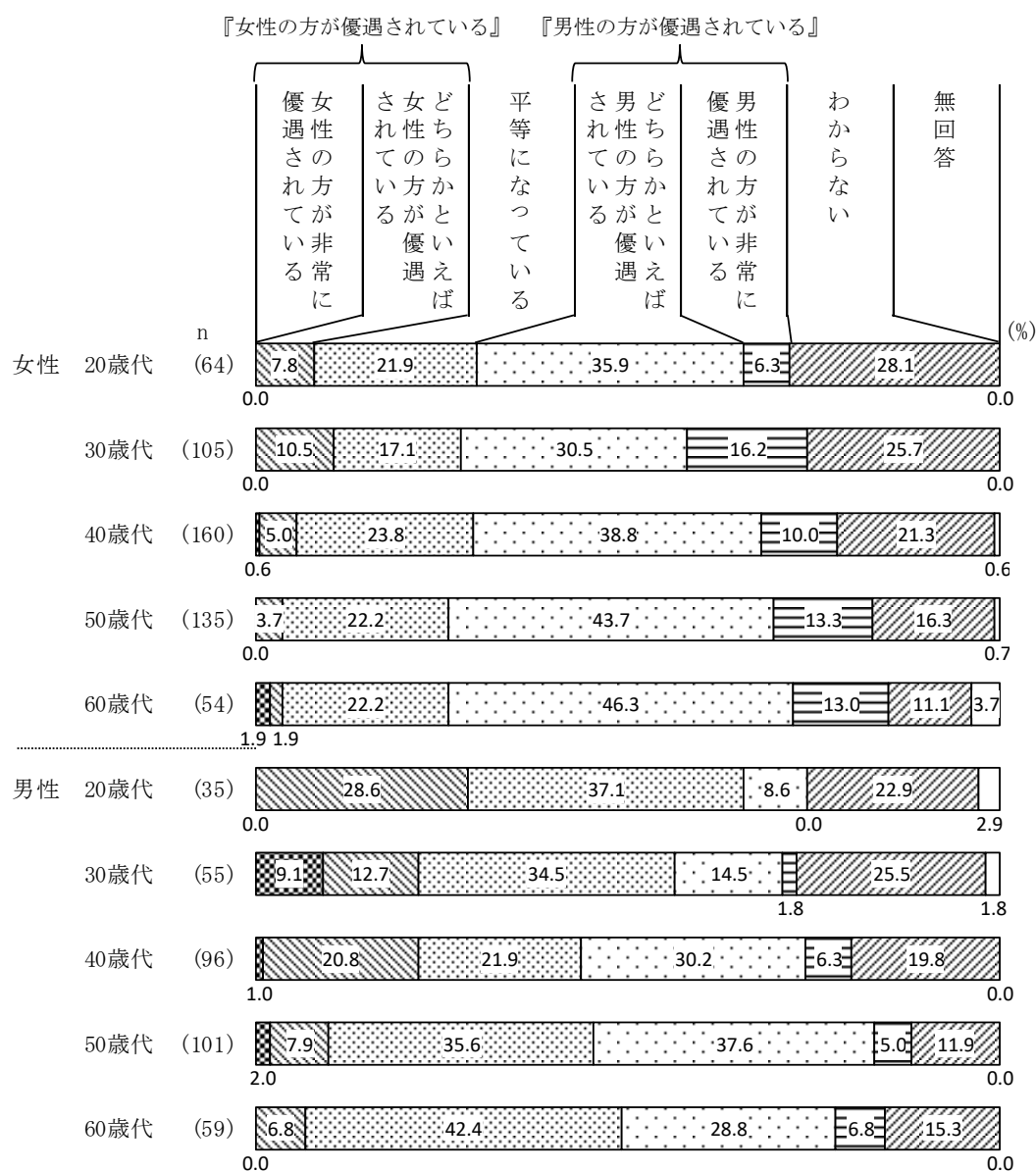
図表 2-6 各分野の男女の地位 (C) 地域社会で (全体、性別)



男女それぞれを年代別にみると、『男性の方が優遇されている』は、女性の60歳代（59.3%）が最も高い。また、参考値であるが、男性の20歳代（8.6%）が最も低い。一方で、「平等になっている」は、男性の60歳代（42.4%）が最も高く、女性の30歳代（17.1%）が最も低い。

【図表 2-7 参照】

図表 2-7 各分野の男女の地位（C）地域社会で（性・年代別）



(D) 法律や制度の上で

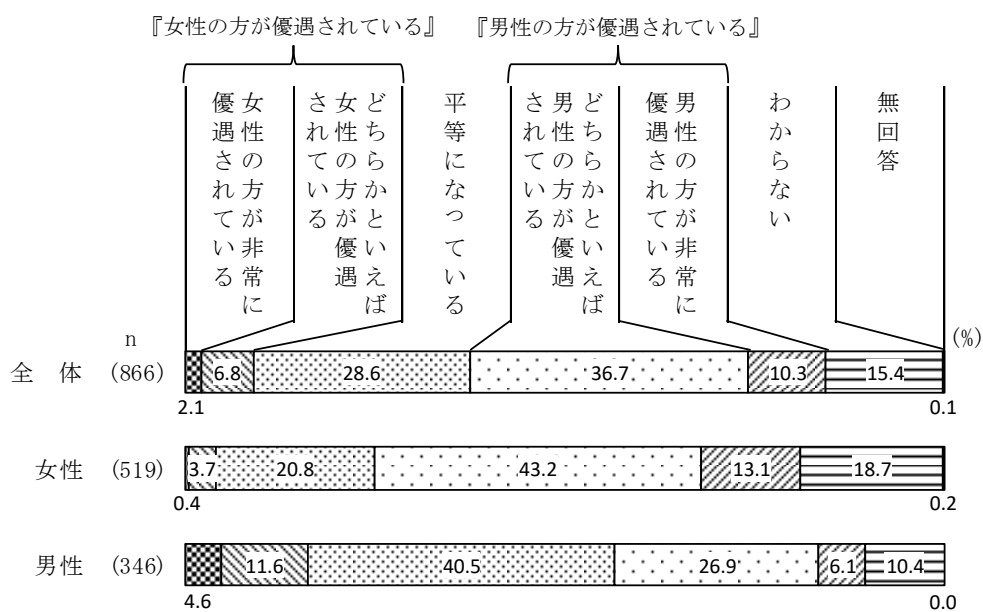
女性で「平等になっている」と回答した人は約2割。

全体では、『男性の方が優遇されている』が47.0%で最も高い。一方、『女性の方が優遇されている』は8.9%、「平等になっている」は28.6%である。

性別では、『男性の方が優遇されている』（女性56.3%、男性33.0%）は、女性の方が23.3ポイント高い。また、「平等になっている」（女性20.8%、男性40.5%）は、男性の方が19.7ポイント高い。

【図表 2-8 参照】

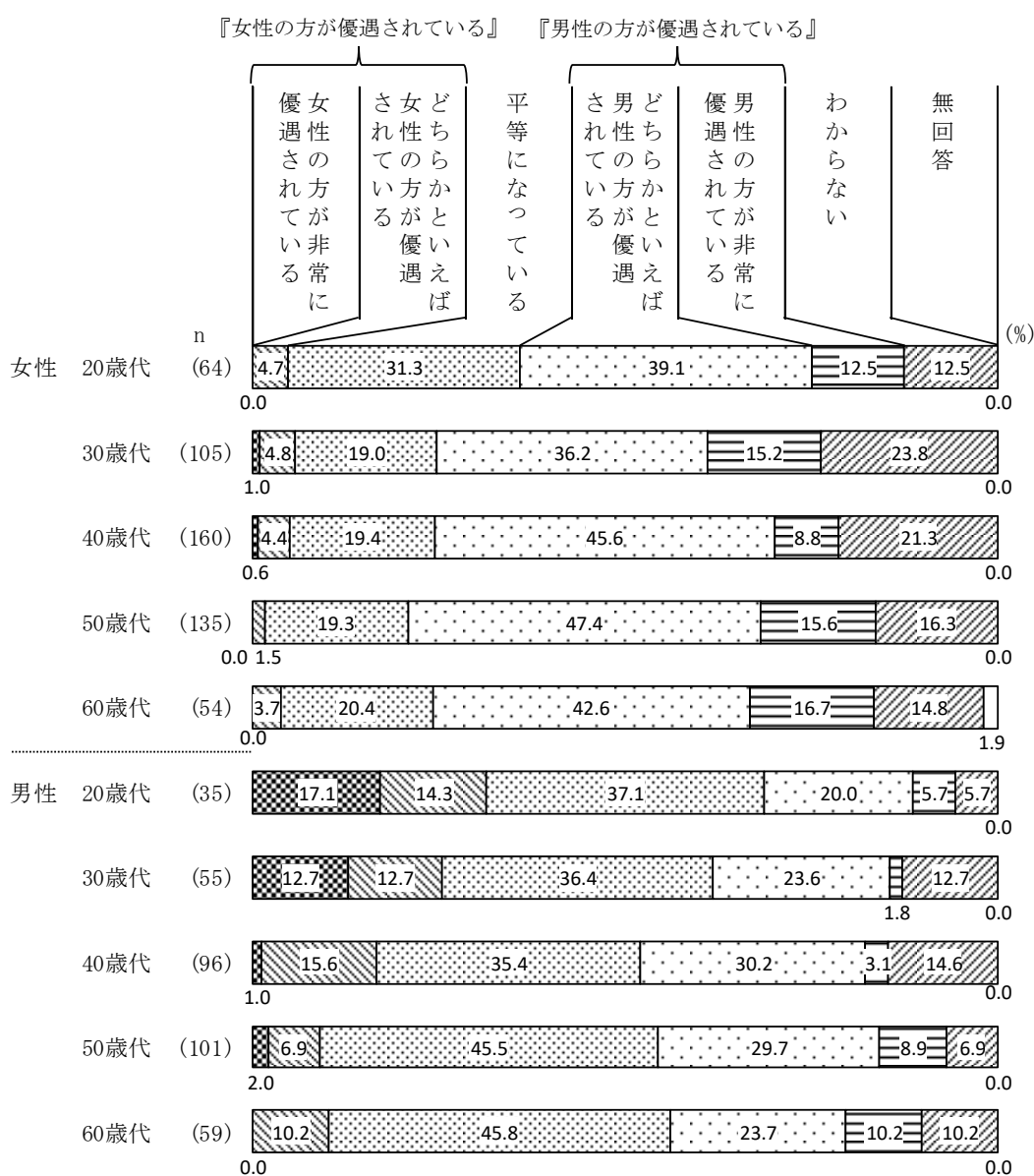
図表 2-8 各分野の男女の地位 (D) 法律や制度の上で (全体、性別)



男女それぞれを年代別にみると、「平等になっている」は、女性は20歳代が31.3%と最も高く、男性は60歳代が45.8%で最も高い。『男性の方が優遇されている』は、女性の50歳代（63.0%）が最も高く、男性の30歳代（25.4%）が最も低い。一方、『女性の方が優遇されている』は、参考値であるが男性の20歳代（31.4%）が最も高く、次いで男性の30歳代（25.4%）である。

【図表 2-9 参照】

図表 2-9 各分野の男女の地位（D）法律や制度の上で（性・年代別）



(E) 社会通念・慣習・しきたりなどで

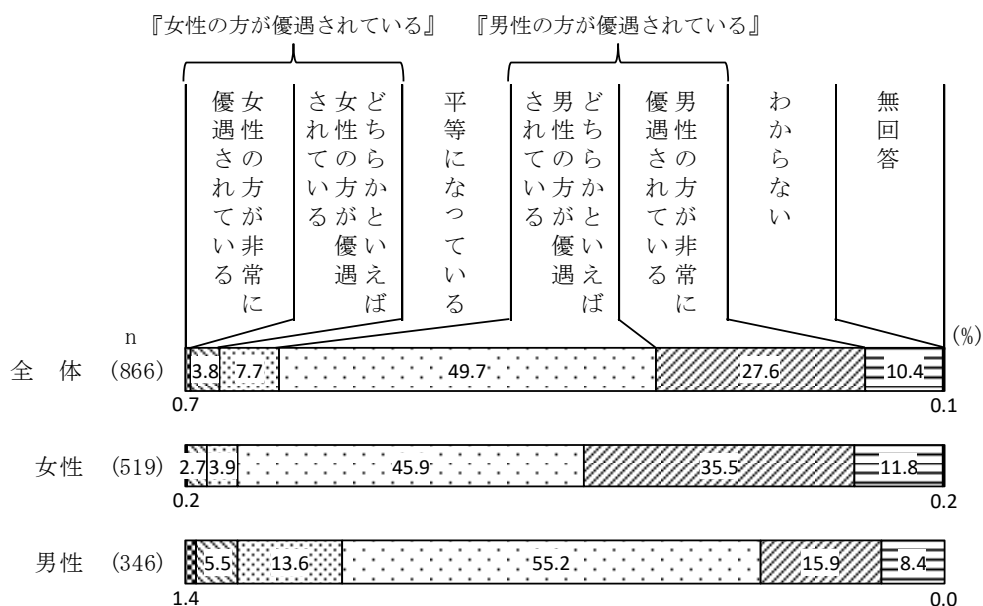
8割近くが『男性の方が優遇されている』と回答。「平等になっている」は1割未満。

全体では、『男性の方が優遇されている』が77.3%である。一方、『女性の方が優遇されている』は4.5%。また、「平等になっている」と回答した人は7.7%にとどまった。

性別で見ると、『男性の方が優遇されている』(女性は81.4%、男性は71.1%)は、女性の方が10.3ポイント高い。また、「平等になっている」(女性3.9%、男性13.6%)は、男性の方が9.7ポイント高い。

【図表 2-10 参照】

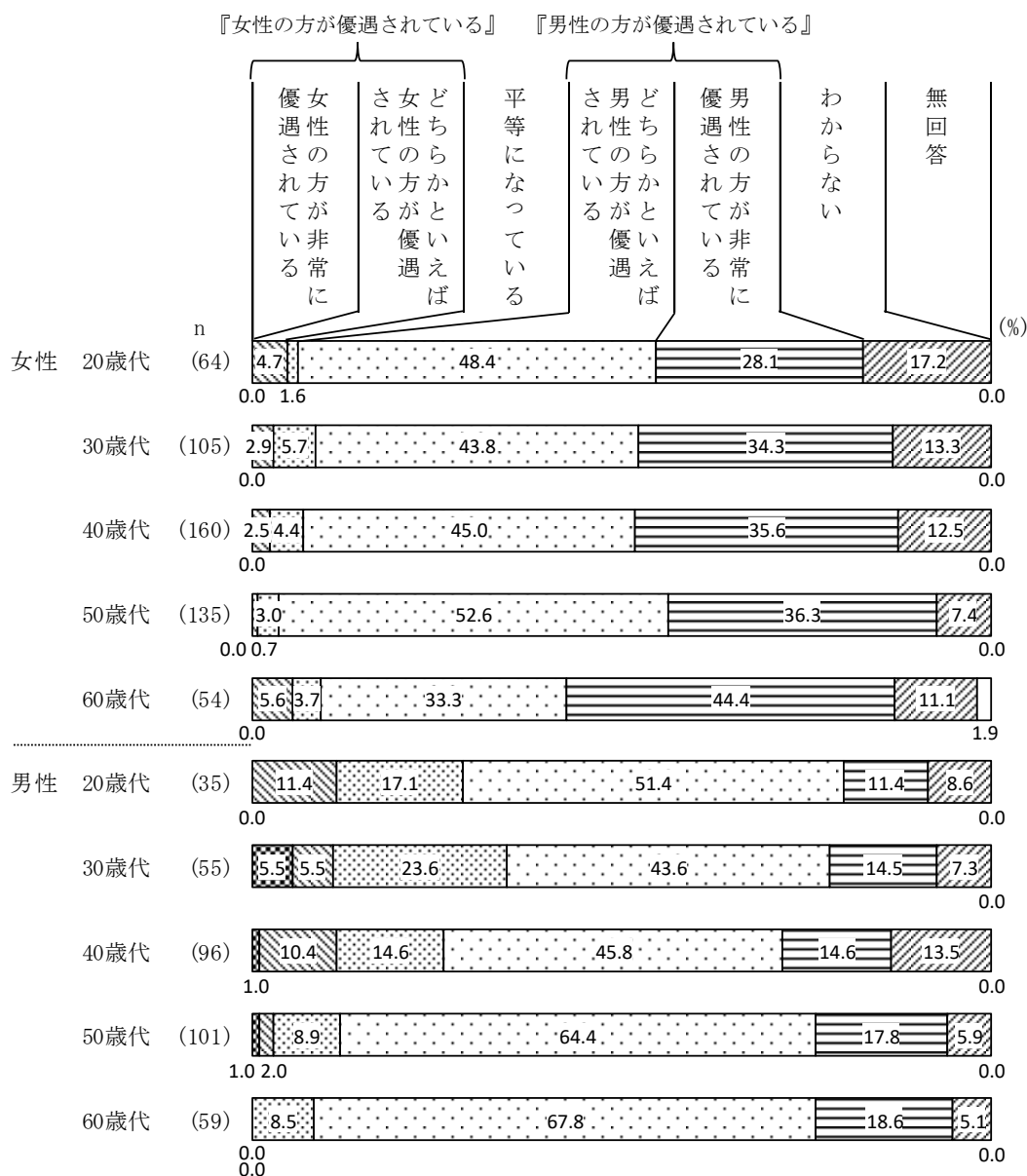
図表 2-10 各分野の男女の地位
(E) 社会通念・慣習・しきたりなどで (全体、性別)



男女それぞれを年代別にみると、「男性の方が非常に優遇されている」は、女性では60歳代（44.4%）が最も高く、20歳代（28.1%）が最も低い。一方、男性では60歳代（18.6%）が最も高く、また、参考値であるが20歳代（11.4%）が最も低い。さらに、『男性の方が優遇されている』は、女性の50歳代（88.9%）が最も高く、男性の30歳代（58.1%）が最も低い。一方、「平等になっている」は、男性の30歳代（23.6%）が最も高く、女性の20歳代（1.6%）が最も低い。

【図表 2-11 参照】

図表 2-11 各分野の男女の地位
(E) 社会通念・慣習・しきたりなどで (性・年代別)



(3) 性別役割分担意識

問3 あなたは、「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について、どのように思いますか。あてはまる番号に1つ○をつけてください。

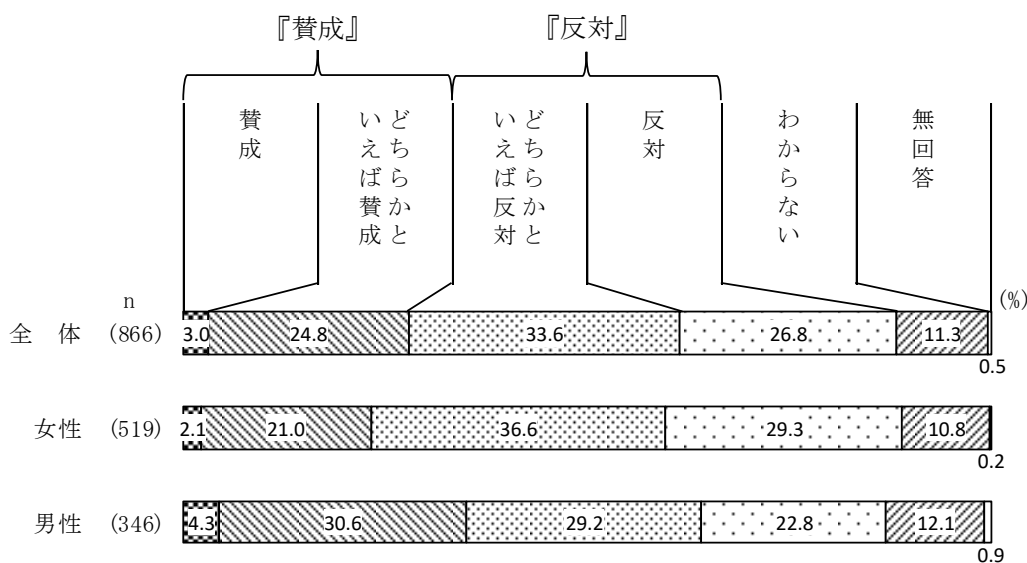
『反対』は全体の約6割。女性の2割以上、男性の3割半が『賛成』。

全体では、「賛成」、「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成』は27.8%である。一方、「どちらかといえば反対」、「反対」を合わせた『反対』は60.4%となっており、『反対』の方が32.6ポイント高い。

性別で見ると、『賛成』は女性が23.1%、男性が34.9%で、男性の方が11.8ポイント高い。また、『反対』は女性が65.9%、男性が52.0%で、女性の方が13.9ポイント高い。

【図表 3-1 参照】

図表 3-1 性別役割分担について (全体、性別)

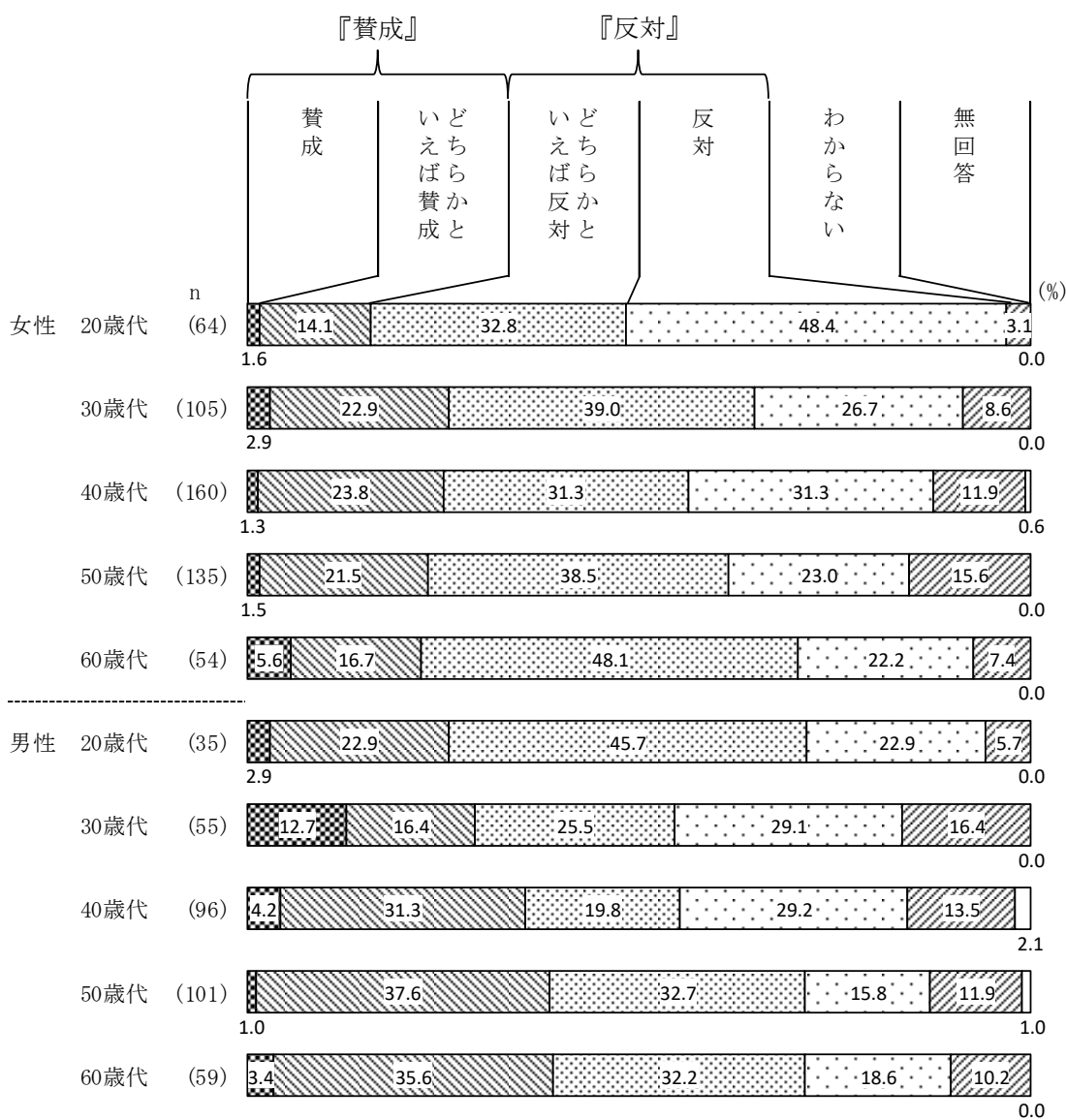


男女それぞれを年代別にみると、女性では、『賛成』は30歳代(25.8%)が最も高い。次いで40歳代が25.1%、50歳代が23.0%、60歳代も22.3%と続き、20歳代が15.7%で最も低い。また、『反対』は20歳代(81.2%)が最も高く、50歳代(61.5%)が最も低い。

一方、男性では、『賛成』は60歳代(39.0%)が最も高く、参考値であるが、20歳代(25.8%)が最も低い。

【図表 3-2 参照】

図表 3-2 性別役割分担について (性・年代別)



2. 地域活動における女性の参画

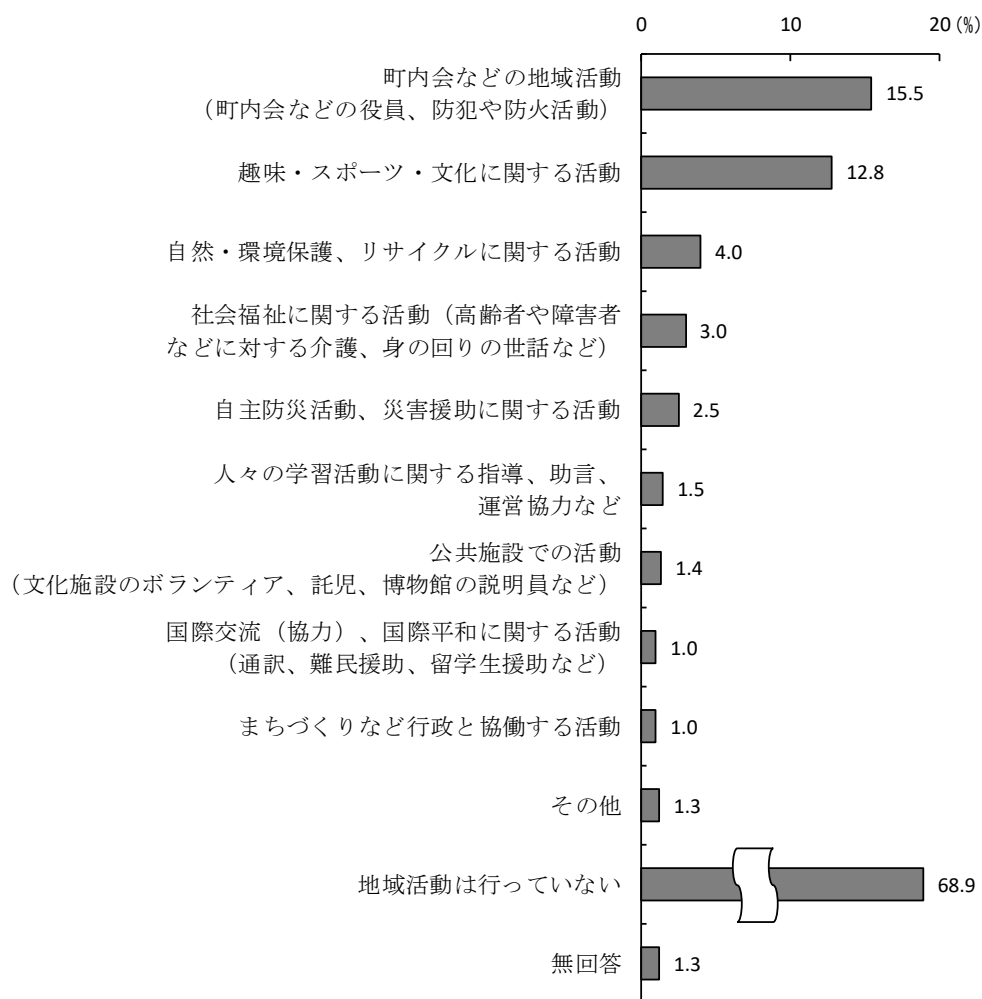
(1) 現在参加している地域活動

問4 あなたは現在、どのような内容の地域活動を行っていますか。あてはまる番号をすべて選んでください。

7割近くが「地域活動は行っていない」と回答。

全体では、「地域活動は行っていない」(68.9%)が最も高い。また、行っている地域活動としては、「町内会などの地域活動(町内会などの役員、防犯や防火活動)」(15.5%)が最も高く、次いで「趣味・スポーツ・文化に関する活動」(12.8%)である。【図表 4-1 参照】

図表 4-1 参加している地域活動の内容 (全体)



性別では、女性、男性とも「地域活動は行っていない」（女性 67.2%、男性 71.7%）が最も高く、女性よりも男性のほうが 4.5 ポイント高い。次いで女性、男性とも「町内会などの地域活動」（女性 17.0%、男性 13.3%）である。

男女それぞれを年代別にみると、「地域活動は行っていない」は女性の 20 歳代（85.9%）が最も高い。また、「町内会などの地域活動」は、男性では 60 歳代で 20.3%、女性では 40 歳代で 20.0%がそれぞれ最も高い。反対に、参考値であるが男性の 20 歳代が 0.0%、女性の 20 歳代が 1.6%とそれぞれ最も低い。

【図表 4-2 参照】

図表 4-2 参加している地域活動の内容（性・年代別）

		防犯や町内会などの地域活動	町内会などの地域活動	趣味・スポーツ・文化に関する活動	自然・環境保護、リサイクルに関する活動	社会福祉に関する活動（高齢者や障害者などに対する介護、身の回りの世話など）	自主防災活動、災害援助に関する活動	人々の学習活動に関する指導、助言、運営協力など	託児、博物館の説明員など	公共施設での活動（文化施設のボランティア、留學生援助など）	国際交流（協力）、国際平和に関する活動（通訳、難民援助、行政と協働する活動）	まちづくりなど	その他	地域活動は行っていない	無回答
合計 (n=866)															
女性	女性合計 (519)	17.0	12.5	4.6	3.7	1.7	1.5	1.3	1.3	0.4	1.7	67.2	1.2		
	20歳代 (64)	1.6	10.9	1.6	1.6	1.6	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	85.9	1.6		
	30歳代 (105)	19.0	11.4	4.8	3.8	2.9	2.9	1.0	2.9	1.9	2.9	67.6	1.9		
	40歳代 (160)	20.0	11.9	5.0	2.5	1.3	2.5	0.6	1.3	0.0	1.9	64.4	1.9		
	50歳代 (135)	19.3	10.4	7.4	3.7	2.2	0.7	3.0	0.0	0.0	1.5	66.7	0.0		
	60歳代 (54)	16.7	24.1	0.0	9.3	0.0	0.0	1.9	1.9	0.0	1.9	53.7	0.0		
男性	男性合計 (346)	13.3	13.0	3.2	2.0	3.8	1.4	1.4	0.6	2.0	0.6	71.7	1.4		
	20歳代 (35)	0.0	5.7	2.9	2.9	2.9	0.0	2.9	0.0	2.9	0.0	82.9	2.9		
	30歳代 (55)	5.5	10.9	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	81.8	1.8		
	40歳代 (96)	12.5	17.7	5.2	3.1	4.2	1.0	0.0	1.0	3.1	0.0	69.8	1.0		
	50歳代 (101)	18.8	7.9	2.0	1.0	5.0	2.0	2.0	0.0	1.0	1.0	70.3	2.0		
	60歳代 (59)	20.3	20.3	5.1	1.7	5.1	3.4	3.4	1.7	3.4	1.7	61.0	0.0		

(2) 地域活動のきっかけ

問5 <問4で、1～10を選んだ方にお聞きします。>

あなたが活動を始めたきっかけは何ですか。あてはまる番号をすべて選んでください。

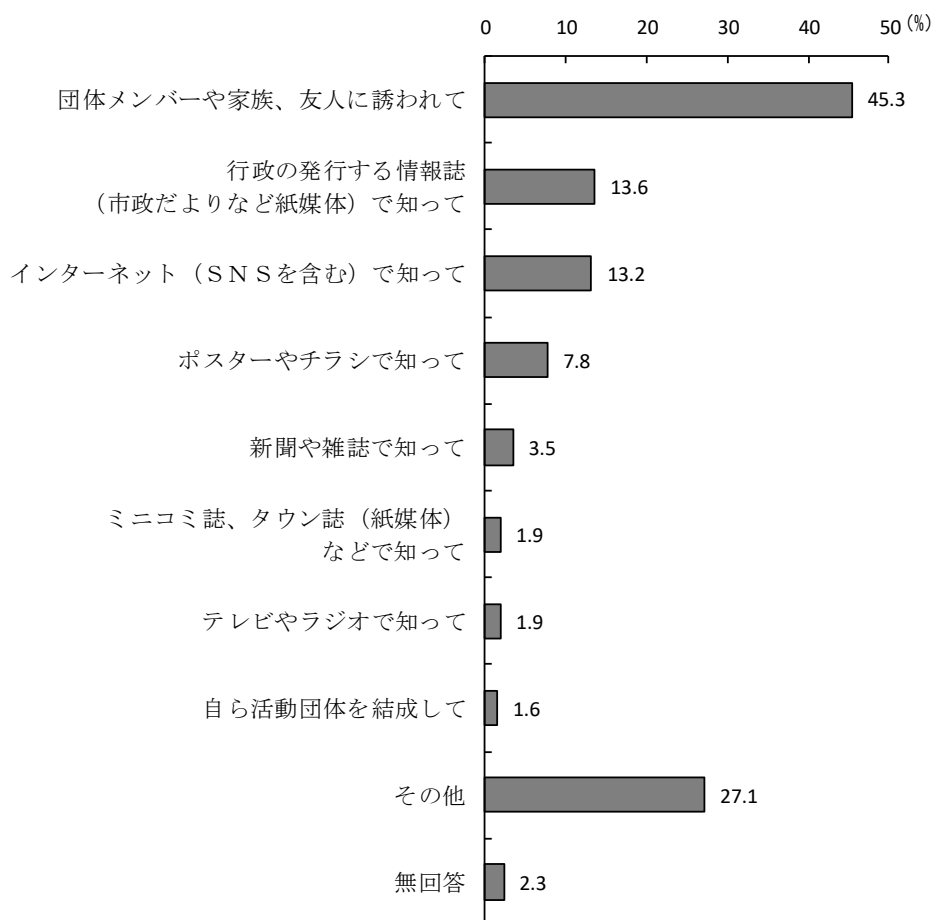
4割半が「団体メンバーや家族、友人に誘われて」と回答。

問4でいずれかの地域活動を行っている人（258人）に、活動を始めたきっかけをたずねたところ、**全体**では、「団体メンバーや家族、友人に誘われて」（45.3%）が最も高い。次いで「行政の発行する情報誌（市政だよりなど紙媒体）で知って」（13.6%）、「インターネット（SNSを含む）で知って」（13.2%）と続く。

なお、「その他」が27.1%と非常に高くなっているが、具体的な記述を確認すると、「当番制」や「順番に回ってくる」という趣旨が40.0%を占めており、その趣旨の回答者は、全員が問4で「町内会などの地域活動」を選択している。

【図表 5-1 参照】

図表 5-1 地域活動のきっかけ（全体）



(3) 今後の地域活動への参加

問6 <すべての方にお聞きします。>

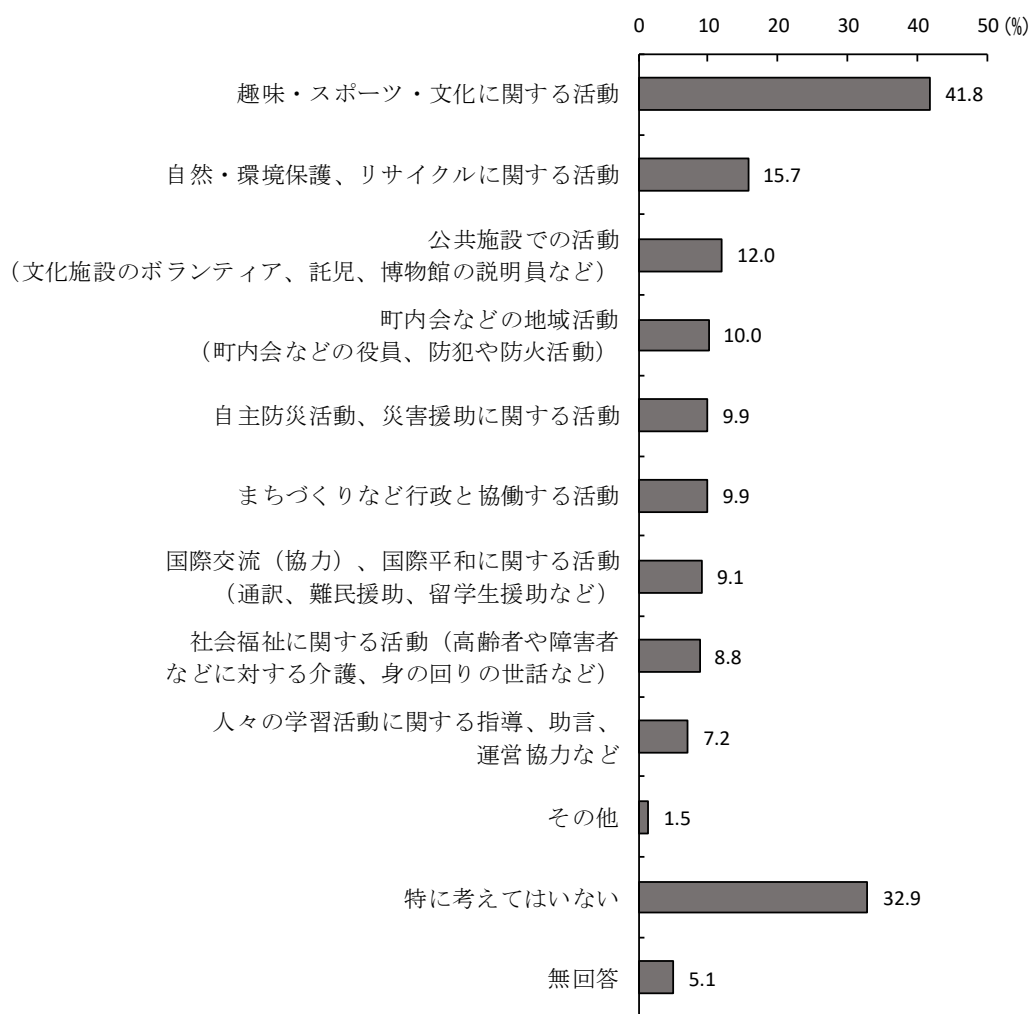
あなたは今後、仕事以外で、どのような活動を行いたい、または、続けたいと思いますか。あてはまる番号をすべて選んでください。

「趣味・スポーツ・文化に関する活動」が最も高く4割以上。

全体では、「趣味・スポーツ・文化に関する活動」(41.8%)が最も高い。次いで「特に考えてはいない」(32.9%)、「自然・環境保護、リサイクルに関する活動」(15.7%)と続く。

【図表 6-1 参照】

図表 6-1 今後の地域活動参加 (全体)

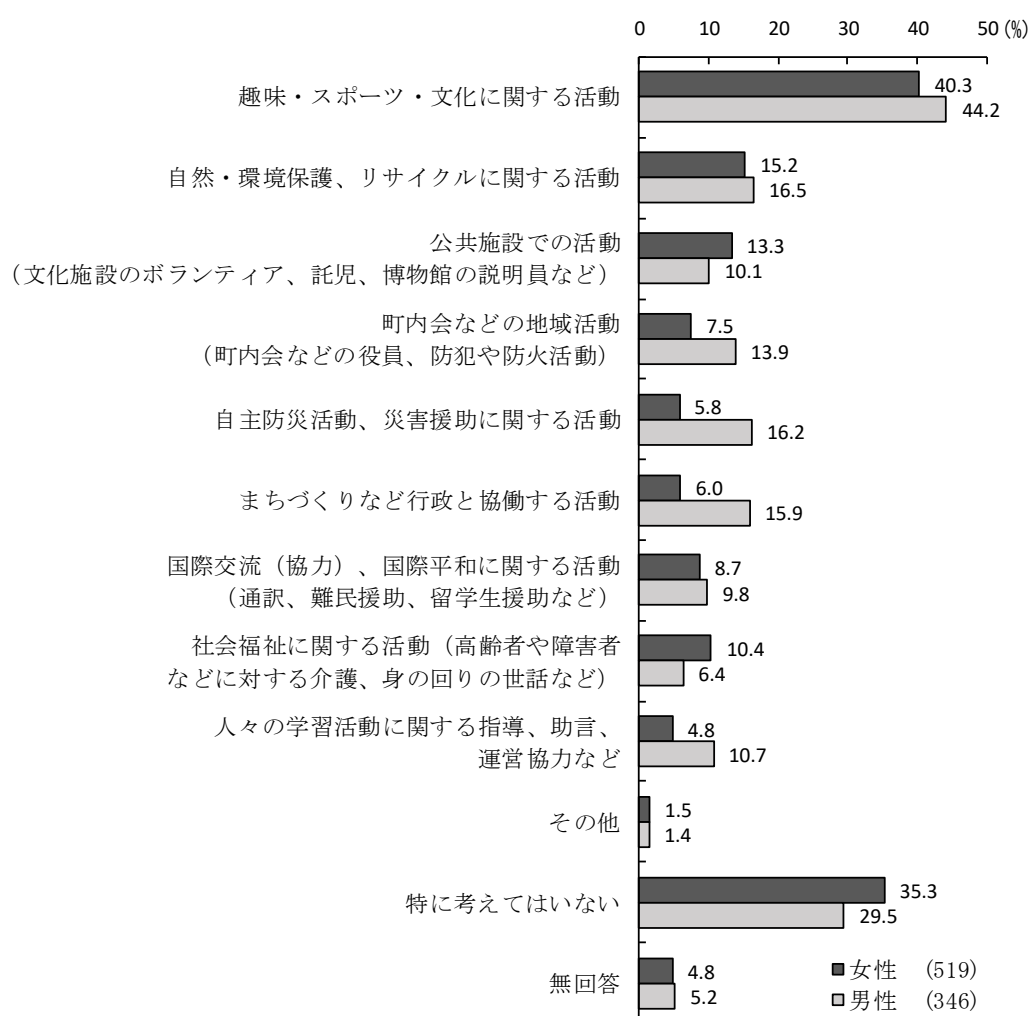


性別でみると、女性、男性とも「趣味・スポーツ・文化に関する活動」（女性 40.3%、男性 44.2%）が最も高い。次いで、女性、男性とも「特に考えてはいない」（女性 35.3%、男性 29.5%）が2番目で、さらに女性、男性とも、「自然・環境保護、リサイクルに関する活動」（女性 15.2%、男性 16.5%）が3番目に高い。

また、「自主防災活動、災害援助に関する活動」は男性の方が 10.4 ポイント高く、「まちづくりなど行政と協働する活動」も男性の方が 9.9 ポイント高い。

【図表 6-2 参照】

図表 6-2 今後の地域活動参加（性別）



男女それぞれを年代別にみると、女性の40歳代以外のすべての性・年代で「趣味・スポーツ・文化に関する活動」が最も高い回答となり、とりわけ女性の20歳代が56.3%である。一方、女性の40歳代では「特に考えてはいない」(41.9%)が最も高い回答になった。

【図表 6-3 参照】

図表 6-3 今後の地域活動参加 (性・年代別)

		文 趣 味 に 関 ス ポ ー ツ ・ 活 動	自 然 ・ 環 境 保 護 、 リ サ イ ク ル に 関 ス る 活 動	託 児 ・ 博 物 館 の 説 明 員 な ど ()	公 共 施 設 の 活 動 (文 化 博 物 館 の ボ ラ ン テ ィ ア 、)	防 犯 や 防 火 活 動 ()	町 内 会 な ど の 地 域 活 動 ()	災 害 援 助 に 関 ス る 活 動	自 主 防 災 活 動 、 災 害 援 助 に 関 ス る 活 動	行 政 と 協 働 す る 活 動	ま ち づ く り な ど の 活 動	留 学 生 援 助 な ど ()	国 際 交 流 (通 訳 、 留 学 生 援 助 、)	国 際 交 流 (通 訳 、 留 学 生 援 助 、)	介 護 、 身 の 回 り の 世 話 な ど ()	社 会 福 祉 に 関 ス る 活 動 (高 齢 者 や 障 害 者 な ど に 対 ス る)	指 導 、 助 言 、 運 営 協 力 な ど	人 々 の 学 習 活 動 に 関 ス る 活 動	そ の 他	特 に 考 え て は い な い	無 回 答			
合計 (n=866)																								
女性	女性合計 (519)	40.3	15.2	13.3	7.5	5.8	6.0	8.7	10.4	4.8	1.5	35.3	4.8											
	20歳代 (64)	56.3	18.8	12.5	3.1	4.7	7.8	15.6	6.3	4.7	0.0	26.6	3.1											
	30歳代 (105)	41.0	12.4	9.5	8.6	6.7	8.6	11.4	7.6	4.8	1.9	34.3	2.9											
	40歳代 (160)	31.9	13.8	10.6	6.3	8.1	5.6	8.8	10.0	6.3	0.6	41.9	5.6											
	50歳代 (135)	40.7	16.3	15.6	8.9	4.4	4.4	4.4	13.3	3.0	3.0	34.1	5.9											
	60歳代 (54)	44.4	18.5	24.1	11.1	1.9	3.7	5.6	14.8	5.6	1.9	29.6	5.6											
男性	男性合計 (346)	44.2	16.5	10.1	13.9	16.2	15.9	9.8	6.4	10.7	1.4	29.5	5.2											
	20歳代 (35)	42.9	8.6	2.9	8.6	5.7	11.4	5.7	2.9	0.0	2.9	31.4	5.7											
	30歳代 (55)	45.5	9.1	0.0	7.3	9.1	5.5	7.3	3.6	12.7	1.8	32.7	7.3											
	40歳代 (96)	43.8	15.6	7.3	10.4	14.6	17.7	8.3	8.3	5.2	0.0	32.3	6.3											
	50歳代 (101)	41.6	20.8	18.8	19.8	21.8	18.8	13.9	6.9	15.8	3.0	28.7	4.0											
	60歳代 (59)	49.2	22.0	13.6	18.6	22.0	20.3	10.2	6.8	15.3	0.0	22.0	3.4											

(4) 地域活動に参加しやすい環境

問7 あなたは地域の活動に参加しやすい環境にいると思いますか。あてはまる番号を1つ選んでください。

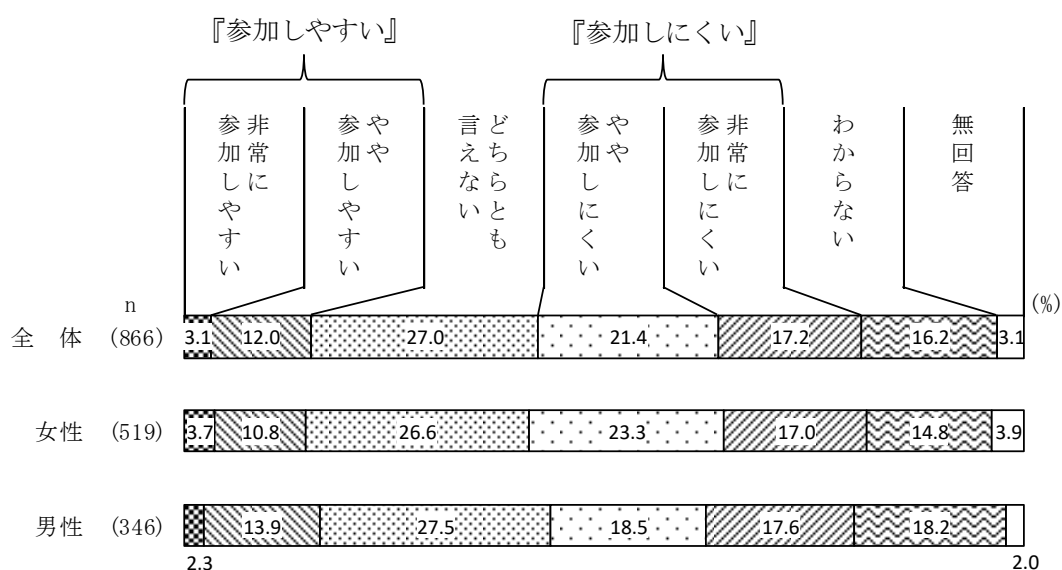
4割近くが『参加しにくい』と回答。

全体では、「非常に参加しやすい」と「やや参加しやすい」を合わせた『参加しやすい』は15.1%である。一方、「やや参加しにくい」と「非常に参加しにくい」を合わせた『参加しにくい』は38.6%である。また、「どちらとも言えない」は27.0%である。

性別では、『参加しにくい』は女性が40.3%、男性が36.1%と、女性の方が4.2ポイント高くなっている。

【図表 7-1 参照】

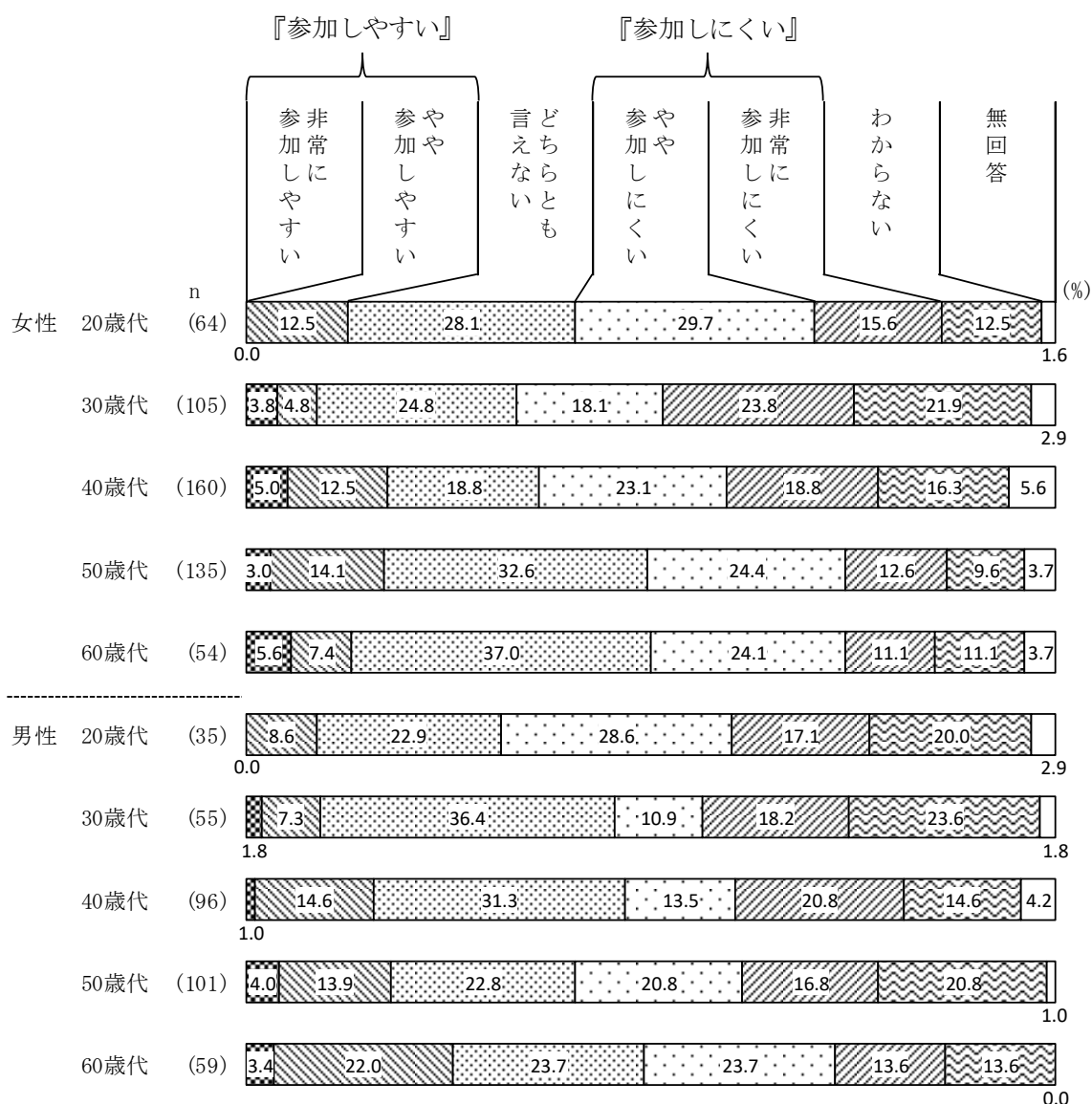
図表 7-1 地域活動に参加しやすい環境 (全体、性別)



男女それぞれを年代別にみると、女性では、『参加しやすい』が40歳代(17.5%)で最も高く、30歳代(8.6%)で最も低い。また、『参加しにくい』は、20歳代(45.3%)で最も高く、60歳代(35.2%)で最も低い。一方、男性では、『参加しやすい』が60歳代(25.4%)で最も高く、『参加しにくい』は、50歳代で37.6%である。

【図表 7-2 参照】

図表 7-2 地域活動に参加しやすい環境 (性・年代別)



(5) 地域活動に参加しない、又は参加しづらい理由

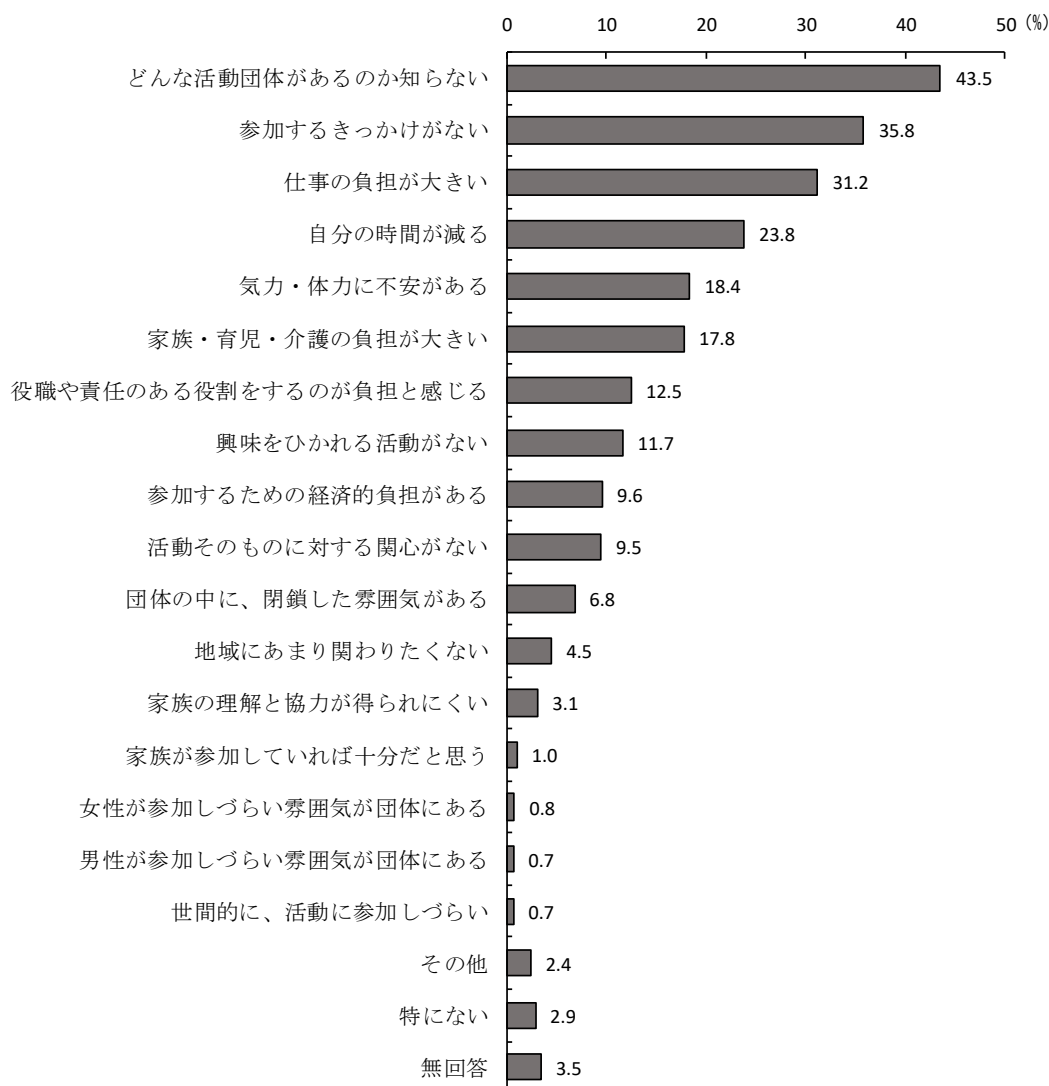
問8 あなたが地域活動やNPOなどに参加する際に、支障になると思うことは何ですか。または、それらの活動に参加しない理由は何ですか。以下から、特にあてはまる番号を3つまで選んでください。

(「13. 女性が参加しづらい雰囲気が団体にある」は女性のみ、「14. 男性が参加しづらい雰囲気が団体にある」は男性のみが選ぶことができます。)

「どんな活動団体があるのか知らない」が4割以上で最も高い。

全体でみると、「どんな活動団体があるのか知らない」(43.5%)が最も高い。次いで「参加するきっかけがない」(35.8%)、さらに「仕事の負担が大きい」(31.2%)と続く。【図表 8-1 参照】

図表 8-1 地域活動に参加しない、又は参加しづらい理由 (全体)



性別では、女性、男性とも「どんな活動団体があるのか知らない」（女性 41.2%、男性 46.8%）が最も高い。次いで、女性では「参加するきっかけがない」（35.6%）、男性では「仕事の負担が大きい」（39.6%）が2番目に高い。

男女それぞれを年代別にみると、「家族・育児・介護の負担が大きい」は、女性の30歳代（43.8%）で最も高い。また、女性の60歳代では「気力・体力に不安がある」（44.4%）が最も高い。一方、「仕事の負担が大きい」をみると、男性の30歳代で45.5%、40歳代で43.8%である。 【図表 8-2 参照】

図表 8-2 地域活動に参加しない、又は参加しづらい理由（性・年代別）

		(%)											
合計 (n=866)		知らない活動団体	参加するきっかけがない	仕事の負担が大きい	自分の時間が減る	気力が体力に不安がある	介護の負担が大きい	家族・育児・介護の負担が大きい	役割や責任を感じる	興味がない	経済的負担がある	参加する目的がない	活動そのものに関心がない
女性	女性合計 (519)	41.2	35.6	25.4	23.9	22.0	26.0	11.6	10.8	8.9	9.2		
	20歳代 (64)	50.0	50.0	29.7	35.9	12.5	9.4	7.8	14.1	7.8	17.2		
	30歳代 (105)	43.8	36.2	25.7	28.6	16.2	43.8	4.8	13.3	7.6	11.4		
	40歳代 (160)	40.0	27.5	27.5	25.6	19.4	27.5	15.6	8.1	10.6	5.6		
	50歳代 (135)	40.7	37.8	24.4	19.3	25.2	20.0	14.1	10.4	7.4	8.1		
	60歳代 (54)	31.5	37.0	14.8	7.4	44.4	20.4	11.1	9.3	11.1	9.3		
男性	男性合計 (346)	46.8	36.1	39.6	23.7	13.0	5.5	13.9	13.0	10.7	9.5		
	20歳代 (35)	62.9	60.0	17.1	34.3	8.6	2.9	14.3	17.1	17.1	14.3		
	30歳代 (55)	45.5	36.4	45.5	30.9	9.1	3.6	7.3	18.2	5.5	9.1		
	40歳代 (96)	42.7	27.1	43.8	20.8	10.4	11.5	15.6	9.4	11.5	8.3		
	50歳代 (101)	48.5	33.7	40.6	21.8	13.9	3.0	11.9	9.9	11.9	12.9		
	60歳代 (59)	42.4	40.7	39.0	18.6	22.0	3.4	20.3	16.9	8.5	3.4		
合計 (n=866)		知らない活動団体がある	関わりがなくなる	地域に協力が得られにくい	家族の負担が大きい	家族の参加が難しい	気力が体力に不安がある	介護の負担が大きい	役割や責任を感じる	興味がない	経済的負担がある	参加する目的がない	活動そのものに関心がない
女性	女性合計 (519)	5.2	4.6	4.4	0.8	1.3	0.0	0.2	1.9	2.3	4.0		
	20歳代 (64)	6.3	6.3	0.0	1.6	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	30歳代 (105)	3.8	1.9	1.9	1.0	2.9	0.0	1.0	3.8	0.0	2.9		
	40歳代 (160)	6.3	4.4	8.8	0.0	0.6	0.0	0.0	1.9	2.5	6.9		
	50歳代 (135)	5.9	5.9	3.7	0.7	1.5	0.0	0.0	1.5	3.0	4.4		
	60歳代 (54)	1.9	5.6	3.7	1.9	0.0	0.0	0.0	1.9	7.4	1.9		
男性	男性合計 (346)	9.2	4.3	1.2	1.4	0.0	1.7	1.4	3.2	3.8	2.6		
	20歳代 (35)	2.9	5.7	0.0	0.0	0.0	2.9	2.9	0.0	0.0	2.9		
	30歳代 (55)	5.5	9.1	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0	7.3	3.6	1.8		
	40歳代 (96)	12.5	5.2	1.0	0.0	0.0	0.0	2.1	2.1	6.3	5.2		
	50歳代 (101)	6.9	2.0	1.0	3.0	0.0	3.0	2.0	4.0	4.0	2.0		
	60歳代 (59)	15.3	1.7	3.4	3.4	0.0	1.7	0.0	1.7	1.7	0.0		

(6) 地域活動における方針・意思決定する際の影響力

問9 地域活動において、方針や意思、重要事項を決定する際、男女いずれの方が影響力を持っていると思いますか。あてはまる番号を1つ選んでください。

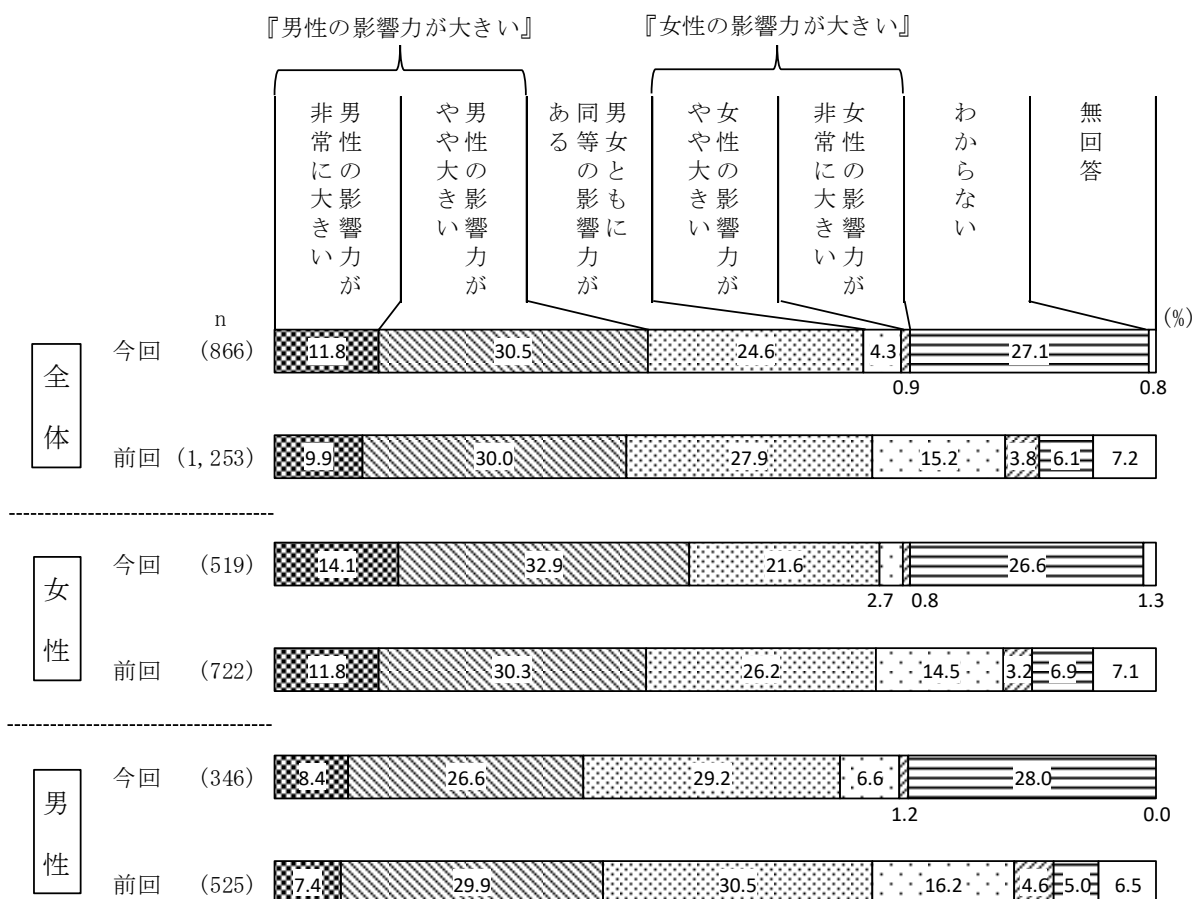
4割以上が『男性の影響力が大きい』と回答。

全体では、「男性の影響力が非常に大きい」と「男性の影響力がやや大きい」を合わせた『男性の影響力が大きい』は42.3%である。また、「女性の影響力がやや大きい」と「女性の影響力が非常に大きい」を合わせた『女性の影響力が大きい』は5.2%である。また、「男女ともに同等の影響力がある」は24.6%である。

性別で見ると、『男性の影響力が大きい』(女性47.0%、男性35.0%)は、女性の方が12.0ポイント高い。一方で、「男女ともに同等の影響力がある」(女性21.6%、男性29.2%)は、男性の方が7.6ポイント高い。

前回調査との比較では、全体の『女性の影響力が大きい』は、前回から13.8ポイント減少した。ただし、前回調査では「地域社会」とたずねていたことから、この経年比較は参考までとする。【図表9-1参照】

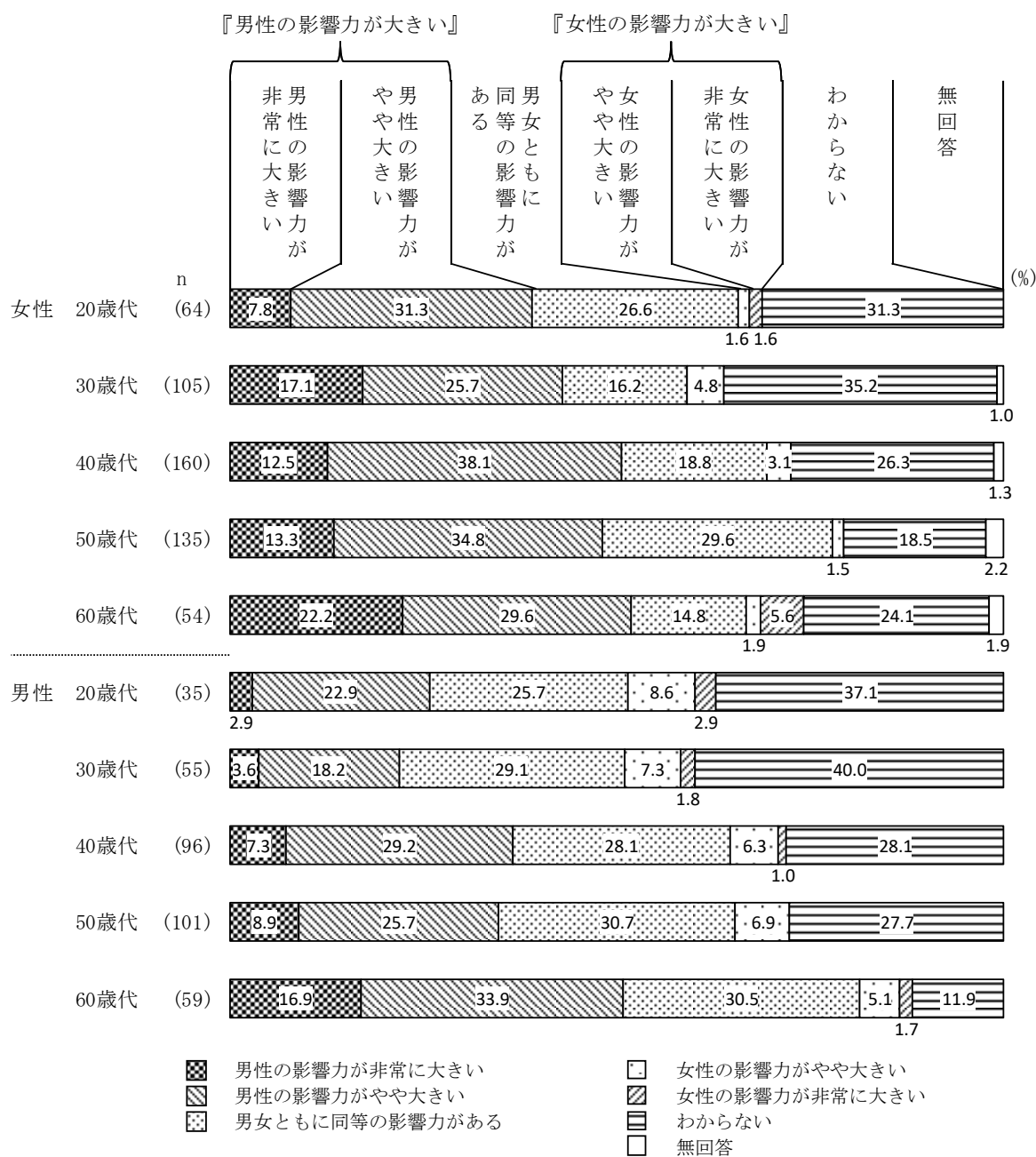
図表9-1 地域活動における方針・意思決定する際の影響力
(全体、性別/経年比較)



男女それぞれを年代別にみると、『男性の影響力が大きい』では、女性の60歳代(51.8%)が最も高い。次いで、男性の60歳代(50.8%)、女性の40歳代(50.6%)と続く。また、「男女ともに同等の影響力がある」では、男性の50歳代(30.7%)が最も高く、女性の60歳代(14.8%)が最も低い。

【図表 9-2 参照】

図表 9-2 地域活動における方針・意思決定する際の影響力 (性・年代別)



※ 回答者が0の項目は0.0と表記せず省略している

(7) 地域活動における方針・意思決定の場に女性の参画が必要だと思う理由

問10 あなたが、地域活動における方針や意思決定の場に、女性の参画が必要だと思うのは、どのような理由からですか。あてはまる番号をすべて選んでください。

「決定される方針などは、女性にも関わることだから」が最も高く、約6割。

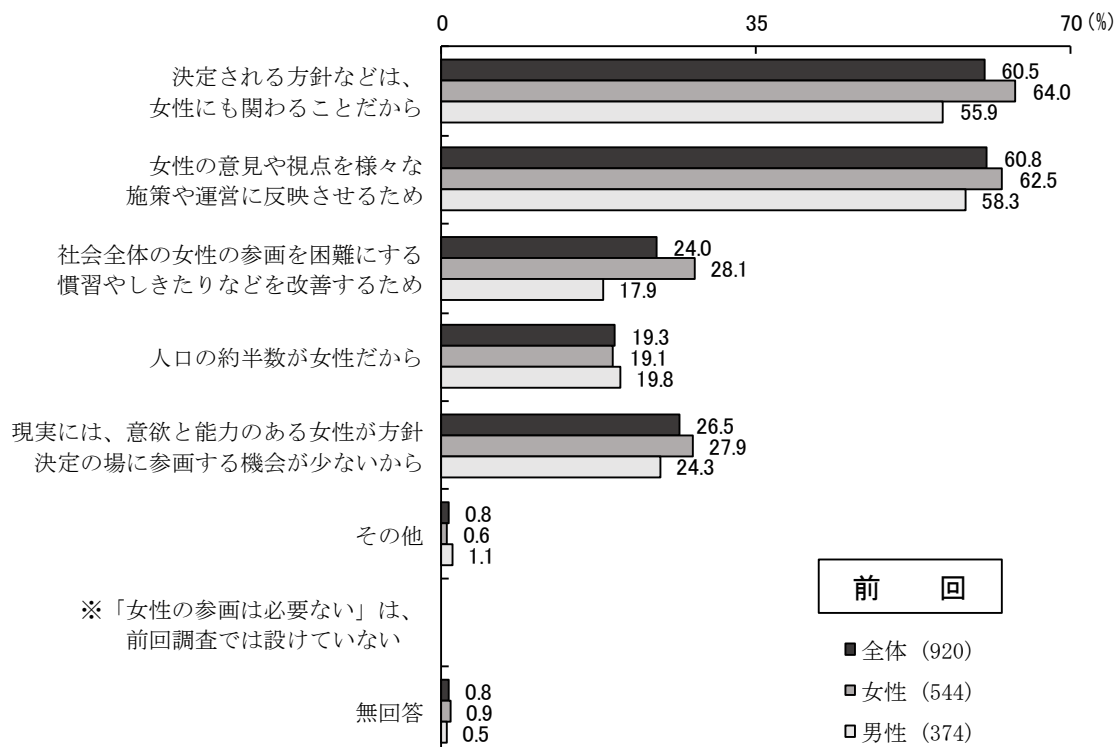
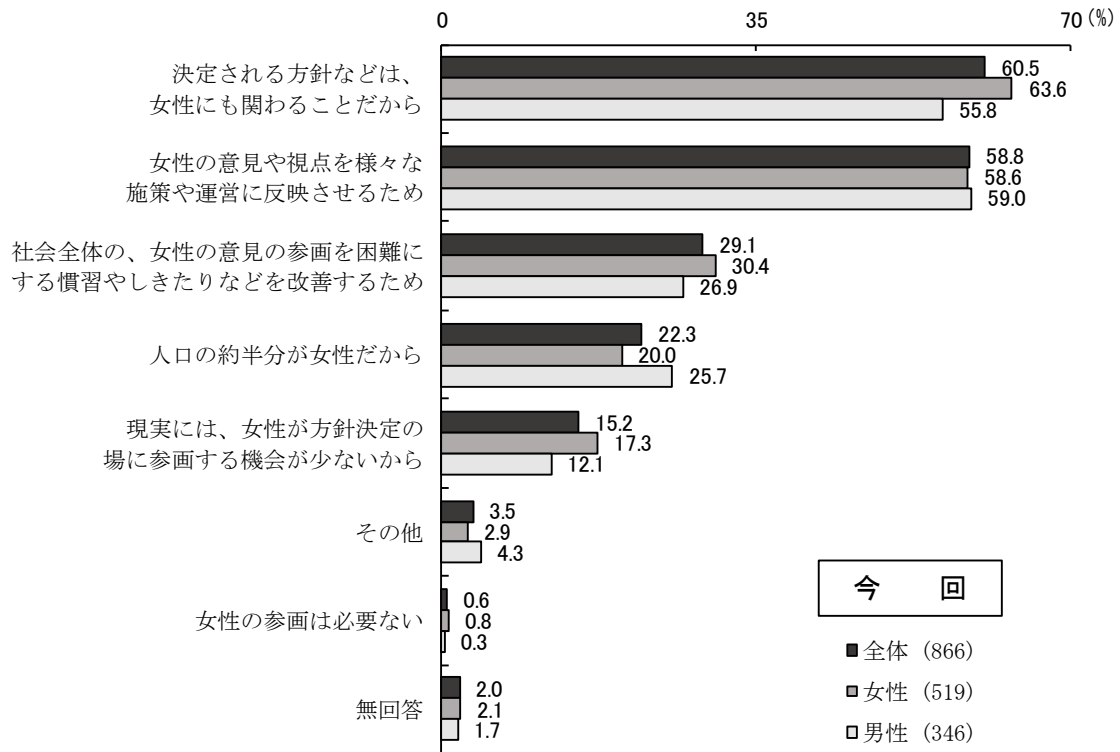
全体でみると、「決定される方針などは、女性にも関わることだから」(60.5%)が最も高い。次いで「女性の意見や視点を様々な施策や運営に反映させるため」(58.8%)である。

性別でみると、女性は「決定される方針などは、女性にも関わることだから」(63.6%)が最も高い。一方、男性は「女性の意見や視点を様々な施策や運営に反映させるため」(59.0%)が最も高い。また、「決定される方針などは、女性にも関わることだから」は、女性の方が7.8ポイント高くなっている。

なお、今回調査のグラフとともに、参考値として、前回調査のグラフを掲載している。前回調査では前問で特定の選択肢を選んだ人を該当者としているうえ、たずねかたも地域活動に限定していないので、今回調査との比較分析は行わない。

【図表 10-1 参照】

図表 10-1 地域活動における方針・意思決定の場に
女性の参画が必要だと思ふ理由（全体、性別／経年比較）



男女それぞれを年代別にみると、「決定される方針などは、女性にも関わることだから」が、女性では、すべての年代で最も高く、20歳代では73.4%である。また、男性では、参考値であるが20歳代(62.9%)、そして30歳代(58.2%)の各年代で最も高い。一方で、「女性の意見や視点を様々な施策や運営に反映させるため」では、男性の40歳代(64.6%)、50歳代(64.4%)、60歳代(64.4%)の各年代で最も高い。

【図表 10-2 参照】

図表 10-2 地域活動における方針・意思決定の場に
女性の参画が必要だと思う理由(性・年代別)

(%)

合計 (n=866)		女性にも関わることだから	女性の意見や運営に反映させるため	社会全体の慣習や意見の改善するため	人口の約半分が女性だから	現実には、女性が方針決定から参画する機会が少ないから	その他	女性の参画は必要ない	無回答
女性	女性合計 (519)	63.6	58.6	30.4	20.0	17.3	2.9	0.8	2.1
	20歳代 (64)	73.4	65.6	40.6	17.2	15.6	0.0	0.0	0.0
	30歳代 (105)	67.6	61.9	29.5	21.0	14.3	4.8	0.0	1.9
	40歳代 (160)	61.9	55.0	26.3	21.3	18.1	1.9	1.9	1.3
	50歳代 (135)	61.5	60.0	32.6	21.5	17.8	3.0	0.7	3.0
	60歳代 (54)	55.6	50.0	25.9	14.8	20.4	5.6	0.0	5.6
男性	男性合計 (346)	55.8	59.0	26.9	25.7	12.1	4.3	0.3	1.7
	20歳代 (35)	62.9	37.1	34.3	25.7	17.1	5.7	0.0	0.0
	30歳代 (55)	58.2	47.3	25.5	27.3	9.1	5.5	0.0	1.8
	40歳代 (96)	50.0	64.6	29.2	28.1	13.5	3.1	1.0	1.0
	50歳代 (101)	56.4	64.4	25.7	25.7	6.9	6.9	0.0	3.0
	60歳代 (59)	57.6	64.4	22.0	20.3	18.6	0.0	0.0	1.7

3. 職場における女性の参画

(1) 女性に対する職業観

問11 あなたは、一般的に、女性が職業を持つことについて、どのようにお考えですか。あてはまる番号を1つ選んでください。

6割以上が出産後も職業を続けるほうがよいと回答。前回から大幅な上昇。

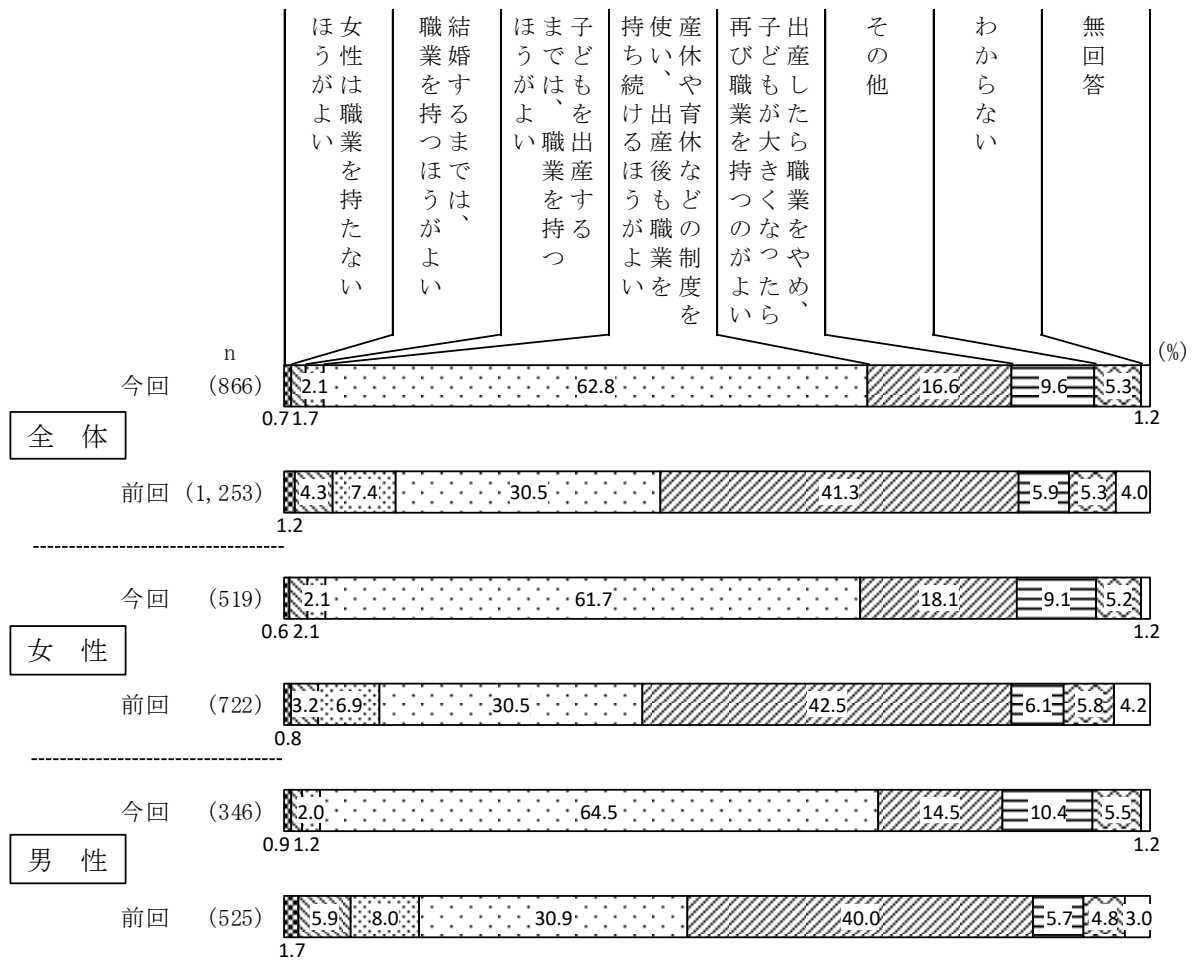
全体では、「産休や育休などの制度を使い、出産後も職業を持ち続けるほうがよい」（以下、出産後も職業を持ち続けるほうがよいと表記）が62.8%と最も高い。次いで「出産したら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つほうがよい」（以下、子どもが大きくなったら再び職業を持つほうがよいと表記）が16.6%、さらに、「子どもを出産するまでは、職業を持つほうがよい」が2.1%、「結婚するまでは、職業を持つほうがよい」が1.7%、「女性は職業を持たないほうがよい」が0.7%と続く。

性別で見ると、「出産後も職業を持ち続けるほうがよい」（女性61.7%、男性64.5%）は、男性の方が2.8ポイント高い。一方、「子どもが大きくなったら再び職業を持つのがよい」（女性18.1%、男性14.5%）は、女性の方が3.6ポイント高い。

前回調査と比較すると、全体では、「出産後も職業を持ち続けるほうがよい」（今回62.8%、前回30.5%）は、前回から32.3ポイント増加した。一方、「子どもが大きくなったら再び職業を持つのがよい」（今回16.6%、前回41.3%）は、前回から24.7ポイント減少した。また、「子どもを出産するまでは、職業を持つほうがよい」（今回2.1%、前回7.4%）についても、前回から5.3%減少した。

【図表 11-1 参照】

図表 11-1 女性に対する職業観 (全体、性別/経年比較)

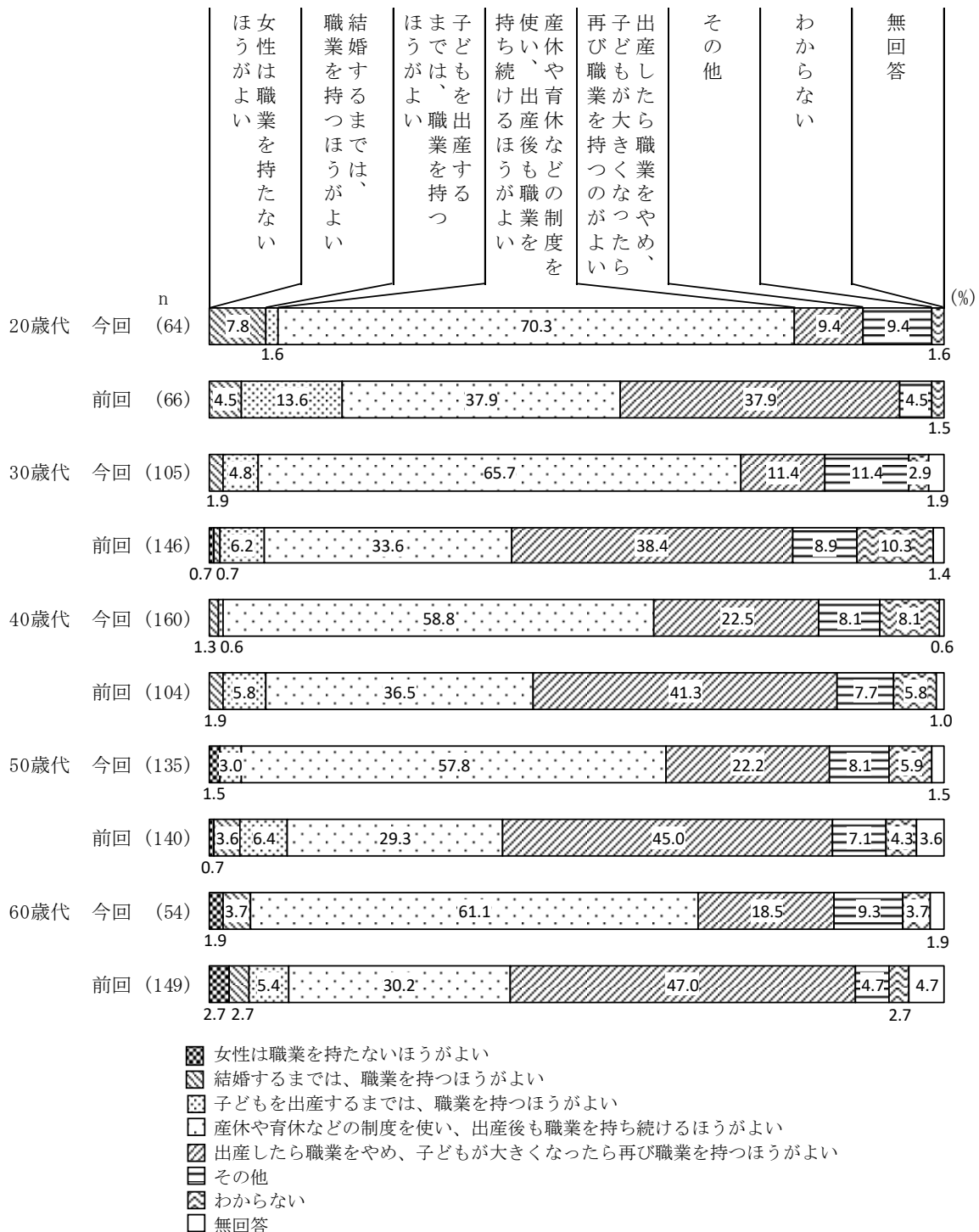


男女それぞれを年代別にみると、「出産後も職業を続けるほうがよい」は、女性の 20 歳代 (70.3%) が男女を通じて最も高く、反対に、最も低いのは女性の 50 歳代 (57.8%) である。

前回調査と比較すると、「出産後も職業を続けるほうがよい」では、女性の 20 歳代 (今回 70.3%、前回 37.9%) が前回から 32.4 ポイント増加した。さらに、「子どもが大きくなったら再び職業を持つのがよい」では、女性の 20 歳代 (今回 9.4%、前回 37.9%) と 60 歳代 (今回 18.5%、前回 47.0%) が前回から 28.5 ポイント減少した。

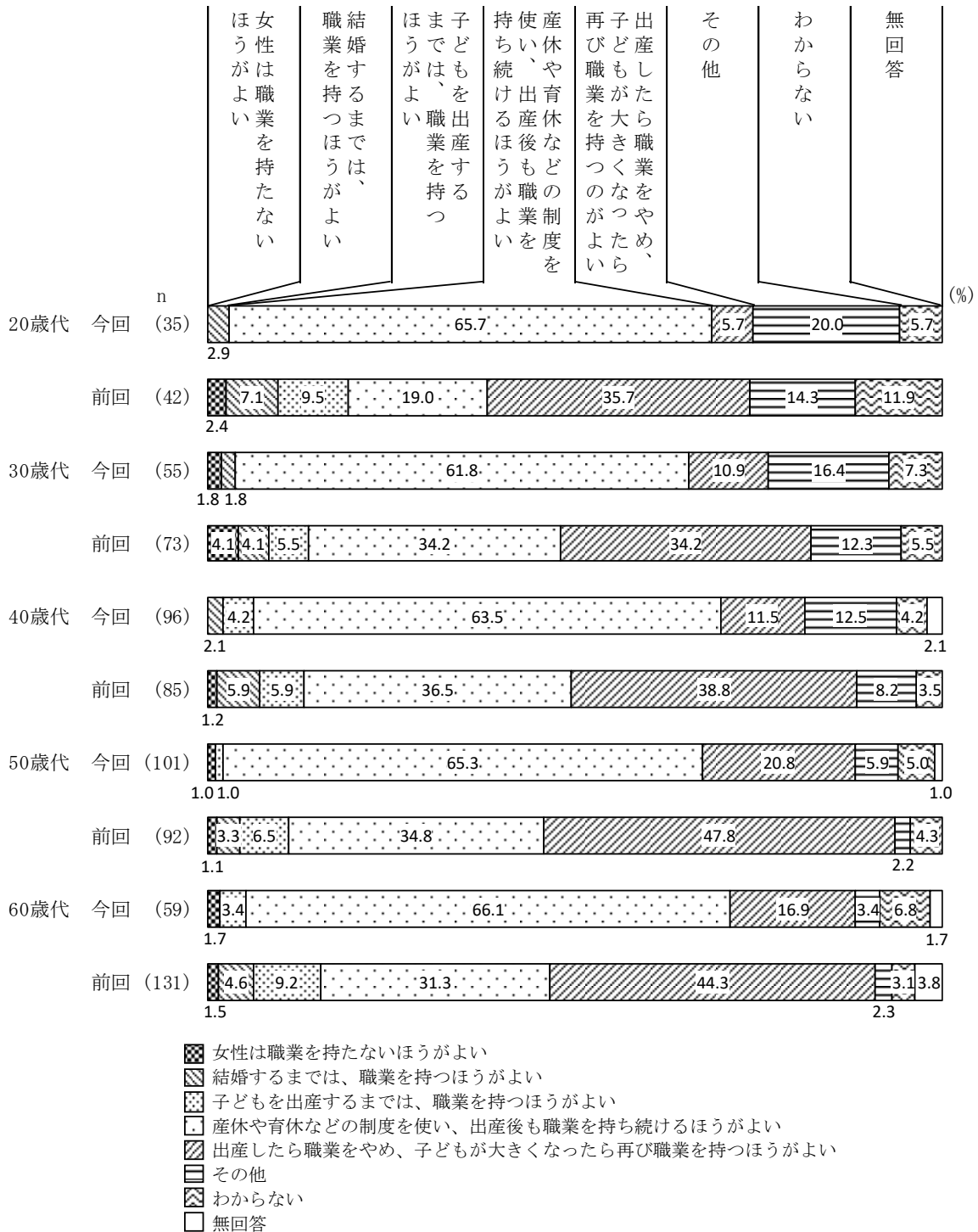
【図表 11-2 11-3 参照】

図表 11-2 女性に対する職業観【女性】 (年代別/経年比較)



※ 回答者が0の項目は0.0と表記せず省略している

図表 11-3 女性に対する職業観【男性】 (年代別/経年比較)



※ 回答者が0の項目は0.0と表記せず省略している

(2) 職場内の性別による差別的待遇の有無

問12 <1ページのF3で1～7、10を選んだ方にお聞きします。>

(1) あなたの今の職場では、性別によって扱いに差があると思いますか。あてはまる番号を1つ選んでください。

5割以上が「性別によって差はない」と回答。

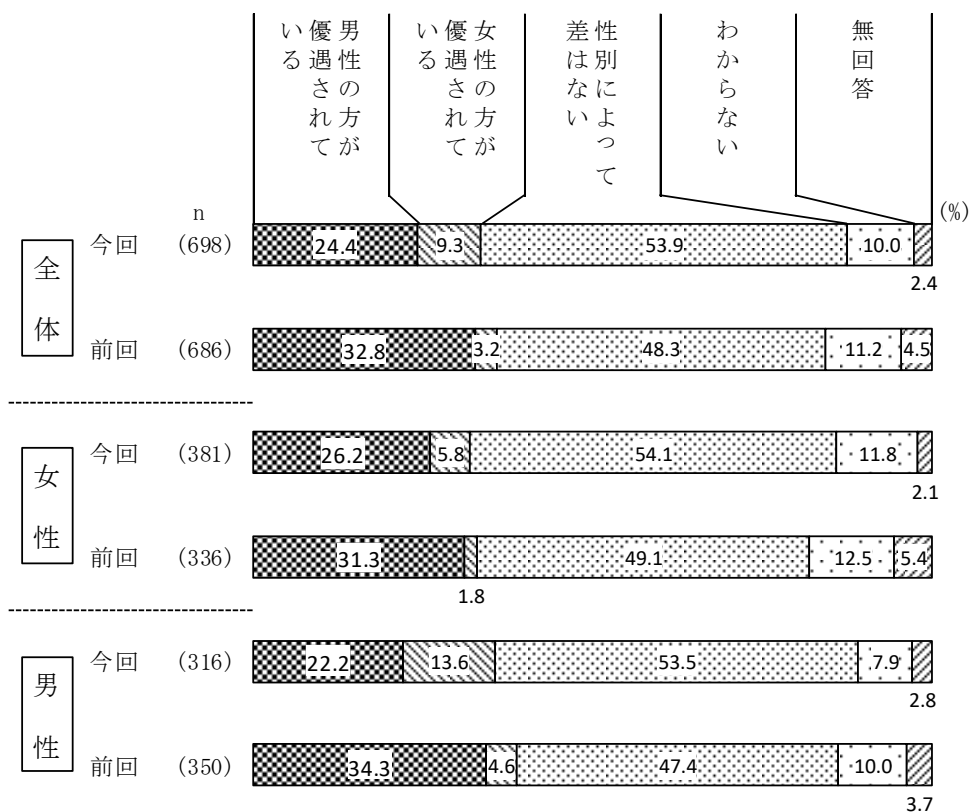
現在、仕事に就いている人（698人）に性別による扱いの差の有無をたずねたところ、全体では、「男性の方が優遇されている」は24.4%、「女性の方が優遇されている」は9.3%である。そして、「性別によって差はない」が53.9%で最も高い。

性別では、「男性の方が優遇されている」（女性26.2%、男性22.2%）は、女性の方が4.0ポイント高い。

前回調査と比較すると、「性別によって差はない」は、女性では5.0ポイント増加し、男性では6.1ポイント増加した。

【図表 12-1-1 参照】

図表 12-1-1 職場内の性別による差別的待遇の有無（全体、性別／経年比較）



(3) 職場内の性別による差別的待遇の具体的内容

問12 <問12(1)で1、2を選んだ方にお聞きします。>

(2) 扱いに差があると思うのは具体的にどのようなことですか。あてはまる番号をすべて選んでください。

女性では「管理職への登用」と「昇進・昇格」が5割近く。

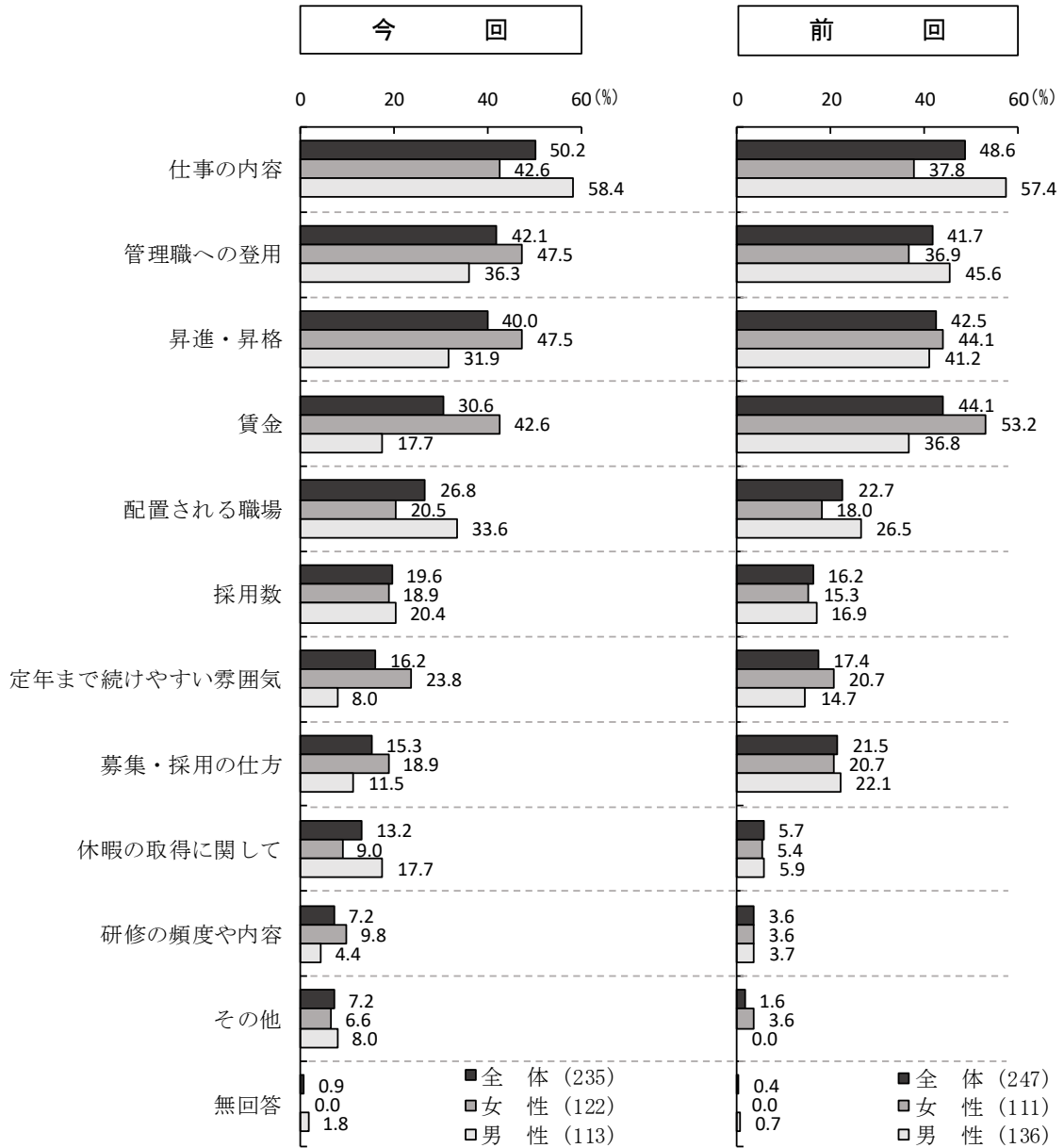
問12(1)で「男性の方が優遇されている」または、「女性の方が優遇されている」と回答した人(235人)に具体的な内容をたずねたところ、**全体**では、「仕事の内容」(50.2%)が最も高い。次いで「管理職への登用」(42.1%)、「昇進・昇格」(40.0%)である。

性別で見ると、「仕事の内容」(女性42.6%、男性58.4%)は、男性の方が15.8ポイント高く、また、「管理職への登用」(女性47.5%、男性36.3%)は、女性の方が11.2ポイント高い。さらに、「賃金」(女性42.6%、男性17.7%)は、女性の方が24.9ポイント高い。また、男性では「仕事の内容」(58.4%)が最も高いのに対し、女性では「管理職への登用」と「昇進・昇格」(いずれも47.5%)が最も高い。

前回調査と比較すると、「管理職への登用」は、女性は前回から10.6ポイント増加し、反対に男性は9.3ポイント減少した。また、「賃金」は、全体では前回から13.5ポイント減少している。

【図表12-2-1参照】

図表 12-2-1 職場内の性別による差別的待遇の具体的内容
(全体、性別/経年比較)



(4) 男性を優遇する差別的待遇が生じる理由

問12 <問12(1)で1を選んだ方にお聞きします。>

(3) あなたは、職場において男性との扱いに差が生じることがあるのは、どのような理由だと思いますか。特にあてはまる番号を3つまで選んでください。

「組織が男性中心の運営にかたよりがちだから」が最も高く5割半。

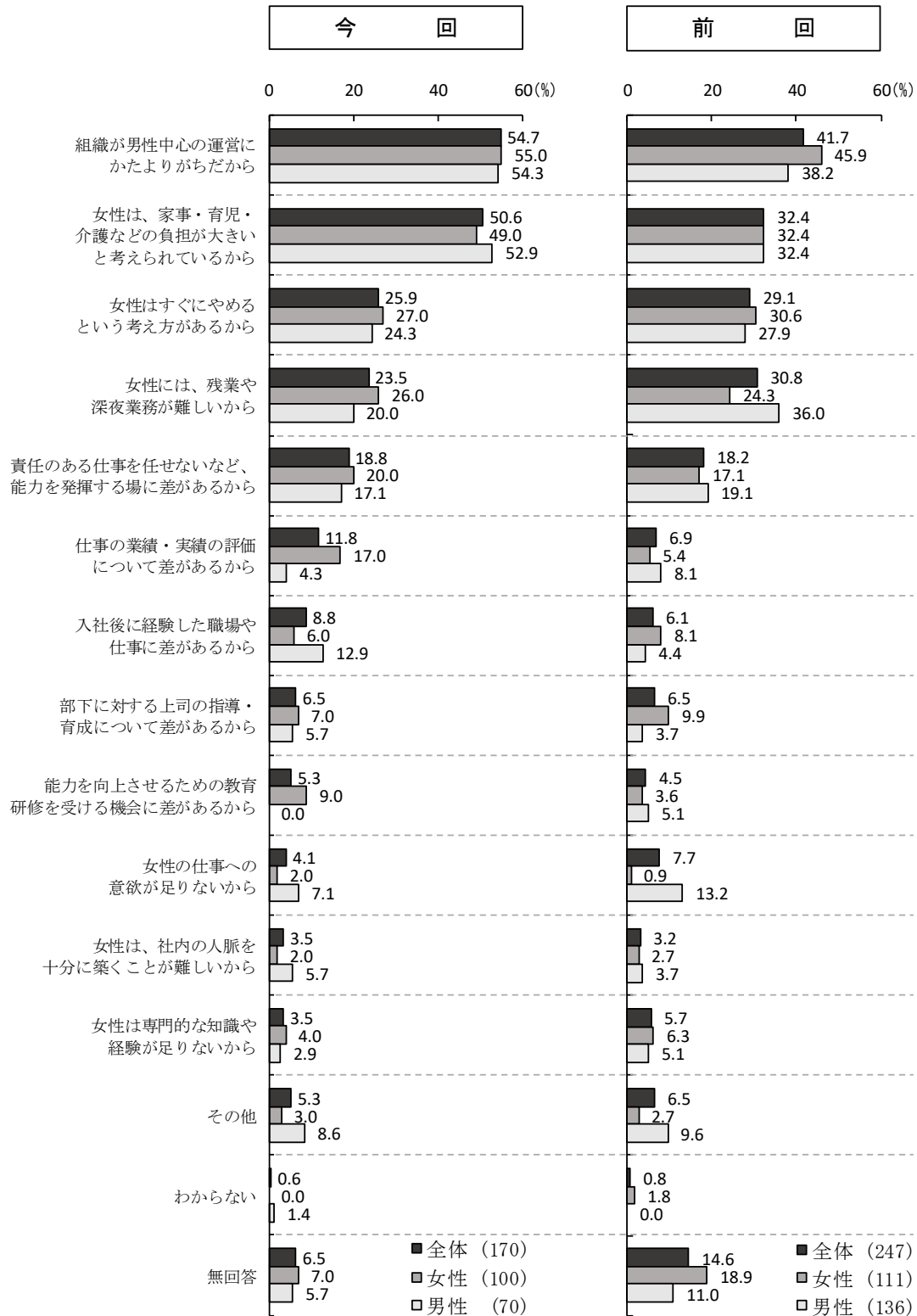
問12(1)で「男性の方が優遇されている」と回答した人(170人)に、扱いの差が生じる理由についてたずねたところ、**全体**では、「組織が男性中心の運営にかたよりがちだから」(54.7%)が最も高い。次いで「女性は、家事・育児・介護などの負担が大きいと考えられているから」(50.6%)、「女性はすぐにやめるという考え方があるから」(25.9%)と続く。

性別で見ると、「仕事の業績・実績の評価について差があるから」(女性17.0%、男性4.3%)では女性の方が12.7ポイント高く、また、「能力を向上させるための教育研修を受ける機会に差があるから」(女性9.0%、男性0.0%)では女性の方が9.0ポイント高い。

なお、今回調査のグラフとともに、参考値として、前回調査のグラフを掲載している。前回調査では「男性の方が優遇されている」または「女性の方が優遇されている」のいずれかを選んだ人を該当者としているため、今回調査との比較分析は行わない。

【図表12-3-1 参照】

図表 12-3-1 男性を優遇する差別的待遇が生じる理由 (全体、性別/経年比較)



(5) 職場における方針・意思決定する際の影響力

問13 職場において、方針や意思、重要事項を決定する際、男女いずれの方が影響力を持っていると思いますか。あてはまる番号を1つ選んでください。

「男女ともに同等の影響力がある」が前回から2割近く増加。

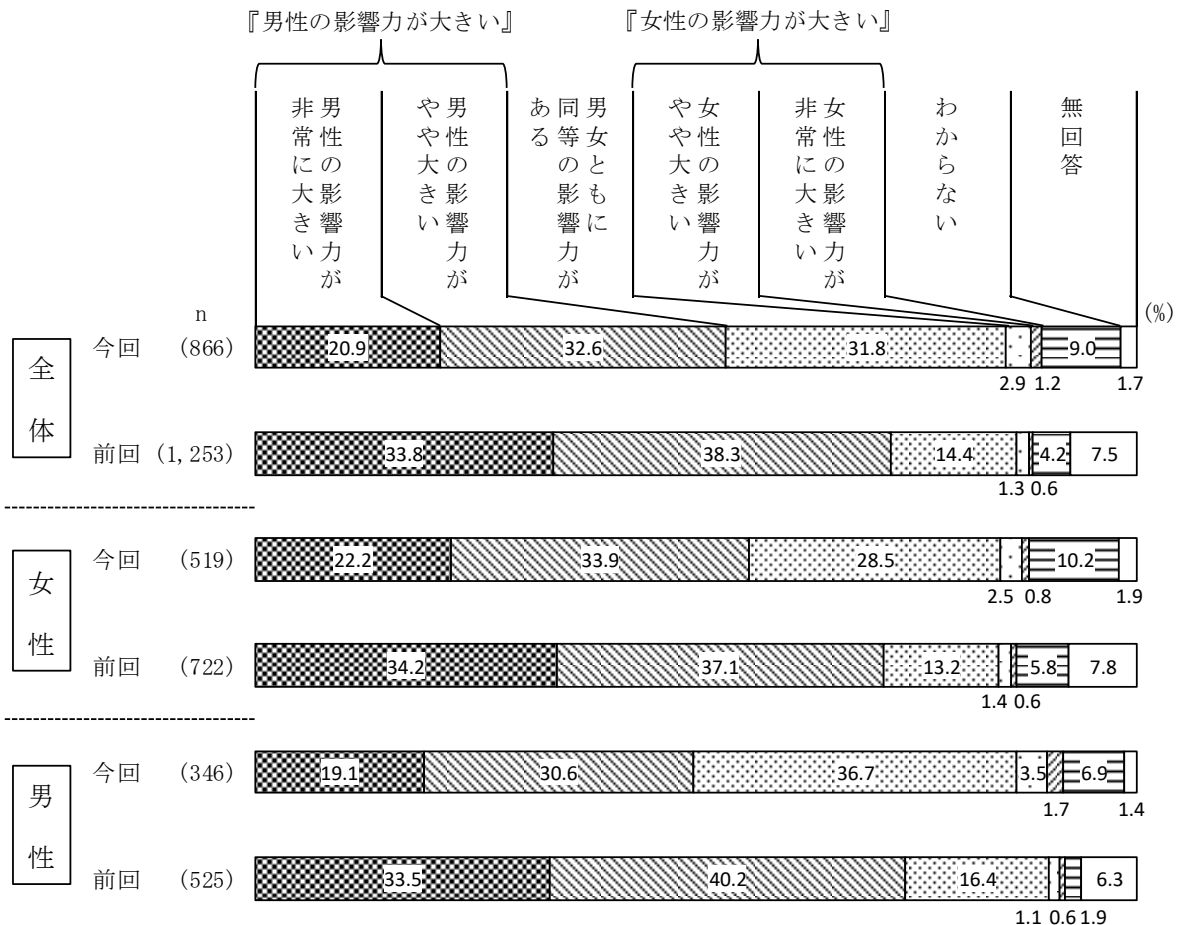
全体では、「男性の影響力が非常に大きい」と「男性の影響力がやや大きい」を合わせた『男性の影響力が大きい』は53.5%である。また、「女性の影響力がやや大きい」と「女性の影響力が非常に大きい」を合わせた『女性の影響力が大きい』は4.1%である。また、「男女ともに同等の影響力がある」は31.8%である

性別でみると、『男性の影響力が大きい』(女性56.1%、男性49.7%)は、女性の方が6.4ポイント高い。

前回調査と比較すると、全体では「男女ともに同等の影響力がある」が前回から17.4ポイント増加し、『男性の影響力が大きい』は18.6ポイント減少した。

【図表 13-1 参照】

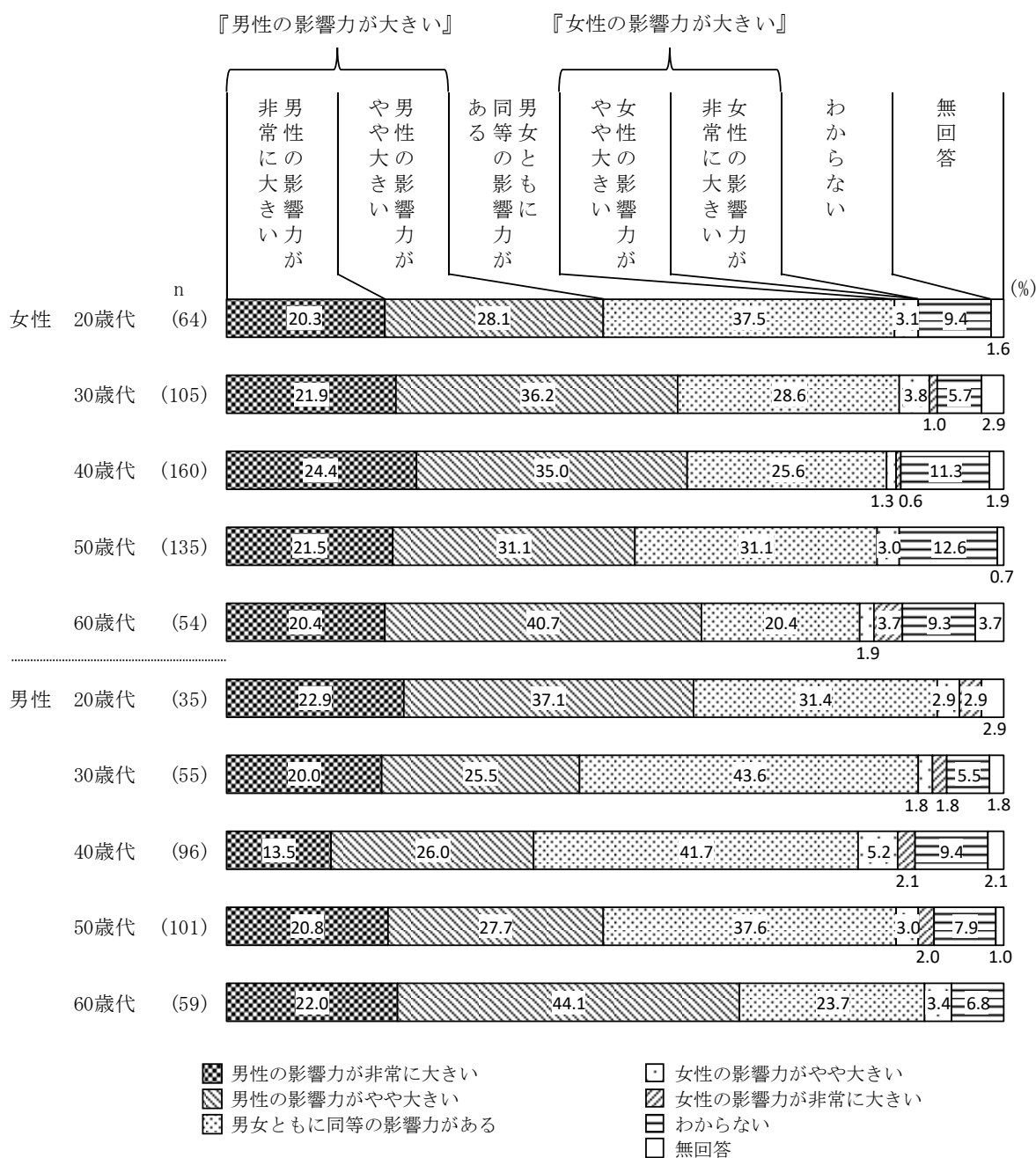
図表 13-1 職場における方針・意思決定する際の影響力 (全体、性別/経年比較)



男女それぞれを年代別にみると、女性では、「男女ともに同等の影響力がある」は20歳代（37.5%）が最も高く、60歳代（20.4%）が最も低い。また、男性では30歳代（43.6%）が最も高く、60歳代（23.7%）が最も低い。さらに、『男性の影響力が大きい』は、男性の60歳代（66.1%）が最も高く、次いで、女性の60歳代（61.1%）である。

【図表 13-2 参照】

図表 13-2 職場における方針・意思決定する際の影響力（性・年代別）



(6) 職場における方針・意思決定の場に女性の参画が必要だと思ふ理由

問14 あなたが、職場における方針や意思決定の場に、女性の参画が必要だと思ふのは、どのような理由からですか。あてはまる番号をすべて選んでください。

女性の7割近くが「決定される方針などは、女性にも関わることだから」と回答。

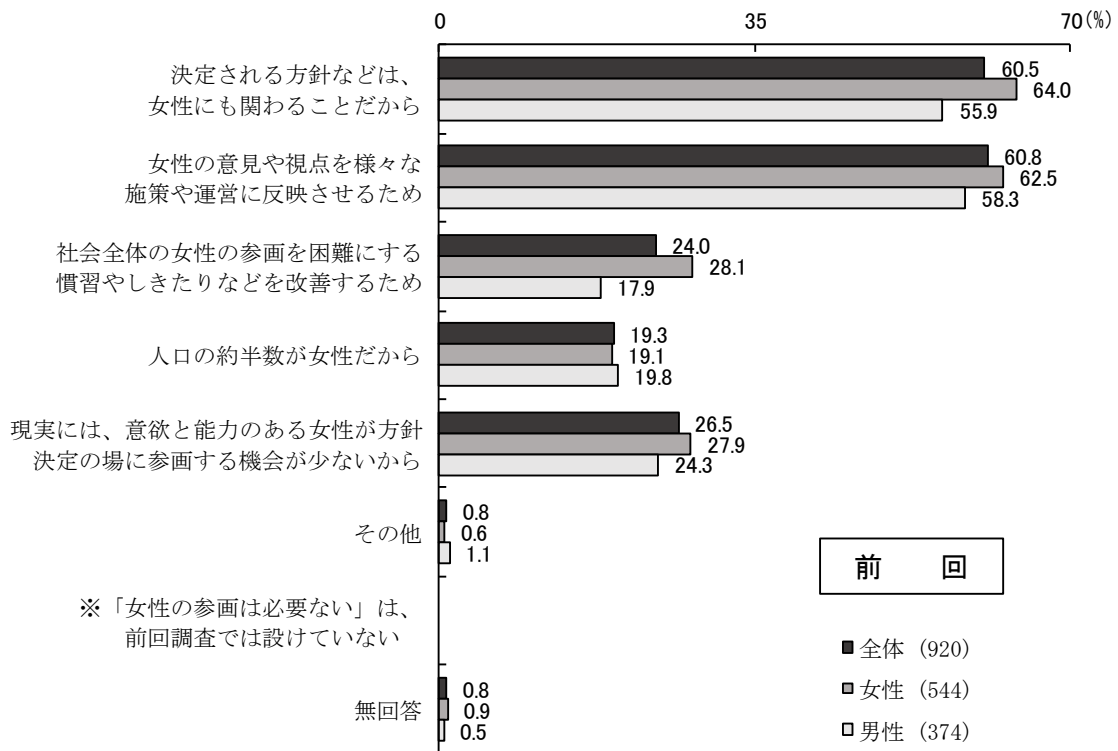
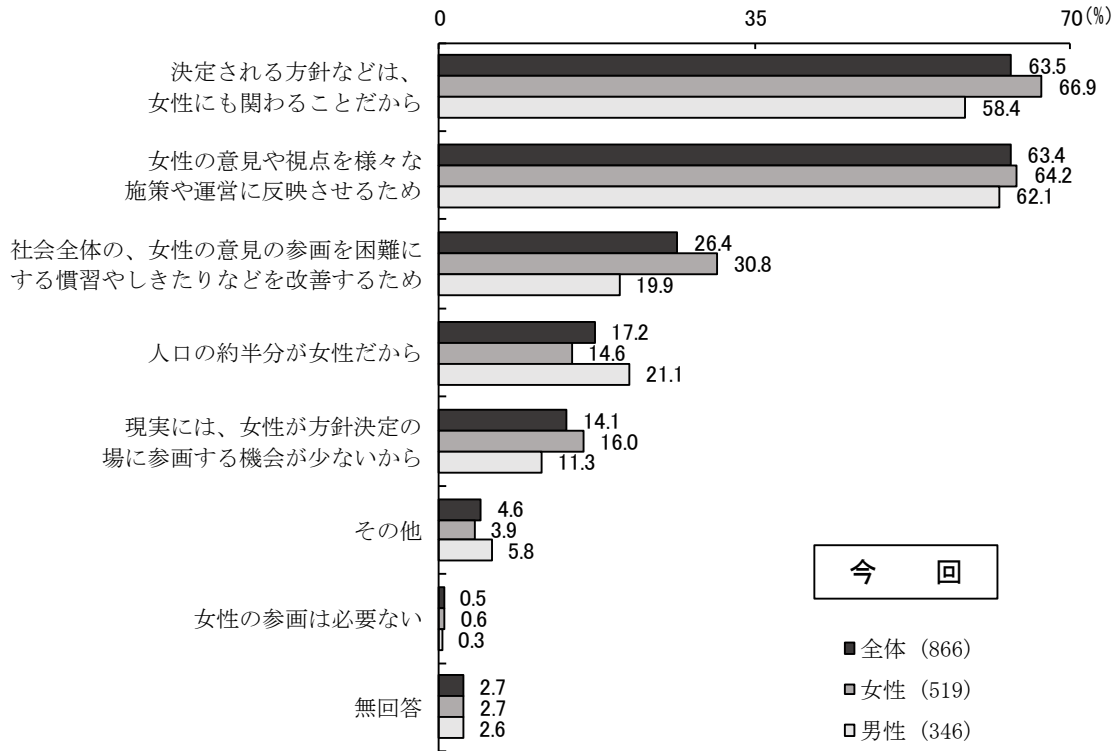
全体でみると、「決定される方針などは、女性にも関わることだから」(63.5%)が最も高い。次いで「女性の意見や視点を様々な施策や運営に反映させるため」(63.4%)である。

性別でみると、女性は、「決定される方針などは、女性にも関わることだから」(66.9%)が最も高い。一方、男性は、「女性の意見や視点を様々な施策や運営に反映させるため」(62.1%)が最も高い。また、「決定される方針などは、女性にも関わることだから」(女性66.9%、男性58.4%)では、女性の方が8.5ポイント高く、「社会全体の、女性の意見の参画を困難にする慣習やしきたりなどを改善するため」(女性30.8%、男性19.9%)では女性の方が10.9ポイント高い。

なお、今回調査のグラフとともに、参考値として、前回調査のグラフを掲載している。前回調査では前問で特定の選択肢を選んだ人を該当者としているうえ、たずねかたも職場に限定していないので、今回調査との比較分析は行わない。

【図表 14-1 参照】

図表 14-1 職場における方針・意思決定の場に女性の参画が必要だと思う理由
(全体、性別/経年比較)



男女それぞれを年代別にみると、「決定される方針などは、女性にも関わることだから」は、女性の20歳代（75.0%）が最も高く、女性の60歳代（51.9%）が最も低い。一方で、「女性の意見や視点を様々な施策や運営に反映させるため」は、男性の40歳代（59.4%）、50歳代（65.3%）、60歳代（69.5%）の各年代で最も高く、参考値であるが20歳代（60.0%）でも、「決定される方針などは、女性にも関わることだから」と同数で最も高い。

【図表 14-2 参照】

図表 14-2 職場における方針・意思決定の場に女性の参画が必要だと思う理由
(性・年代別)

		(%)							
合計 (n=866)		女性にも関わる方針などは、	女性や運営に反映させるため	社会全体の、女性の意見の	人口の約半分が女性だから	現実には、女性が方針決定から	その他	女性の参画は必要ない	無回答
女性	女性合計 (519)	66.9	64.2	30.8	14.6	16.0	3.9	0.6	2.7
	20歳代 (64)	75.0	70.3	32.8	12.5	12.5	1.6	0.0	1.6
	30歳代 (105)	70.5	69.5	31.4	13.3	17.1	10.5	0.0	2.9
	40歳代 (160)	65.6	65.0	30.0	17.5	16.3	1.3	1.3	2.5
	50歳代 (135)	68.1	56.3	28.9	15.6	16.3	3.7	0.7	2.2
	60歳代 (54)	51.9	63.0	33.3	9.3	16.7	1.9	0.0	5.6
男性	男性合計 (346)	58.4	62.1	19.9	21.1	11.3	5.8	0.3	2.6
	20歳代 (35)	60.0	60.0	17.1	22.9	5.7	8.6	0.0	2.9
	30歳代 (55)	60.0	54.5	23.6	23.6	16.4	5.5	0.0	3.6
	40歳代 (96)	54.2	59.4	20.8	20.8	11.5	7.3	1.0	3.1
	50歳代 (101)	61.4	65.3	21.8	21.8	9.9	5.9	0.0	1.0
	60歳代 (59)	57.6	69.5	13.6	16.9	11.9	1.7	0.0	3.4

(7) 上場企業役員に占める女性の割合

問15 上場企業役員に占める女性の割合は4.1%※（平成30年）ですが、この割合についてどう思いますか。あてはまる番号を1つ選んでください。

※（出典：内閣府「平成30年度 女性の政策・方針決定参画状況調べ」）

「男性と女性の社員数の比率と同じ割合にすべきである」が最も高く3割以上。

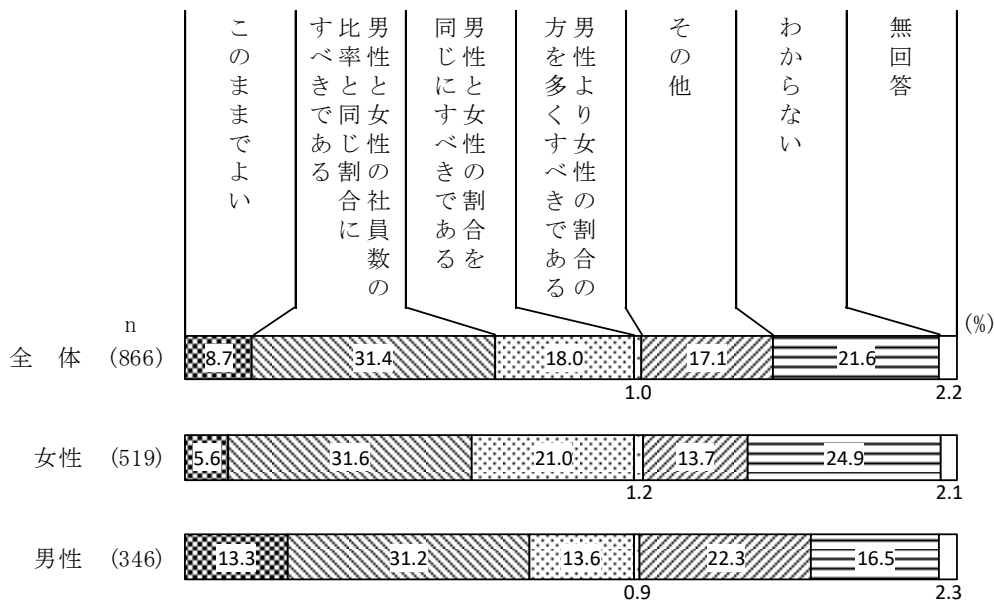
全体でみると、「男性と女性の社員数の比率と同じ割合にすべきである」（31.4%）が最も高い。次いで「男性と女性の割合を同じにすべきである」（18.0%）である。また、「このままでよい」が8.7%、「男性より女性の割合の方を高くすべきである」が1.0%である。

性別でみると、男女とも「男性と女性の社員数の比率と同じ割合にすべきである」（女性31.6%、男性31.2%）が最も高い。また、「男性と女性の割合を同じにすべきである」（女性21.0%、男性13.6%）では、女性の方が7.4ポイント高く、「このままでよい」（女性5.6%、男性13.3%）では、男性の方が7.7ポイント高い。

一方、「その他」の回答が全体で17.1%あり、具体的な記述を見ると、性別に関係なく、能力のある人が就くべきだという趣旨の回答が過半数を占めた。

【図表 15-1 参照】

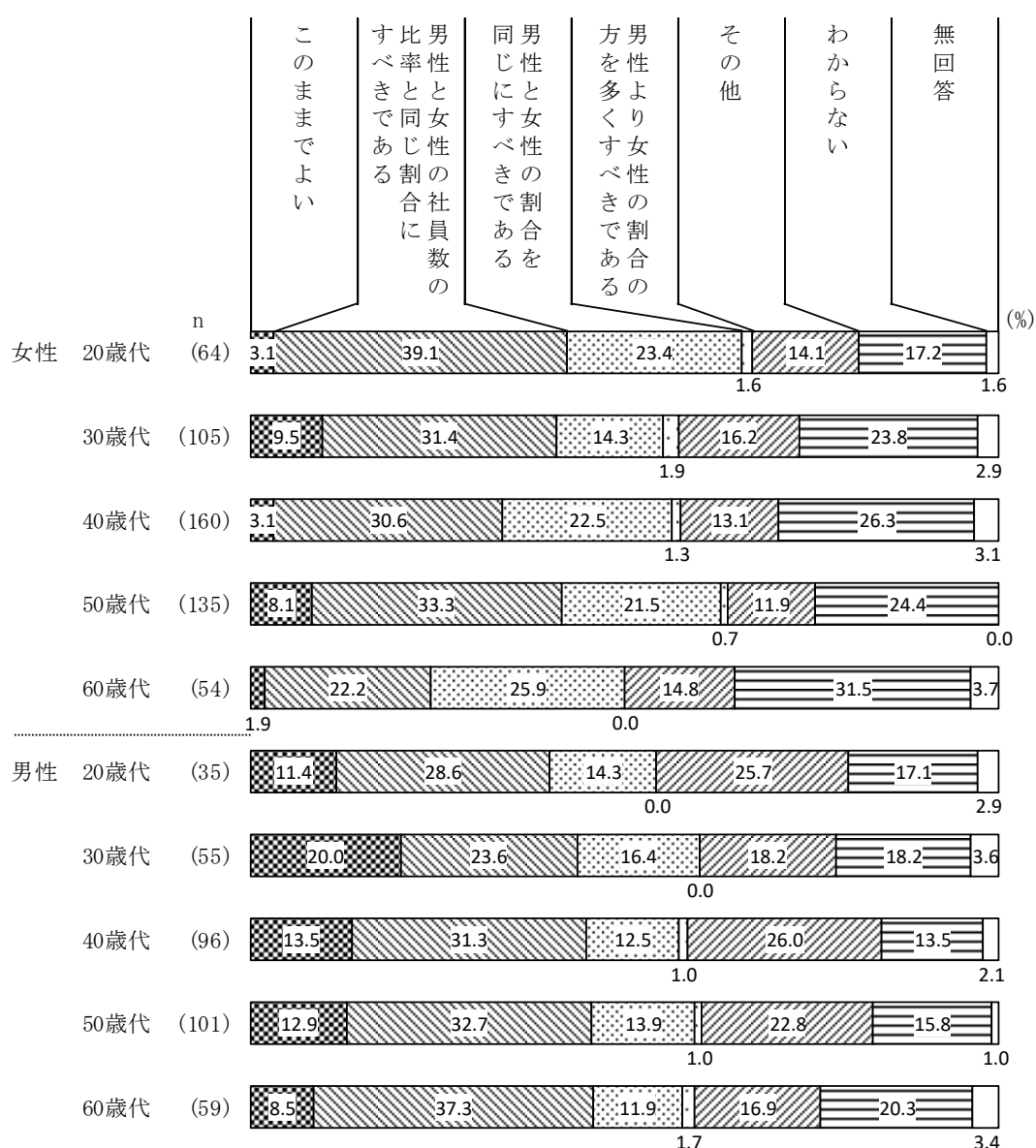
図表 15-1 上場企業役員に占める女性の割合（全体、性別）



男女それぞれを年代別にみると、「このままでよい」は、男性の30歳代(20.0%)が最も高く、女性の60歳代(1.9%)が最も低い。また、「男性と女性の社員数の比率と同じ割合にすべきである」は、女性の20歳代(39.1%)が最も高く、次いで、男性の60歳代(37.3%)であり、女性の60歳代(22.2%)が最も低い。また、女性の60歳代は、「男性と女性の割合を同じにすべきである」(25.9%)が「男性と女性の社員数の比率と同じ割合にすべきである」(22.2%)よりも高い。

【図表 15-2 参照】

図表 15-2 上場企業役員に占める女性の割合 (性・年代別)



4. 政治における女性の参画

(1) 政治への関心

問16 あなたは政治に関心がありますか。あてはまる番号を1つ選んでください。

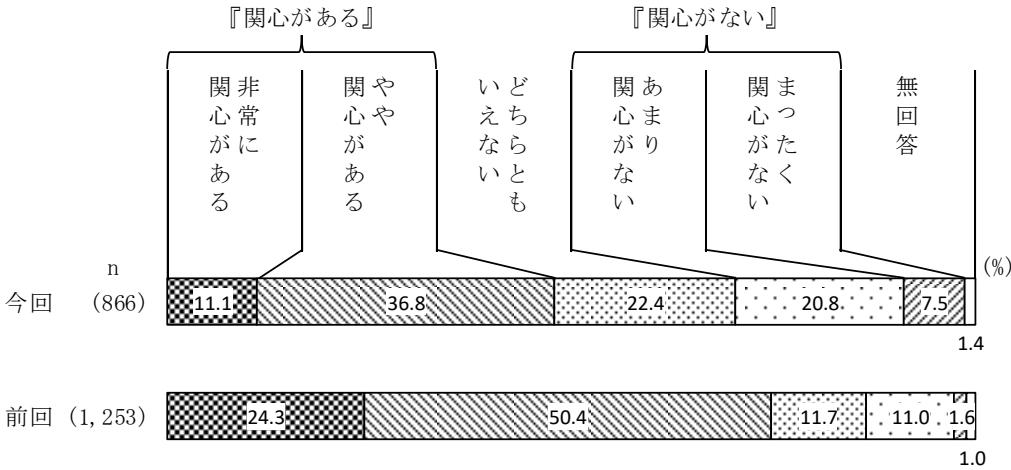
全体では5割近くが『関心がある』と回答。

全体でみると、「非常に関心がある」と「やや関心がある」を合わせた『関心がある』は47.9%である。また、「あまり関心がない」と「まったく関心がない」を合わせた『関心がない』は28.3%である。さらに、「どちらともいえない」は22.4%である。

前回調査と比較すると、『関心がある』(今回47.9%、前回74.7%)は前回から26.8ポイント減少した。

【図表 16-1 参照】

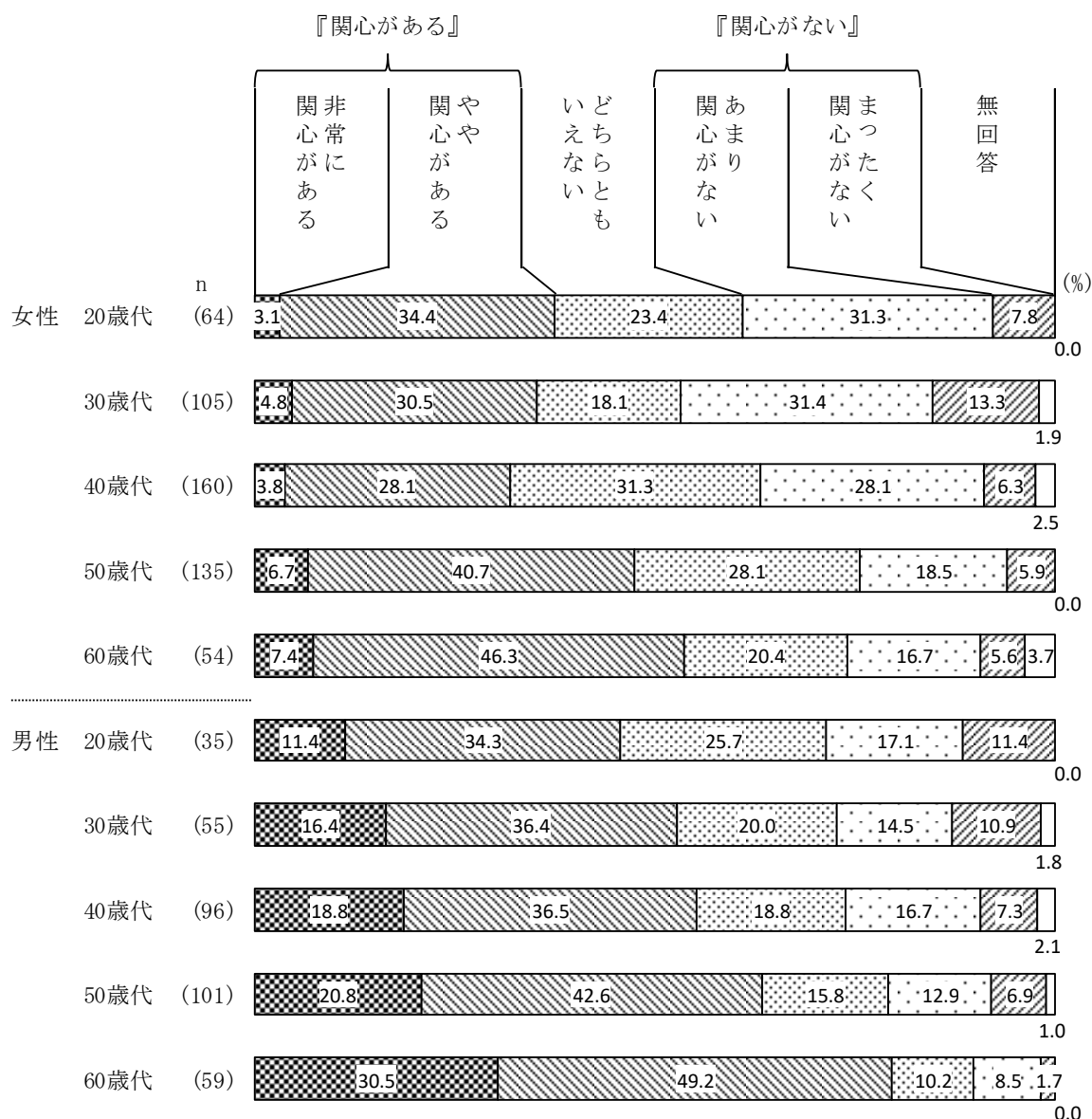
図表 16-1 政治への関心 (全体/経年比較)



男女それぞれを年代別にみると、『関心がある』は、男性の60歳代（79.7%）で最も高い。次いで、男性の50歳代（63.4%）、男性の40歳代（55.3%）と続く。一方、『関心がない』は、女性の30歳代（44.7%）で最も高く、次いで、女性の20歳代（39.1%）、女性の40歳代（34.4%）と続く。

【図表 16-2 参照】

図表 16-2 政治への関心（性・年代別）



(2) 政治に関する情報の入手方法・政治とのかかわり方

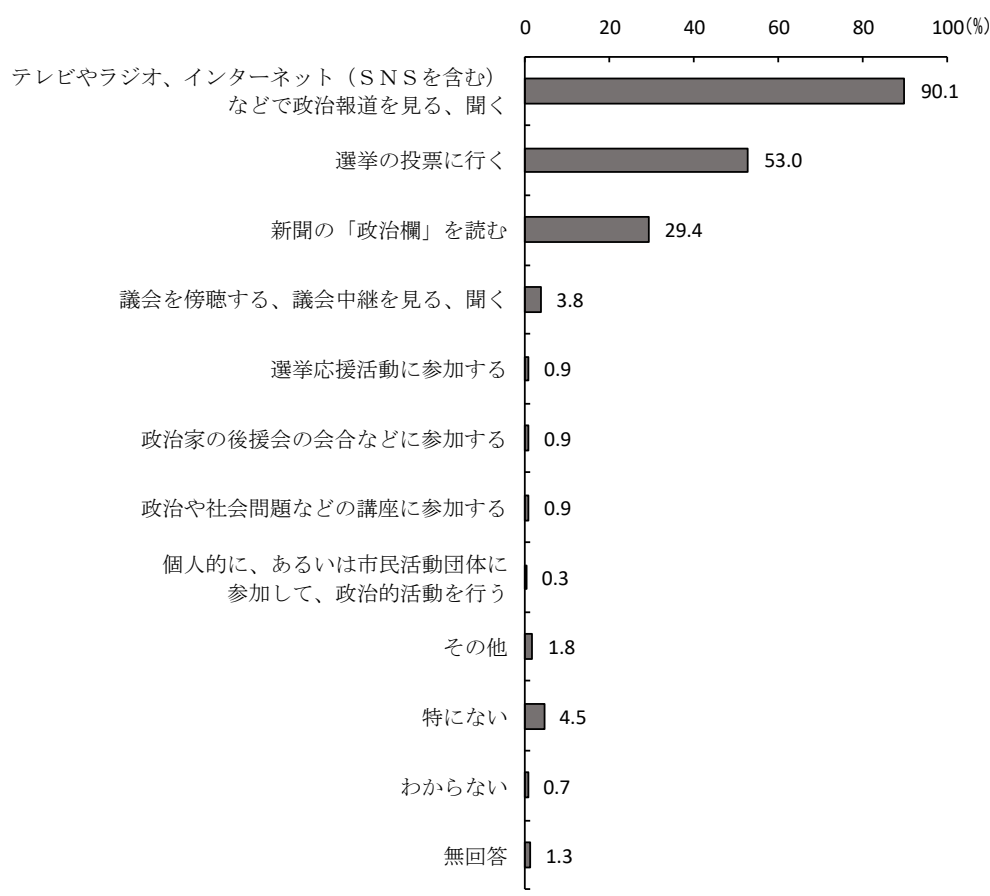
問17 あなたは、政治に関する情報をどのようにして入手していますか。また、どのようなかたちで政治にかかわっていると思いますか。あてはまる番号をすべて選んでください。

「テレビやラジオ、インターネット（SNSを含む）などで政治報道を見る、聞く」が約9割。

全体では、「テレビやラジオ、インターネット（SNSを含む）などで政治報道を見る、聞く」（90.1%）が最も高い。次いで「選挙の投票に行く」（53.0%）、「新聞の『政治欄』を読む」（29.4%）と続く。

【図表 17-1 参照】

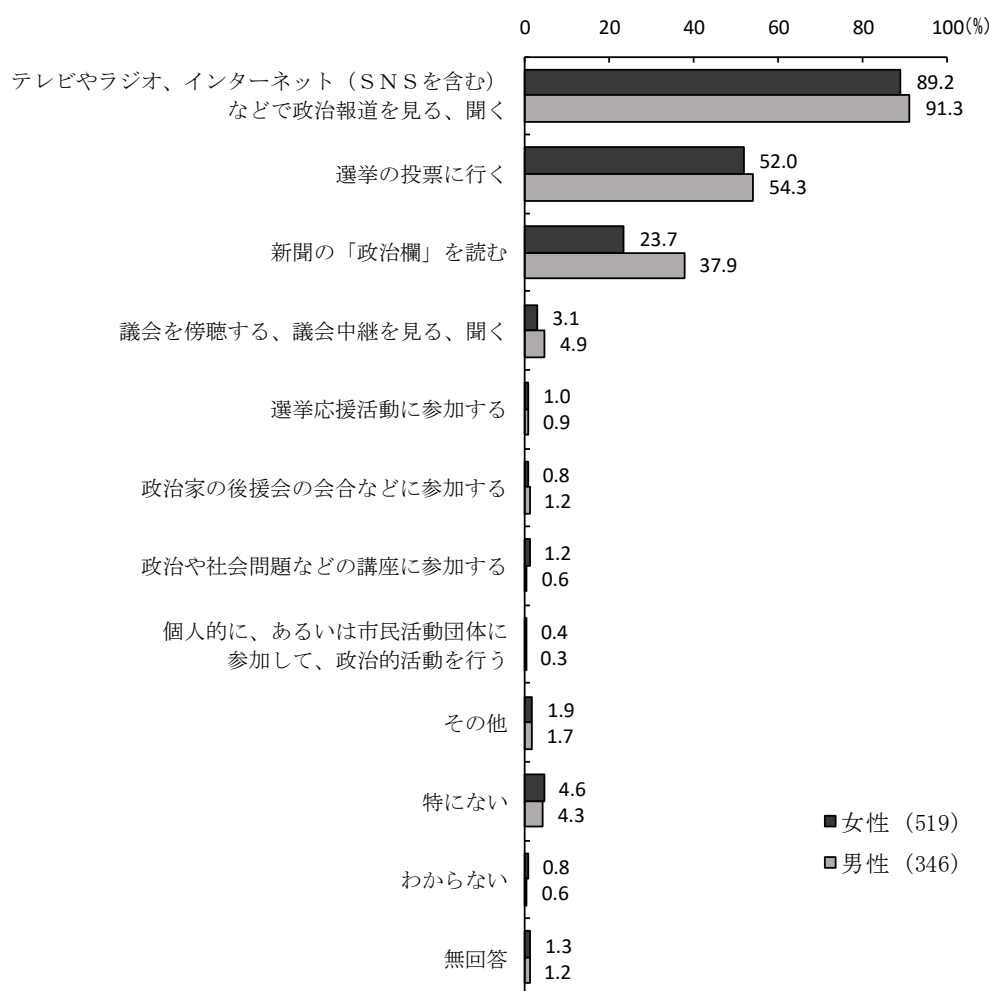
図表 17-1 政治に関する情報の入手方法・政治とのかかわり方（全体）



性別では、男女とも「テレビやラジオ、インターネット（SNSを含む）などで政治報道を見る、聞く」（女性 89.2%、男性 91.3%）が最も高い。次いで「選挙の投票に行く」（女性 52.0%、男性 54.3%）、「新聞の『政治欄』を読む」（女性 23.7%、男性 37.9%）と続く。また、「新聞の『政治欄』を読む」では、男性の方が 14.2 ポイント高い。

【図表 17-2 参照】

図表 17-2 政治に関する情報の入手方法・政治とのかかわり方（性別）



年代別にみると、「選挙の投票に行く」は60歳代（64.6%）が最も高い。次いで、50歳代（62.0%）、40歳代（48.0%）、20歳代（46.5%）、30歳代（43.1%）と続く。また、「新聞の『政治欄』を読む」は60歳代（51.3%）が最も高く、次いで、50歳代（45.6%）、40歳代（23.4%）、30歳代（13.1%）、20歳代（8.1%）と続き、60歳代と20歳代では、60歳代の方が43.2ポイント高い。

【図表 17-3 参照】

図表 17-3 政治に関する情報の入手方法・政治とのかかわり方（年代別）

	テレビやラジオ、インターネット（SNSを含む）など政治報道を見る、聞く	選挙の投票に行く	新聞の「政治欄」を読む	議会中継を見る、聞く	議会を傍聴する、聞く	選挙応援活動に参加する	政治家の後援会の会合などに参加する	政治や社会問題などの講座に参加する	市民的活動団体に参加して、政治的活動を行う	その他	特にない	わからない	無回答
全体 (866)	90.1	53.0	29.4	3.8	0.9	0.9	0.9	0.9	0.3	1.8	4.5	0.7	1.3
20歳代 (99)	89.9	46.5	8.1	3.0	1.0	0.0	1.0	1.0	0.0	1.0	7.1	0.0	0.0
30歳代 (160)	88.1	43.1	13.1	3.8	0.6	0.6	1.3	1.3	0.0	2.5	8.1	1.3	1.3
40歳代 (256)	89.1	48.0	23.4	2.7	0.8	1.2	0.8	0.8	0.8	2.0	3.9	0.8	2.3
50歳代 (237)	92.0	62.0	45.6	5.1	1.3	1.3	0.4	0.4	0.0	2.1	3.0	0.4	0.8
60歳代 (113)	91.2	64.6	51.3	4.4	0.9	0.9	1.8	1.8	0.9	0.9	1.8	0.9	0.9

(3) 政治における方針・意思決定する際の影響力

問18 政治において、方針や意思、重要事項を決定する際、男女いずれの方が影響力を持っていると思いますか。あてはまる番号を1つ選んでください。

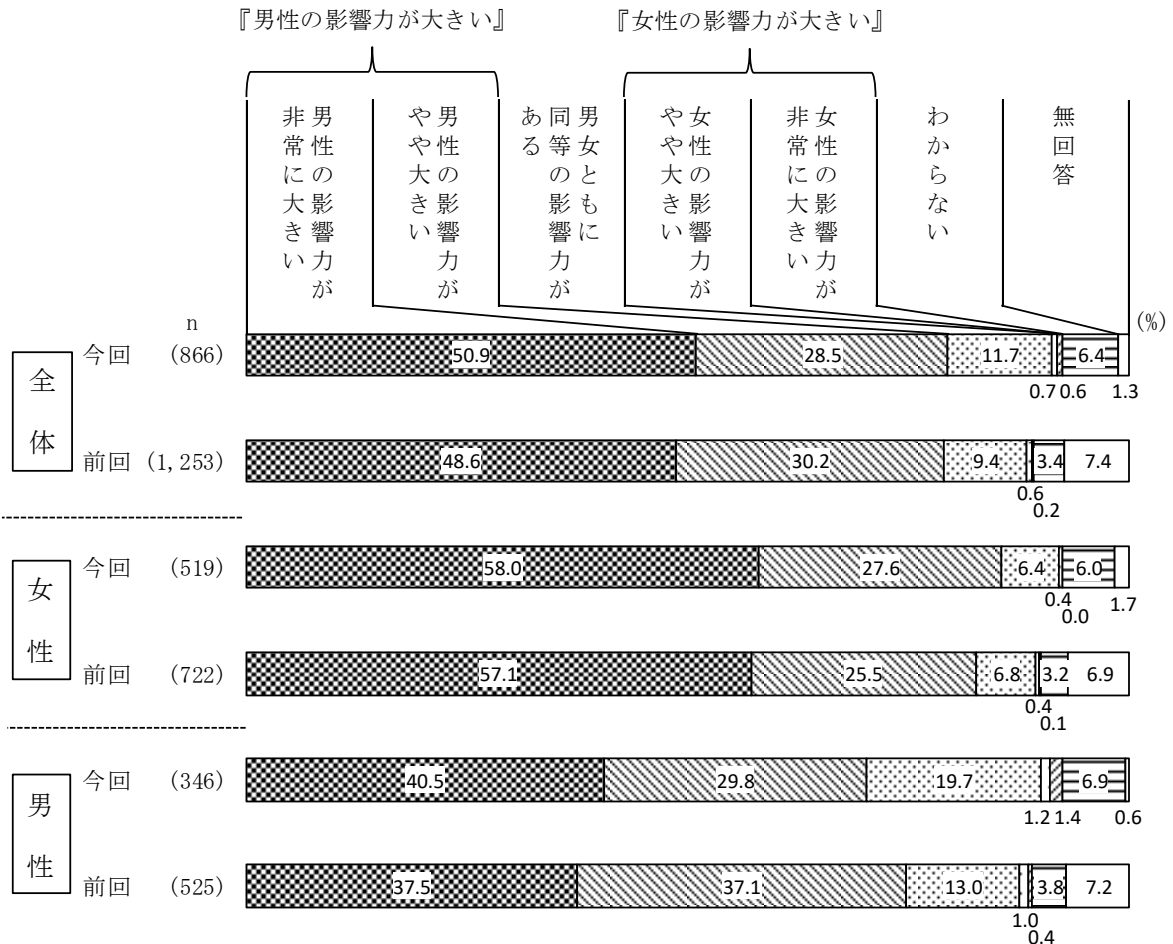
約8割が『男性の影響力が大きい』と回答。

全体では、「男性の影響力が非常に大きい」と「男性の影響力がやや大きい」を合わせた『男性の影響力が大きい』は79.4%である。また、「女性の影響力がやや大きい」と「女性の影響力が非常に大きい」を合わせた『女性の影響力が大きい』は1.3%である。また、「男女ともに同等の影響力がある」は11.7%である。

性別では『男性の影響力が大きい』(女性85.6%、男性70.3%)は、女性の方が15.3ポイント高い。また、「男女ともに同等の影響力がある」(女性6.4%、男性19.7%)は、男性の方が13.3ポイント高い。

前回調査と比較すると、女性では、『男性の影響力が大きい』が3.0ポイント増加している。 【図表18-1参照】

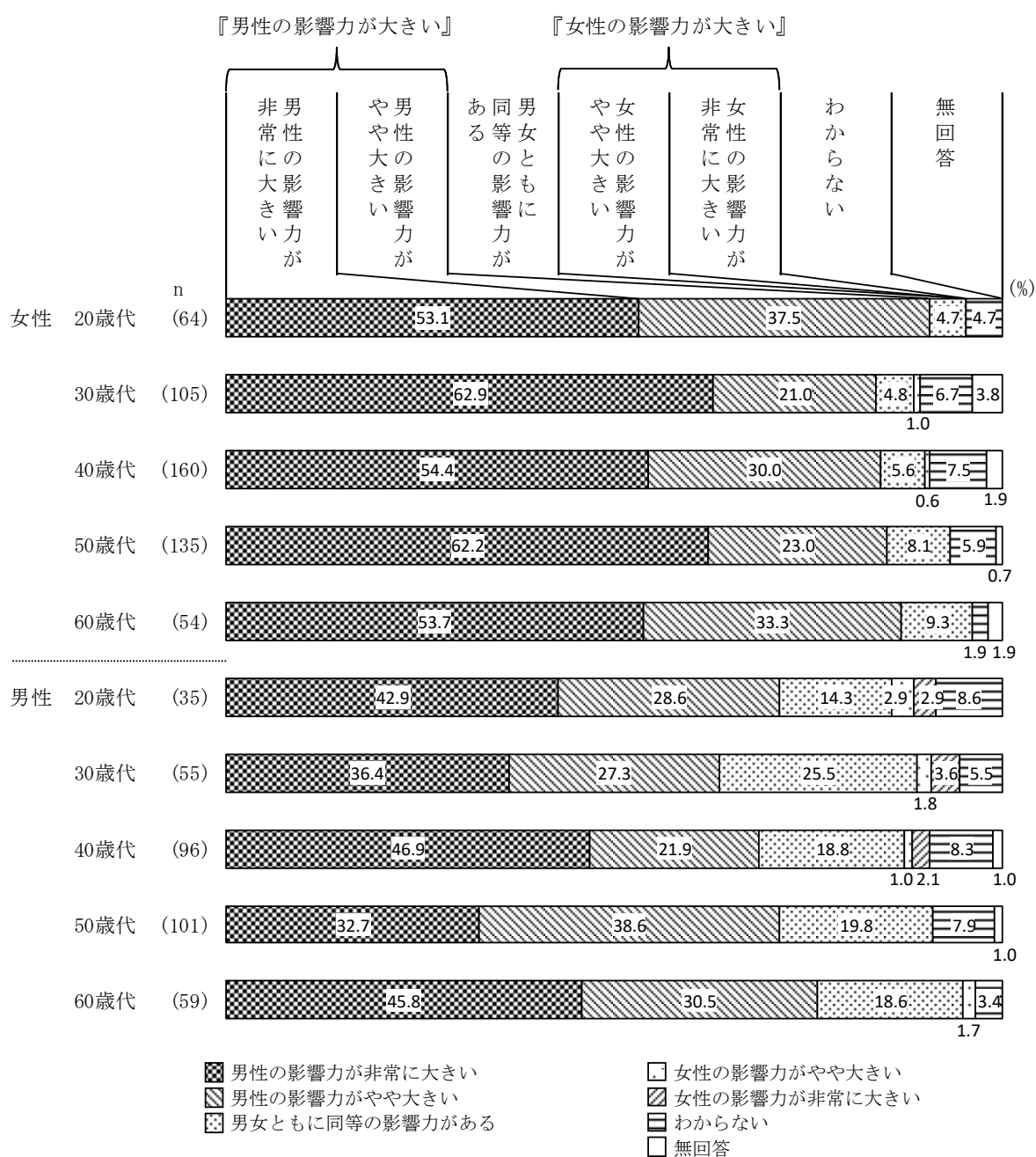
図表18-1 政治における方針・意思決定する際の影響力 (全体、性別/経年比較)



男女それぞれを年代別にみると、「男性の影響力が非常に大きい」は、女性の 30 歳代（62.9%）で最も高く、男性の 50 歳代（32.7%）が最も低い。一方、「男女ともに同等の影響力がある」は、男性の 30 歳代（25.5%）が最も高く、女性の 20 歳代（4.7%）が最も低い。

【図表 18-2 参照】

図表 18-2 政治における方針・意思決定する際の影響力（性・年代別）



※ 回答者が0の項目は0.0と表記せず省略している

(4) 政治における方針・意思決定の場に女性の参画が必要だと思う理由

問19 あなたが、政治における方針や意思決定の場に、女性の参画が必要だと思うのは、どのような理由からですか。あてはまる番号をすべて選んでください。

7割以上が「決定される方針などは、女性にも関わることだから」と回答。

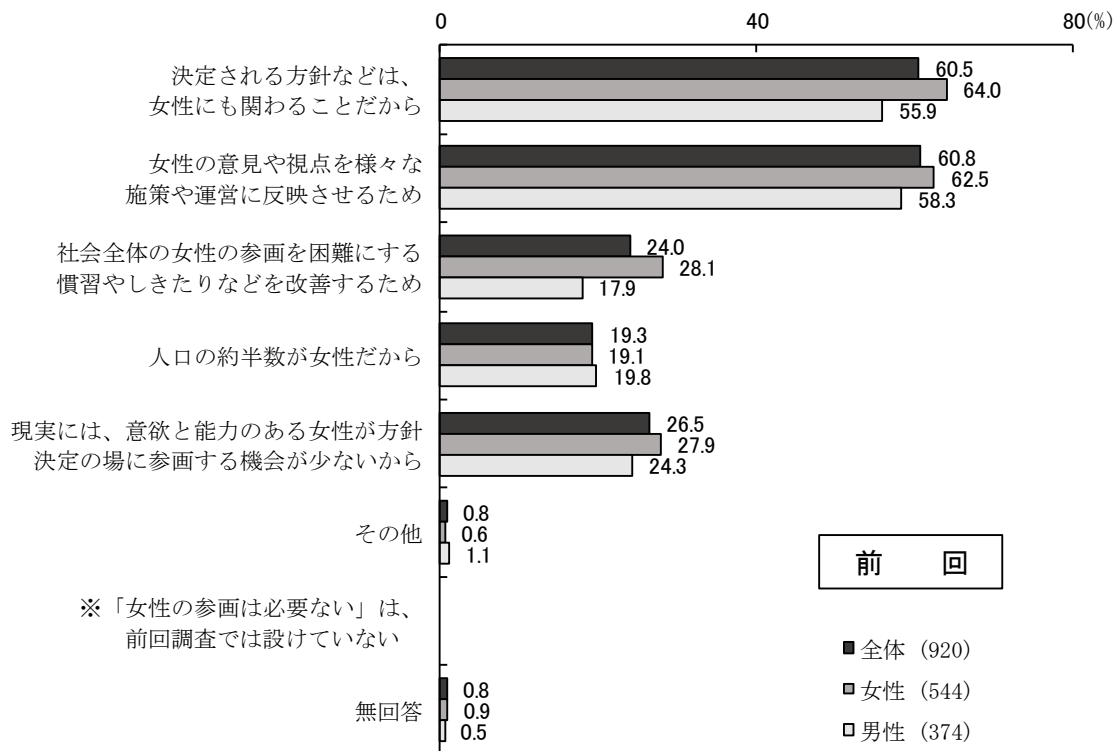
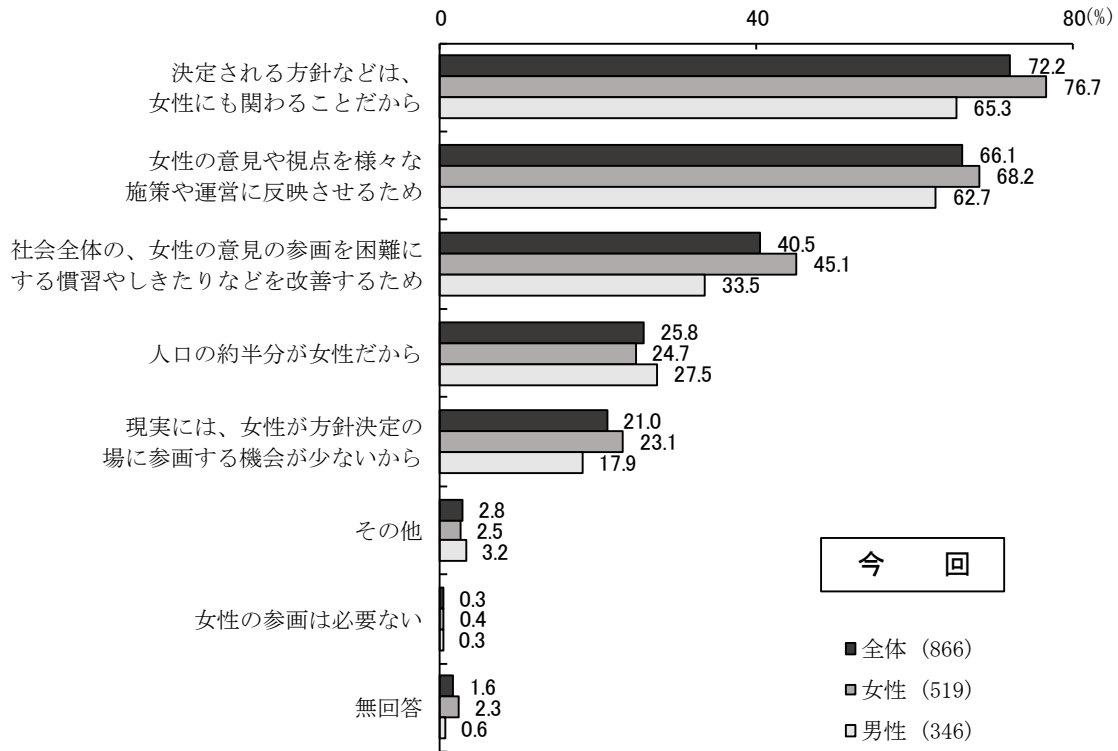
全体でみると、「決定される方針などは、女性にも関わることだから」(72.2%)が最も高い。次いで「女性の意見や視点を様々な施策や運営に反映させるため」(66.1%)である。

性別でみると、「決定される方針などは、女性にも関わることだから」(女性 76.7%、男性 65.3%)では、女性の方が11.4ポイント高く、「社会全体の、女性の意見の参画を困難にする慣習やしきたりなどを改善するため」(女性 45.1%、男性 33.5%)では、女性の方が11.6ポイント高い。

なお、今回調査のグラフとともに、参考値として、前回調査のグラフを掲載している。前回調査では前問で特定の選択肢を選んだ人を該当者としているうえ、たずねかたも政治に限定していないので、今回調査との比較分析は行わない。

【図表 19-1 参照】

図表 19-1 政治における方針・意思決定の場に女性の参画が必要だと思う理由
(全体、性別／経年比較)



男女それぞれを年代別にみると、「決定される方針などは、女性にも関わることだから」は、女性の20歳代(85.9%)が最も高く、男性の50歳代(63.4%)が最も低い。また、「女性の意見や視点を様々な施策や運営に反映させるため」については、男性の50歳代(67.3%)、男性の60歳代(74.6%)の各性年代で最も高い回答となった。

【図表 19-2 参照】

図表 19-2 政治における方針・意思決定の場に女性の参画が必要だと思う理由
(性・年代別)

		(%)							
合計 (n=866)		女性にも関わる方針などは、	女性の意見や運営に反映させるため	社会全体の、女性の意見の改善	人口の約半分が女性だから	現実には、女性が方針決定から	その他	女性の参画は必要ない	無回答
女性	女性合計 (519)	76.7	68.2	45.1	24.7	23.1	2.5	0.4	2.3
	20歳代 (64)	85.9	71.9	51.6	25.0	20.3	0.0	0.0	0.0
	30歳代 (105)	79.0	73.3	49.5	27.6	26.7	3.8	0.0	2.9
	40歳代 (160)	75.0	65.0	39.4	25.6	25.0	2.5	0.6	2.5
	50歳代 (135)	74.8	68.1	44.4	23.7	20.7	3.7	0.7	2.2
	60歳代 (54)	70.4	63.0	46.3	18.5	18.5	0.0	0.0	3.7
男性	男性合計 (346)	65.3	62.7	33.5	27.5	17.9	3.2	0.3	0.6
	20歳代 (35)	65.7	48.6	34.3	28.6	17.1	2.9	0.0	0.0
	30歳代 (55)	65.5	52.7	32.7	32.7	14.5	5.5	0.0	0.0
	40歳代 (96)	64.6	61.5	35.4	27.1	20.8	3.1	1.0	1.0
	50歳代 (101)	63.4	67.3	33.7	25.7	17.8	4.0	0.0	1.0
	60歳代 (59)	69.5	74.6	30.5	25.4	16.9	0.0	0.0	0.0

(5) 衆議院議員に占める女性の割合

問20 衆議院議員に占める女性の割合は10.1%*（平成30年）ですが、この割合についてどう思いますか。あてはまる番号を1つ選んでください。

*（出典：内閣府「平成30年度 女性の政策・方針決定参画状況調べ」）

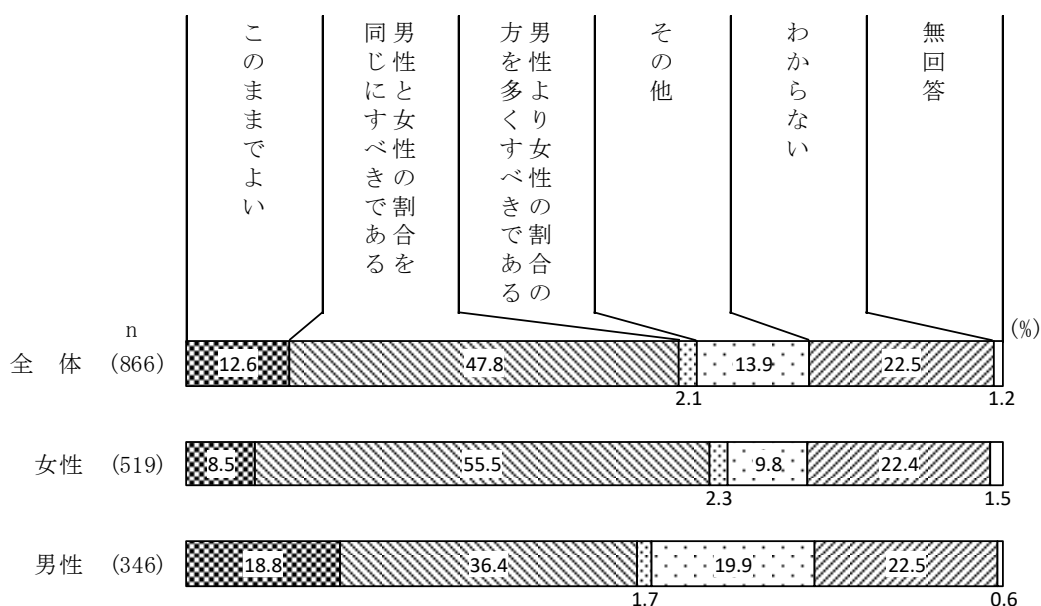
5割近くが「男性と女性の割合を同じにすべきである」と回答。

全体でみると、「男性と女性の割合を同じにすべきである」（47.8%）が最も高い。また、「その他」が13.9%、「このままでよい」が12.6%、「男性より女性の割合の方を多くすべきである」が2.1%である。

性別でみると、男女とも「男性と女性の割合を同じにすべきである」（女性55.5%、男性36.4%）が最も高いものの、女性の方が19.1ポイント高い。また、「このままでよい」（女性8.5%、男性18.8%）は、男性の方が10.3ポイント高い。

【図表 20-1 参照】

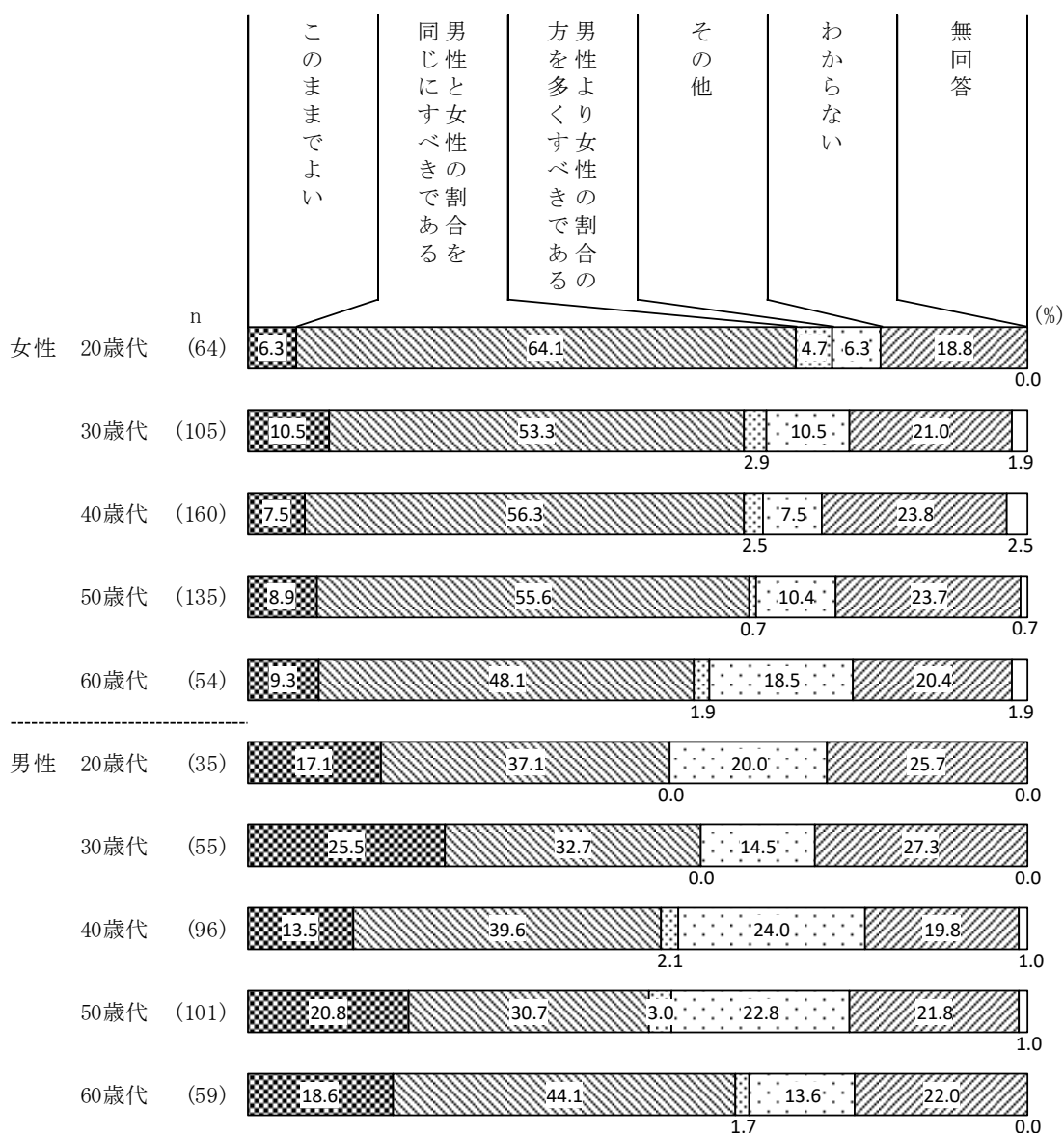
図表 20-1 衆議院議員に占める女性の割合（全体、性別）



男女それぞれを年代別にみると、「男性と女性の割合を同じにすべきである」は、女性では 20 歳代（64.1%）が最も高く、60 歳代（48.1%）が最も低い。一方、男性では 60 歳代（44.1%）が最も高く、反対に 50 歳代（30.7%）が最も低い。また、「このままでよい」は、男性の 30 歳代（25.5%）が最も高く、女性の 20 歳代（6.3%）が最も低い。

【図表 20-2 参照】

図表 20-2 衆議院議員に占める女性の割合（性・年代別）



(6) 「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」の認知度

問2 1 平成30年5月23日に「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」が公布・施行されました。この法律は、衆議院、参議院及び地方議会の選挙において、男女の候補者の数ができる限り均等となることを目指すことなどを基本原則とし、国・地方公共団体の責務や、政党などが所属する男女のそれぞれの公職の候補者の数について目標を定めるなど、自主的に取り組むよう努めることなどを定めています。あなたは、この法律について知っていますか。

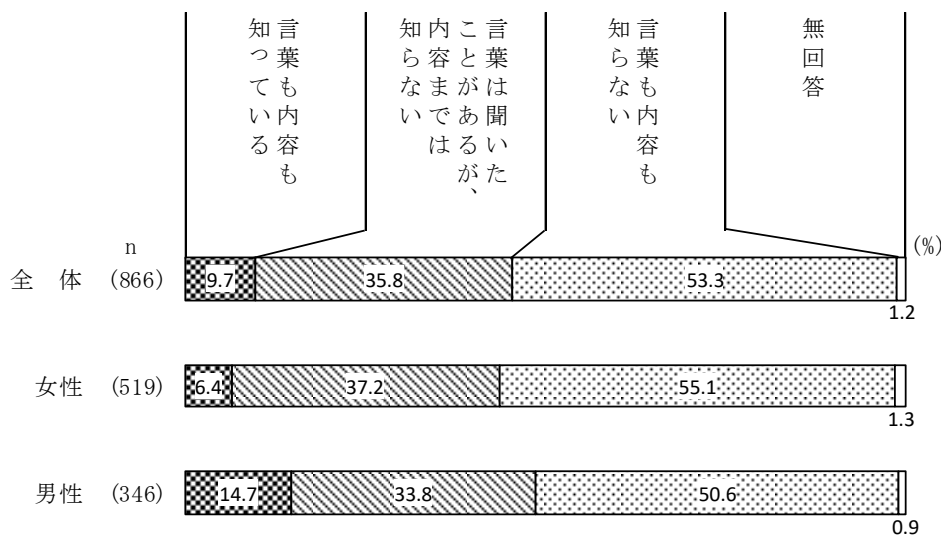
5割以上が「言葉も内容も知らない」と回答。

全体では、「言葉も内容も知っている」、「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」の両者を合わせた『言葉を知っている（聞いたことがある）』は45.5%である。一方で、「言葉も内容も知らない」が53.3%である。

性別でみると、「言葉も内容も知っている」（女性6.4%、男性14.7%）は男性の方が8.3ポイント高い。

【図表 21-1 参照】

図表 21-1 「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」の認知度
(全体、性別)

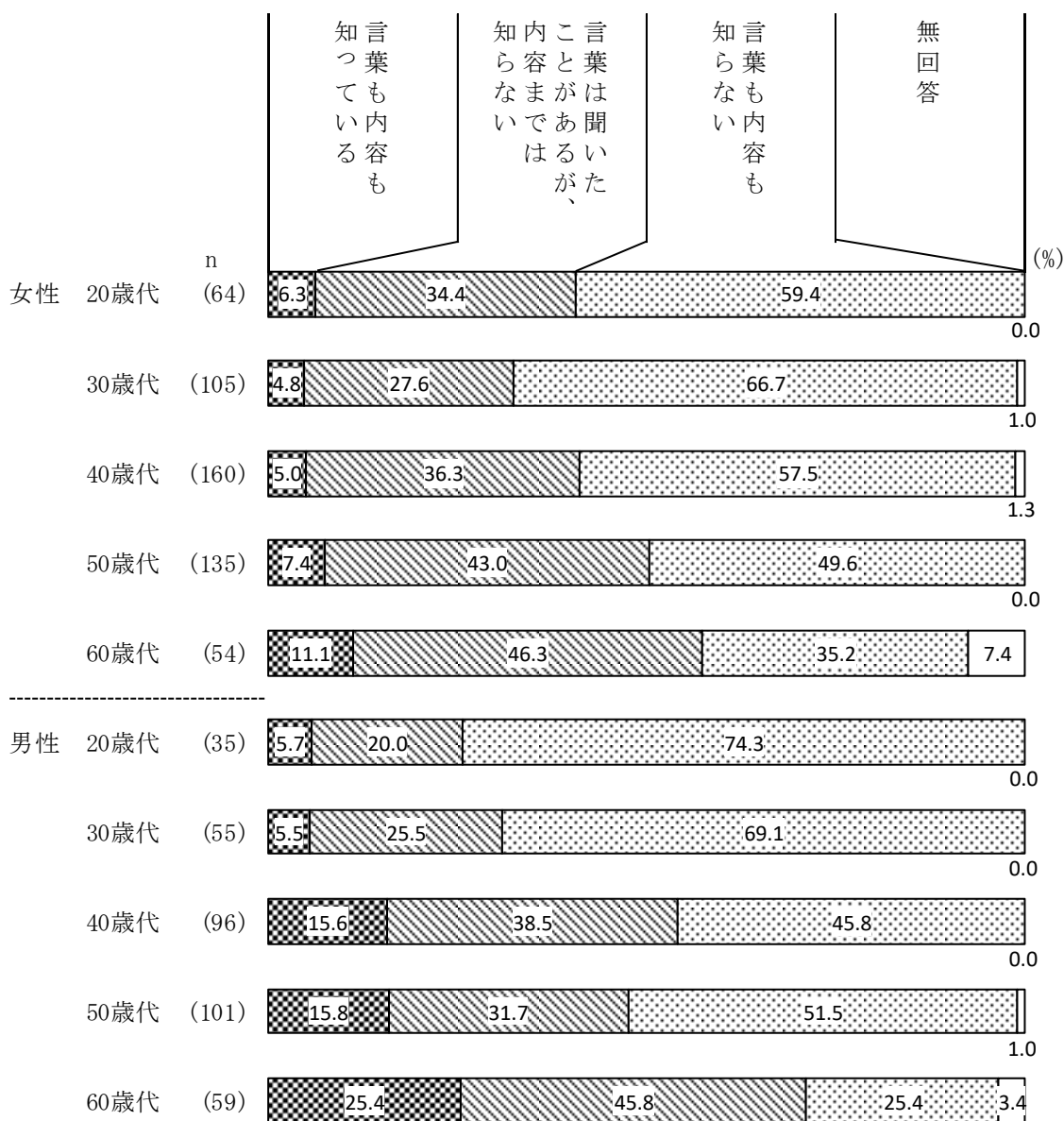


男女それぞれを年代別にみると、男女とも「言葉も内容も知っている」は60歳代が最も高い（女性60歳代11.1%、男性60歳代25.4%）。また、『言葉を知っている（聞いたことがある）』は、男性の60歳代（71.2%）が最も高く、次いで女性の60歳代（57.4%）、男性の40歳代（54.1%）と続く。

一方、「言葉も内容も知らない」は、参考値であるが男性の20歳代（74.3%）が最も高く、次いで男性の30歳代（69.1%）、女性の30歳代（66.7%）と続く。

【図表 21-2 参照】

図表 21-2 「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」の認知度（性・年代別）



Ⅲ. 調査結果のポイント

1. 「男女共同参画社会」に関する意識

(1) 「男女共同参画社会」と「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉の認知度は、ともに 8 割近くが『言葉を知っている（聞いたことがある）』と回答した。
【P9～12 参照】

(2) 各分野での男女の地位
【P13～23 参照】

(A) 「家庭生活で」は、全体の 49.5%、女性の 58.2%が『男性の方が優遇されている』と回答。一方、全体の 30.3%、女性の 24.3%が「平等になっている」と回答、男女間では、男性の方が 15.0 ポイント高い。

【P14～15 参照】

(B) 「職場で」は、全体の 51.4%、女性の 55.0%が『男性の方が優遇されている』と回答。一方、全体の 27.6%、女性の 24.7%が「平等になっている」と回答、男女間では、男性の方が 7.4 ポイント高い。

【P16～17 参照】

(C) 「地域社会で」は、全体の 43.3%、女性の 50.6%が『男性の方が優遇されている』と回答。一方、全体の 26.1%、女性の 21.6%が「平等になっている」と回答、男女間では、男性の方が 11.3 ポイント高い。

【P18～19 参照】

(D) 「法律や制度の上で」は、全体の 47.0%、女性の 56.3%が『男性の方が優遇されている』と回答。一方、全体の 28.6%、女性の 20.8%が「平等になっている」と回答、男女間では、男性の方が 19.7 ポイント高い。

【P20～21 参照】

(E) 「社会通念・慣習・しきたりなどで」は、全体の 77.3%、女性の 81.4%が『男性の方が優遇されている』と回答。一方、全体の 7.7%、女性の 3.9%が「平等になっている」と回答、男女間では、男性の方が 9.7 ポイント高い。

【P22～23 参照】

(3) 性別役割分担意識については、「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方に全体の 60.4%が『反対』、とりわけ、女性の 20 歳代で 81.2%である。一方で、女性の 23.1%、男性の 34.9%が『賛成』している。

【P24～25 参照】

2. 地域活動における女性の参画

- (1) **現在参加している地域活動**については、全体の 68.9%が「地域活動は行っていない」と回答、男女間では、男性の方が 4.5 ポイント高い。また、性・年代別では、女性の 20 歳代が最も高く、85.9%が「地域活動は行っていない」と回答した。一方、行っている活動の中では、「町内会などの地域活動」が全体で 15.5%と最も高い。**【P26~27 参照】**
- (2) **地域活動のきっかけ**については、「団体メンバーや家族、友人に誘われて」が 45.3%で最も高い。また、「その他」が 27.1%あり、選択した人の 40.0%が、当番制や順番といったことに触れる記述内容で、なおかつ問 4 で「町内会などの地域活動」を選択していた。**【P28 参照】**
- (3) **今後の地域活動への参加**については、「趣味・スポーツ・文化に関する活動」が全体の 41.8%で最も高く、次いで「特に考えてはいない」が 32.9%である。また、男女間では、「自主防災活動、災害援助に関する活動」は 10.4 ポイント、「まちづくりなど行政と協働する活動」は 9.9 ポイント、いずれも男性の方が高い。**【P29~31 参照】**
- (4) **地域活動に参加しやすい環境**については、全体の 38.6%が『参加しにくい』と回答、男女間では、女性の方が 4.2 ポイント高い。また、性・年代別では、『参加しやすい』が最も高いのは男性の 60 歳代で 25.4%である。**【P32~33 参照】**
- (5) **地域活動に参加しない、又は参加しづらい理由**は、「どんな活動団体があるのかわからない」が全体の 43.5%で最も高い。また、女性の 30 歳代では「家族・育児・介護の負担が大きい」が 43.8%、女性の 60 歳代では「気力・体力に不安がある」が 44.4%である。さらに、「仕事の負担が大きい」については、男性の 30 歳代が 45.5%、男性の 40 歳代が 43.8%である。**【P34~35 参照】**
- (6) **地域活動における方針・意思決定する際の影響力**については、全体の 42.3%が『男性の影響力が大きい』と回答。「男女ともに同等の影響力がある」は 24.6%。また、男女間では、『男性の影響力が大きい』は、女性の方が 12.0 ポイント高く、「男女ともに同等の影響力がある」は、男性の方が 7.6 ポイント高い。**【P36~37 参照】**
- (7) **地域活動における方針・意思決定の場に女性の参画が必要だと思ふ理由**は、「決定される方針などは、女性にも関わることだから」が全体の 60.5%で最も高く、次いで「女性の意見や視点を様々な施策や運営に反映させるため」が 58.8%である。また、男女間では、「決定される方針などは、女性にも関わることだから」は、女性の方が 7.8 ポイント高い。**【P38~40 参照】**

3. 職場における女性の参画

(1) **女性に対する職業観**については、62.8%が「産休や育休などの制度を使い、出産後も職業を持ち続けるほうがよい」と回答。前回調査から 32.3 ポイント増加した。また、「出産したら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つほうがよい」は 16.6%で、前回調査から 24.7 ポイント減少した。

【P41~44 参照】

(2) **職場内の性別による差別的待遇の有無**については、就業者全体の 53.9%が「性別によって差はない」と回答。一方、24.4%が「男性の方が優遇されている」と回答しており、男女間では、女性の方が 4.0 ポイント高い。

【P45 参照】

(3) **職場内の性別による差別的待遇の具体的内容**は、「仕事の内容」が全体の 50.2%で最も高く、男女間では男性の方が 15.8 ポイント高い。一方、「管理職への登用」は、男女間では女性の方が 11.2 ポイント高く、さらに、「賃金」は女性の方が 24.9 ポイント高い。

【P46~47 参照】

(4) **男性を優遇する差別的待遇が生じる理由**については、「組織が男性中心の運営にかたよりがちだから」が全体の 54.7%と最も高く、次いで「女性は、家事・育児・介護などの負担が大きいと考えられているから」が 50.6%、「女性はすぐにやめるという考え方があるから」が 25.9%と続く。

【P48~49 参照】

(5) **職場における方針・意思決定する際の影響力**は、全体の 53.5%、女性の 56.1%が『男性の影響力が大きい』と回答、男女間では女性の方が 6.4 ポイント高い。一方、「男女ともに同等の影響力がある」は全体では 31.8%である。

【P50~51 参照】

(6) **職場における方針・意思決定の場に女性の参画が必要だと思ふ理由**は、「決定される方針などは、女性にも関わることだから」が全体の 63.5%で最も高く、次いで「女性の意見や視点を様々な施策や運営に反映させるため」が 63.4%である。また、「社会全体の、女性の意見の参画を困難にする慣習やしきたりなどを改善するため」では女性の方が 10.9 ポイント高い。

【P52~54 参照】

(7) **上場企業役員に占める女性の割合**については、全体の 31.4%が「男性と女性の社員数の比率と同じ割合にすべきである」と回答。また、「男性と女性の割合を同じにすべきである」は全体の 18.0%が回答し、男女間では、女性の方が 7.4 ポイント高い。一方で、全体の 17.1%が「その他」であり、性別に関係なく能力のある人が就くべきだという趣旨の記述が過半数を占めた。

【P55~56 参照】

4. 政治における女性の参画

(1) **政治への関心**については、全体の 47.9%が『関心がある』と回答し、『関心がない』は 28.3%、「どちらともいえない」は 22.4%である。また、『関心がある』は前回調査から 26.8 ポイント減少した。

【P57～58 参照】

(2) **政治に関する情報の入手方法・政治とのかかわり方**は、全体の 90.1%が「テレビやラジオ、インターネット（SNSを含む）などで政治報道を見る、聞く」と回答。次いで「選挙の投票に行く」が 53.0%、「新聞の『政治欄』を読む」が 29.4%と続く。また、男女間では、「新聞の『政治欄』を読む」は男性の方が 14.2 ポイント高く、同様に年代別では、20 歳代と 60 歳代では、60 歳代の方が 43.2 ポイント高い。

【P59～61 参照】

(3) **政治における方針・意思決定する際の影響力**については、全体の 79.4%が『男性の影響力が大きい』と回答し、「男女ともに同等の影響力がある」は 11.7%である。男女間では、『男性の影響力が大きい』は女性の方が 15.3 ポイント高く、一方、「男女ともに同等の影響力がある」は男性の方が 13.3 ポイント高い。

【P62～63 参照】

(4) **政治における方針・意思決定の場に女性の参画が必要だと思ふ理由**は、全体の 72.2%が「決定される方針などは、女性にも関わることだから」と回答。次いで「女性の意見や視点を様々な施策や運営に反映させるため」が 66.1%である。また、男女間では、「決定される方針などは、女性にも関わることだから」は女性の方が 11.4 ポイント高く、「社会全体の、女性の意見の参画を困難にする慣習やしきたりなどを改善するため」は女性の方が 11.6 ポイント高い。

【P64～66 参照】

(5) **衆議院議員に占める女性の割合**については、全体の 47.8%が「男性と女性の割合を同じにすべきである」と回答、男女間では、女性の方が 19.1 ポイント高い。また、女性の 20 歳代が 64.1%とすべての性・年代で最も高く、反対に男性の 50 歳代が 30.7%で最も低い。

【P67～68 参照】

(6) **「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」の認知度**については、全体の 53.3%が「言葉も内容も知らない」と回答。『言葉を知っている（聞いたことがある）』は 45.5%である。また、性・年代別の認知度では、男性の 60 歳代（71.2%）が最も高く、次いで女性の 60 歳代（57.4%）である。

【P69～70 参照】

5. 今後に向けて

女性の社会参画推進

社会通念・慣習・しきたりなどで『男性の方が優遇されている』と考えている人が全体の77.3%、それ以外の分野でも同様の回答が4～5割程を占めている。また、「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方に『反対』の人が全体の60.4%である一方、女性の23.1%、男性の34.9%が『賛成』している。今後、女性の社会参画を推進するにあたって、法整備もさることながら、暗黙のルールや伝統的な枠組みによって男性が優遇されたり、旧来の性別役割分担を強制されたりしないよう、啓発活動を続けることが求められる。

地域活動における女性の参画

全体の68.9%が「地域活動は行っていない」と回答、また、地域活動に参加しない、または参加の支障になると思う理由では、「どんな活動団体があるのか知らない」が全体の43.5%となったほか、女性では30歳代の43.8%が「家族・育児・介護の負担が大きい」を挙げ、男性では30歳代の45.5%、40歳代の43.8%が「仕事の負担が大きい」を挙げている。今後、地域活動への女性の参画を促すために、行政や活動団体がそれぞれ情報発信を活発にしていくこと、併せて、女性・男性とも育児や介護、仕事の負担を分かち合っていけるような環境の整備が望まれる。

職場における女性の参画

女性に対する職業観では、全体の62.8%が「産休や育休などの制度を使い、出産後も職業を持ち続けるほうがよい」と回答、前回調査から大幅に増加した。一方、就業者の24.4%が職場内で「男性の方が優遇されている」と回答、男女で扱いに差を感じることを、「仕事の内容」「管理職への登用」「昇進・昇格」などが挙げられている。女性の参画を推進するために、出産後も働くことを望む女性が働きやすいような環境を整備すること、男女間の差別的待遇を是正し、女性がより多く管理職などへ昇進できるよう、企業や団体などへの啓発活動を行っていく必要がある。

政治における女性の参画

全体の79.4%が、政治における方針・意思決定する際の影響力について『男性の影響力が大きい』と回答した。また、衆議院議員に占める女性の割合について「男性と女性の割合を同じにすべきである」と回答した人が全体の47.8%で、現状の男女比について、多くの人が問題意識を感じている。国や社会のあり方を決める政治に女性が参画できないことは望ましい状態ではなく、今後、参画への障壁を取り除くような環境作りが必要になる。

IV. 自由意見

女性の社会参画について寄せられた自由意見の中から年代別・性別に掲載する。

(全 240 件中 47 件を原文のまま掲載)

20 歳代 女性

- 女性だから〇〇というのではなく、適性のある人が正しいポジションにつき、良い意見を出したら採用される、本当の意味での平等を目指していきたいですね。
- 今の法律や憲法は昔の考えや役割に基いたものが残っており、現在の状況に即していないものがあります。時代の変化に合わせて、柔軟に法律などを変えていけば、もっと女性が輝ける社会にできると思います。
- 男性も女性も能力に応じて、昇格や昇給をしていくべきだと思います。男性も女性も差別なく、働いたり生活していける社会になっていくといいなと思います。
- 日本は、なかなか女性が「リーダー」として認識されることがないように思います。先進国でも、日本の女性が社会進出することが遅れていたり、改善点は山ほどあります。そのためにも幼い頃から、「ジェンダー」の教育はしていくべきだと思います。そういう教育を小さい頃からし続けていけば、問題そのものに対して無意識になることはないように思うからです。
- 育児などをしながらでも、社会参画できるようにするべきだと思う。保育制度の充実、男性の育休制度を取りやすくするなど。

20 歳代 男性

- 年齢が高い方(特に男性)の方が男尊女卑や古いしきたりや風習にこだわる傾向があると感じます。そのため、なかなか女性の社会参画が進んでいないのだと思う。
- 無理に男女を同数にするのではなく、能力が秀でているかどうかでしっかり判断し、適材適所に努めるべきであると私は考えます。
- 女性が社会に参加する権利はあり、活動としてはとても良いと思い、賛成です。男性だからや女性だからと言う理由での優遇はされるべきではなく、減少していく事を期待しています。しかし、体格や身体(妊娠の有無、ホルモンなど)で得手、不得手がある為、男女平等は賛成だが均等ではなく、あくまで適材適所による個々の尊重が根底に必要だと思います。

30 歳代 女性

- 女性を会社で働きやすくして、管理職をふやしてほしい。女性は出産があるから管理職につけなかったりされるので、男女平等をあたりまえにしてほしい
- 女性の社会参画に反対というわけではないですが、主婦(子を持つ親)優遇の職場環境は独身でしっかり仕事をしたい身としては不満が多いです。(時短や急な休みなどあたり前)
- 長時間労働が当たり前のような環境では仕事と育児の両立は難しい。
- 職場に関しては、比較的女性が多く、女性を中心としている職場や職種では女性が働きやすくなるような環境作りが出来ていると感じます。又、世代によっても感じ方の違いがあるように思います。
- 私の会社(本社 千葉市)は、人事、社内の制度は男女平等なくみとなっています。しかし、実際には育児・介護の負担で仕事を辞めてしまう女性(もしくはパートタイマーになる方)も多く、社会整備を充実させる必要があると感じます。会社も制度づくりに取り組んでいます。女性とともに若年者の地域活動への参加も声をかけるべきです。(一部抜粋)

30 歳代 男性

- 女性の社会参画は良いことだとは思いますが、諸外国と比較して、日本の女性参画率が低いからと言って無理に推進する意味はあまりないと個人的には思います。共同参画の推進ではなく、男性、女性関係なく、その人がありたいようにいれる選択が社会にあたり前のように受け入れられる社会が良い社会なのではないかと思います。
- まだまだ育休明けで社会復帰しにくい企業もあります。男性も育休が取得できるようになりましたが、基本は女性が取得する流れはあると思います。復帰しにくいのは雰囲気？でしょうが、(制度は整備されていると思うので)働きやすい雰囲気を作れる社会になってほしいと思います。子育て世帯の意見としてはこんなところです。
- 社会に男女の差はないと感じているが、どちらかと言うと、制度等において男女に差はないが、育児休暇なんかは男性は活用するのがむずかしい風潮がある。慣習等では長男優遇される部分があるが、責任や労力を伴う事も多く、男であってもやりたくない事も多いと思う。ので、それを優遇だとはあまり思わない。女性の役員・議員の話もあったが、能力の高い人は男女問わず上へ行くべきであると思う。だが、数合わせのために能力のない人を上へあげるのには社会にとって不幸であると思うので、ムリに現状を変えようとはしなくてよい。

40 歳代 女性

- 我が家の例で言えば、女性の社会参画を難しくしている要因としては、家事、育児を主婦がやらなくてはならず、その合間をぬって仕事をするという構図になっている。夫は、激務で、仕事だけで精一杯という状況がつづいている。そして、夫の職場では働き方改革で若い職員の残業を制限されている一方で、その業務を中間管理職がこなし、残業手当もつかない残業が増えている。この夫の働き方で、主婦がしごと、家事、育児を1人で背負うのはかなり厳しい。本当はもっと働きたいが、家庭のことを考えセーブしている。夫の労働環境の改善が必要だと感じる。
- 女性の社会進出は現状、とても難しいと思います。私は子育てしながら働いていたのですが、子供が病気の時や学校の行事などで仕事を休まなくてはならない事も多かったのですが、主人には頼みず子育てしている時は急な休みでもなんとかなる仕事を選んでいました。自分のやりたい事がある方はなかなか難しいかもしれません。法律で社会参画の事を決めるのも良いですが、個人の意識を変える事が大事ではないのかも思います。男女共、昔からの固定観念やしきたりを変えるのは大変な事だと思います。(20才~30才代の方は違うと思いますが)
- 会社では、利用可能な制度(育休、時短勤務など)は整えられてきているが、実際現場では、利用が難しかったり肩身が狭い思いをしたり、利用不可なことがある。利用がスムーズにできる現場作り、(育休など利用しない方への負担軽減など)が必要と思います
- 男女問わず、上に立ってまとめる力のある人が立てばいいと思う。表向きはいろいろ女性が働きやすいように、育休明けなど受け入れ態勢が整えられてきているが、なかなか男性の根底の意識は変わらないと思う。
- 子供ができると、仕事勤めがしにくいので、まず働きやすい環境をつくってほしい。

40 歳代 男性

- 大手企業では幅広い働き方を選択できるようになってきています。これからは、一企業だけでなく、社会全体で女性が働きやすい環境を造っていかねばいけません。出産で休む場合→国で助成金をだす。保育園、幼稚園などの完全無償化を！！小学校で放課後から子供をあずかることのできる様なシステム造りもいいでしょう。女性の負担はなるべくなくしてあげる様に社会全体で取り組むべきです。まずは、千葉市から、発信できる様な改革をお願いします。
- 職場や地域社会において性別による扱いの差別はなくすべきであるが、企業等における役員に占める女性の割合や議員の女性の割合については、単に割合(人数)に注目するのではなく、真に資質のある者を性別によらず登用することが大切だと思う。
- 男女格差が大きいのは、高齢者だけでは？若い世代では、大きくないと思います。

- 意志のある人は、参画できる制度は充実させた方がよい。少子化の問題もあり、それに対する政策の方が優先度が高いと感じる。次世代を担う子供に負担をかける様な事があってはならないと考える。
- 労働力が不足している現在、女性の社会参画は重要であると考えます。但し、小さな子供を持つ親の心境としては、育児に専念してもらいたい気持ちもあり、複雑な思いです。女性の社会参加により様々な目線で今の社会を見つめてもらい、意見を出してもらい、仕事や育児それぞれを男女平等で行えるような現代となる事を期待します。

50 歳代 女性

- 20代のはじめは男性より仕事はバリバリしていました。店長も女性の力を伸ばすため、会議なども増し、数字も(売上げなど)女性にまかせていました。が結婚して家庭に入り、パートもしましたが親の介護の為、私は仕事をやめました。悔しくて、悔しくて日々泣いていました。どうしても女性は家のために犠牲になると思います。今はボランティアを始め、そこから乳児訪問という事につながり自分らしく生きています。ようするに心1つ考え方1つで生きられるということだと思います。これからの世の中女性が日々活躍できるよう願っています。
(一部抜粋)
- 税収入を考えても女性の社会進出をすすめなくてはならなくなっている現在、男女差が大きく重要なポストに女性が少なかったり、性差別は根深くあると感じる。育休や産休も女性はとりやすいが男性が取得しにくい現状もあり、女性が一定期間現場を離れる事が多く、昇給昇格につながらない。
- 以前に比べれば、育休や時短勤務などで女性が働きつづける環境はよくなっていると感じます。私達のころは結婚し、子供ができると会社は辞めるもの、続けられるのは余程のエリート、もしくは親の手伝いが見込めるなど一握りの人だったように思います。ただ、これ幸いと家庭に入って主婦の生活を楽しんだ人も多かったはず。夫1人の収入で生活できたからこそですが。今は、そんなことを言っていられない時代です。私にも娘がいますが、結婚、出産しようと仕事は続けるように言っています。何より経済的な自立は女性としてより、社会人として第1歩だと思うからです。そしてキャリアの形成は人生そのものの形成です。子どもを持っても仕事が続けられるよう乳児～小学校卒業くらいまで安心して子どもを預けられる場所づくり、また、世間の(特に年配の男性)女性に対する意識を変えていく必要があると思います。
- 長年正社員で仕事をしてしていますが、やはり女性は子供をもつと働くことが制約されると思いますし、社会のしくみ(保育園など)もまだサポートが十分でないと感じます。女性の働き続ける意欲もこのような状況の中では、なかなか、上がらないのではないのでしょうか。
- 女性の社会参画によって出生率がなお下がることの方が問題だと思う。子供を生み育てたいと思える社会になっていかないと日本の将来が非常に不安だ。
- 女性には、出産、育児があるが産休をとられるとその不足分の人員が補充される訳でもなく、独身者、子供を産めない者など周囲に負担がかかっている現実がまだまだ多く残っている。しかも2人目、3人目と続けられると大変。育休をとる者はいいが、その分職場の状況が追い付いていない。女性が安心して出産、育児ができる環境をもっと整えるべきでは。

50 歳代 男性

- 女性自らの意志で社会参画をして女性社会の平等性を求めていく事は賛成するが、まだ女性自身がその様な思いに至っていない事が多いからではないだろうか考える。男女ともに考え方をかえていかなければ「絵に描いた餅」で終わってしまいます。
- 女性の社会参画へ、うながす制度の整備をすると共に、男性が従来女性が担っていた役割(育児等)を担いやすい制度を整えるべきである。また、女性の社会参画を名目にして、女性へ負担をしいる様では本末転倒ですので、多様性を持って、ゆるやかに変化させていくのが良いと思う。
- 高齢化・少子社会が進むなかで高齢者・女性の社会参画は必要です。その為にはより社会参画できるような取り組み・制度づくりが望まれます。

- 政治にも職場や会社にも現在以上に女性の参画が必要と思いますが男性中心の仕組みの中で数や割合だけを増やそうとしても無理があると思います。女性が参画しやすい仕組みや制度を整える必要があると考えます。
- 女性の社会参画は推進すべきと思う。しかし女性には出産という男性と異なる大事な役割がある(身体的に)ので、その点も十分に留意するべきだと思う。

60 歳代 女性

- 最近の若い人は女性も結婚後働き続けることが多くなり社会進出が進んでいるように思いますが、保育園の問題を始めまだまだ女性には負担が重いのが実態だと思います。10年、20年と長い年月がかかるのでしょうか、さらに女性の社会での立場が男性と同等になるように願っています。
- 女性の社会参画や進出はだいぶ増えてきていると思う。各家庭によって考え方は様々だし、向き不向きもあると思う。現に看護師は圧倒的に女性が多いし、人間のくらしに関わる仕事は女性が多い。その分野の給与引き上げは絶対に必要だと考える。社会に参画しても男女に関わらず、福祉職は給与が低い。低いということは、結局、仕事内容を認めていない社会だということ。男女を全く平等にする世の中を作るにはまだ課題が多すぎると思う。出産するのは女性。介護するのも女性が向いている…となると、女性が外に出る時間はなかなか作ることは難しいのでは…と思う。女性は忙しすぎると思う。
- 子育て中(乳幼児含む)の女性も参画できるような機会を増やしていくことが若い世代の政治への参加を促進する手助けになるのでは? ネットでの参加も検討してほしい。障害を持った人たちも気軽に参加できる仕組みも必要だ。
- 女性の社会参画については、今までも、現在も、男性優位が感じられることがあるので、良いことだと思います。しかし、全てにおいて男女平等というよりは、男性、女性の区別なく、全ての人が適材適所で活躍できる社会になっていければと思います。
- いつも、このような案が出るが、結局、出て、話し合っ、終わる。そして、旧態依然に戻る。それは、やはり、女性自身が意識をかせないことには、始まらないと思う。特に60歳以上の方には、男性優遇があたりまえと本気で思っているか、もしくは諦めているかのどちらかです。これからの若い人達には女性の当然の権利を主張し、勝ちとっていただきたいと思います。この女性の社会参画という言葉が使われなくなるまで。

60 歳代 男性

- 出産、子育てと仕事の両立において、社会全体で配慮すべきと思う。能力とやる気のある女性が生きる社会づくりに努めるべきと思う。
- 法律まで作っているが、努力する事だけで、ペナルティもないので、現実是不変。政治の世界から平等にしていけないと企業も変わらない。(一部抜粋)
- 学校・教育の場での、分りやすい啓発を希望します。小学生女子の成りたい仕事の上に総理大臣があってほしいね。
- 女性の社会参画は、他の先進諸国に比べて、日本はかなり遅れていると思われます。国際的にみて、もう少し改善されることを望まれます。
- 今後、女性の能力を活かしていただくことが、日本の未来に大きく影響すると感じています。早急な意識の改革が必要だと思います。

千葉市における
女性の社会参画に関する意識調査

調査へのご協力をお願い

千葉市男女共同参画センターでは、男女共同参画社会の実現に向けて、さまざまな事業を展開しております。

本調査は、千葉市内にお住まいの皆さまを対象に、女性が地域活動、職業、政治などの分野に参画することに関して、現在の状況や考え方をお聞きするものです。

今回、満20歳以上65歳未満の男女各1,500名の方を無作為(ランダム)に抽出し、アンケート調査票を郵送させていただきます。

調査票及び集計結果は、すべて「〇〇という回答が△△%」のように統計的に処理いたしますので、ご回答いただいた方が特定されることは一切ございません。

趣旨をご理解の上、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

なお、本調査は、千葉市の委託を受け、千葉市男女共同参画センターが行うものです。これまでに当センターが行った調査結果の概略は、ホームページに掲載しています。

ホームページ <http://www.chp.or.jp/danjo/research/research.html>



◆ご記入にあたってのお願い◆

1. 宛名にあるご本人様をご記入ください。
ご本人様が回答できない場合は、お手数ですが、白紙のままご返送ください。
2. 令和元年8月1日現在の状況でお答えください。
3. ご回答は、あてはまる選択肢の番号に○をつけてください。
質問によって、○が1つの場合と、複数の場合があります。
4. 質問文の指示にそってご記入ください。
5. ご記入後、同封の返信用封筒に入れて8月29日(木)までにポストにご投函ください。
差出人名、切手は不要です。

令和元年8月
調査に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。
《お問い合わせ先》

千葉市男女共同参画センター 調査担当
〒260-0844 千葉市中央区千葉寺町1208-2
千葉市ハローセンタープラザ内
電話：043-209-8771

あなたご自身のことについてお聞きします。

F1 あなたの性別について、あてはまる番号を1つ選んでください。

1. 女性 (59.9%) 2. 男性 (40.0%) 3. その他 (0.0%)

F2 あなたの年齢(令和元年8月1日現在)にあてはまる番号を1つ選んでください。

1. 20歳代 (11.4%) 3. 40歳代 (29.6%) 5. 60歳代 (13.0%)
2. 30歳代 (18.5%) 4. 50歳代 (27.4%)

F3 あなたの就労状況について、あてはまる番号を1つ選んでください。

※複数の就労状況にあてはまる方は、主なものを1つ選んでください。

1. 正職の社(職)員 (46.2%) 7. 内職・在宅ワーク (0.1%)
2. 契約社(職)員(臨時・派遣を含む) (8.9%) 8. 専業主婦・主夫 (11.9%)
3. 経営者・事業者 (2.5%) 9. 学生 (1.7%)
4. 自営業・家族従業者 (3.5%) 10. その他 (0.1%)
5. 自由業 (0.5%) 11. 無職 (5.7%)
6. パート・アルバイト (18.8%)

F4 あなたと一緒に住んでおられるご家族の構成について、あてはまる番号を1つ選んでください。

※ここでいうパートナーとは、妻や夫、またはそれに相当する立場で同居している方です。

1. ひとり暮らし (9.6%) 4. 3世代家族(親と子と孫) (4.3%)
2. 妻・夫・パートナーとふたり暮らし (21.2%) 5. その他 (1.2%)
3. 2世代家族(親と子) (63.3%)

※各質問の右側に記してある①②…などの数字は、データ処理上の番号です。

問3 あなたは、「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について、どのように思いますか。あてはまる番号を1つ選んでOをつけてください。

1. 賛成 (3.0%)
2. どちらかといえば賛成 (24.8%)
3. どちらかといえば反対 (33.6%)
4. 反対 (26.8%)
5. わからない (11.3%)

地域における女性の参画についてお聞きします。

問4 あなたは現在、どのような内容の地域活動を行っていますか。あてはまる番号をすべて選んでください。

1. 趣味・スポーツ・文化に関する活動 (12.8%)
2. 人々の学習活動に関する指導、助言、運営協力など (1.5%)
3. 町内会などの地域活動 (町内会などの役員、防犯や防火活動) (15.5%)
4. 自然・環境保護、リサイクルに関する活動 (4.0%)
5. 自主防災活動、災害援助に関する活動 (2.5%)
6. 社会福祉に関する活動 (高齢者や障害者などに対する介護、身の回りの世話など) (3.0%)
7. 国際交流 (協力)、国際平和に関する活動 (通訳、難民援助、留学生援助など) (1.0%)
8. まちづくりなど行政と協働する活動 (1.0%)
9. 公共施設での活動 (文化施設のボランティア、託児、博物館の説明員など) (1.4%)
10. その他 (1.3%)
11. 地域活動は行っていない (68.9%) → 次のページ問6へ

次のページ問5へ

男女共同参画社会に関する意識についてお聞きします。

問1 あなたは、以下の言葉を知っていますか。あてはまる番号をそれぞれ1つずつ選んでください。

	言葉も内容も知っている	言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない	言葉も内容も知らない
男女共同参画社会 ^{*1}	(43.2%)	(34.4%)	(22.2%)
仕事と生活の調和 ^{*2} (ワーク・ライフ・バランス)	(50.0%)	(27.3%)	(22.3%)

*1: 男女共同参画社会は、『すべての市民が、男女の別なく個人として尊重され、お互いに対等な立場であらゆる分野に参画する機会が確保され、責任を分かちあう』社会です。
(出典：千葉市男女共同参画ホームページ(案前文))

*2: 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)が実現した社会は、『国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会』です。
(出典：内閣府 ワーク・ライフ・バランス(抜粋))

問2 あなたは現在、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(A)～(E)それぞれの事項について、あてはまる番号を1つずつ選んでください。

	女性の方が非常に優遇されている	どちらかの方が優遇されている	平等になっている	男性の方が非常に優遇されている	わからない
(A) 家庭生活で	(2.2%)	(8.8%)	(30.3%)	(38.6%)	(9.0%)
(B) 職場で	(1.6%)	(7.9%)	(27.6%)	(37.8%)	(11.1%)
(C) 地域社会で	(1.2%)	(9.1%)	(26.1%)	(34.3%)	(19.6%)
(D) 法律や制度上で	(2.1%)	(6.8%)	(28.6%)	(36.7%)	(15.4%)
(E) 社会通念・慣習・しきたりなどで	(0.7%)	(3.8%)	(7.7%)	(49.7%)	(10.4%)

問7 あなたは地域の活動に参加しやすい環境にいると思いますか。あてはまる番号を1つ選んでください。

1. 非常に参加しやすい (3.1%)
2. やや参加しやすい (12.0%)
3. どちらとも言えない (27.0%)
4. やや参加しにくい (21.4%)
5. 非常に参加しにくい (17.2%)
6. わからない (16.2%)

問8 あなたが地域活動やNPOなどに参加する際に、支障になると思うことは何ですか。または、それらの活動に参加しない理由は何ですか。以下から、特にあてはまる番号を3つまで選んでください。
(13. 女性が参加しづらい雰囲気がある」「14. 男性が参加しづらい雰囲気が団体にある」は男性のみが選ぶことができます。)

1. どんな活動団体があるのかわからない (43.5%)
2. 興味をひかれる活動がない (11.7%)
3. 地域にあまり関わりたくない (4.5%)
4. 家族の理解と協力が得られにくい (3.1%)
5. 参加するきっかけがない (35.8%)
6. 家族が参加していれば十分だと思う (1.0%)
7. 家族・育児・介護の負担が大きい (17.8%)
8. 仕事の負担が大きい (31.2%)
9. 自分の時間が減る (23.8%)
10. 気力・体力に不安がある (18.4%)
11. 参加するための経済的負担がある (9.6%)
12. 役割や責任のある役割をするのが負担と感じる (12.5%)
13. 女性が参加しづらい雰囲気が団体にある (0.8%)
14. 男性が参加しづらい雰囲気が団体にある (0.7%)
15. 世間的に、活動に参加しづらい (0.7%)
16. 団体の中に、閉鎖した雰囲気がある (6.8%)
17. 活動そのものに対する関心がない (9.5%)
18. その他 (2.4%)
19. 特にない (2.9%)

問5<問4で、1~10を選んだ方>にお聞きします。>
あなたが活動を始めたきっかけは何ですか。あてはまる番号をすべて選んでください。

1. 行政の発行する情報誌（市政だよりのなど紙媒体）で知って (13.6%)
2. ポスターやチラシで知って (7.8%)
3. 新聞や雑誌で知って (3.5%)
4. ミニコミ誌、タウン誌（紙媒体）などで知って (1.9%)
5. インターネット（SNSを含む）で知って (13.2%)
6. テレビやラジオで知って (1.9%)
7. 団体メンバーや家族、友人に誘われて (45.3%)
8. 自ら活動団体を結成して (1.6%)
9. その他 (27.1%)

問6<すべての方>にお聞きします。>
あなたは今後、仕事以外で、どのような活動を行いたい、または、続けたいと思いますか。あてはまる番号をすべて選んでください。

1. 趣味・スポーツ・文化に関する活動 (41.8%)
2. 人々の学習活動に関する指導、助言、運営協力など (7.2%)
3. 町内会などの地域活動（町内会などの役員、防犯や防火活動） (10.0%)
4. 自然・環境保護、リサイクルに関する活動 (15.7%)
5. 自主防災活動、災害援助に関する活動 (9.9%)
6. 社会福祉に関する活動（高齢者や障害者などに対する介護、身の回りの世話など） (8.8%)
7. 国際交流（協力）、国際平和に関する活動（通訳、難民援助、留学生援助など） (9.1%)
8. まちづくりなど行政と協働する活動 (9.9%)
9. 公共施設での活動（文化施設のボランティア、託児、博物館の説明員など） (12.0%)
10. その他 (1.5%)
11. 特に考えてはいない (32.9%)

職場における女性の参画についてお聞きします。

※こちらで示す「職場」・「仕事」とは、正社員・職員だけでなく、自営業・派遣社員、パート、アルバイトなど、様々な就労形態を含みます。

問11 あなたは、一般的に、女性が職業を持つことについて、どのようにお考えですか。あてはまる番号を1つ選んでください。

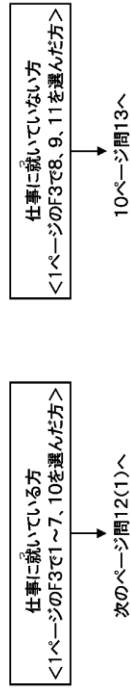
1. 女性は職業を持たないほうがよい (0.7%)
2. 結婚するまでは、職業を持つほうがよい (1.7%)
3. 子どもを出産するまでは、職業を持つほうがよい (2.1%)
4. 産休や育休などの制度を使い、出産後も職業を持ち続けるほうがよい (62.8%)
5. 出産したら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つほうがよい (16.6%)
6. その他 (9.6%)
7. わからない (5.3%)

問9 地域活動において、方針や意思、重要事項を決定する際、男女いずれの方が影響力を持っていると思いますか。あてはまる番号を1つ選んでください。

1. 男性の影響力が非常に大きい (11.8%)
2. 男性の影響力がやや大きい (30.5%)
3. 男女ともに同等の影響力がある (24.6%)
4. 女性の影響力がやや大きい (4.3%)
5. 女性の影響力が非常に大きい (0.9%)
6. わからない (27.1%)

問10 あなたが、地域活動における方針や意思決定の場、女性の参画が必要だと思うのは、どのような理由からですか。あてはまる番号をすべて選んでください。

1. 決定される方針などは、女性にも関わることだから (60.5%)
2. 女性の意見や強点を様々な施策や運営に反映させるため (58.8%)
3. 社会全体の、女性の意見の参画を困難にする慣習やしきたりなどを改善するため (29.1%)
4. 現実には、女性が方針決定の場に参画する機会が少ないから (15.2%)
5. 人口の約半分が女性だから (22.3%)
6. その他 (3.5%)
7. 女性の参画は必要ない (0.6%)



(3) <問12(1)で1を選んだ方>にお聞きします。>

あなたは、職場において男性との扱いに差が生じることがあるのは、どのような理由だと思いますか。特にあてはまる番号を3つまで選んでください。

1. 女性は、家事・育児・介護などの負担が大きいと考えられているから (50.6%)
2. 女性はすぐによめるという考え方があるから (25.9%)
3. 仕事の業績・実績の評価について差があるから (11.8%)
4. 責任のある仕事を任せないなど、能力を發揮する場に差があるから (18.8%)
5. 入社後に経験した職場や仕事に差があるから (8.8%)
6. 能力を向上させるための教育研修を受ける機会に差があるから (5.3%)
7. 部下に対する上司の指導・育成について差があるから (6.5%)
8. 組織が男性中心の運営にたよりがちだから (54.7%)
9. 女性は、社内の人脈を十分に築くことが難しいから (3.5%)
10. 女性の仕事への意欲が足りないから (4.1%)
11. 女性は専門的な知識や経験が足りないから (3.5%)
12. 女性には、理業や深夜業務が難しいから (23.5%)
13. その他 (5.3%)
14. わからない (0.6%)

次のページ問13へお進みください。

問12<1<ページのF3で1~7、10を選んだ方>にお聞きします。>

(1) あなたの今の職場では、性別によって扱いに差があると思いますか。あてはまる番号を1つ選んでください。

1. 男性の方が優遇されている (24.4%)
2. 女性の方が優遇されている (9.3%)
3. 性別によって差はない (53.9%)
4. わからない (10.0%)

10ページ問13へ

(2) <問12(1)で1、2を選んだ方>にお聞きします。>

扱いに差があると思うのは具体的にどのようなことですか。あてはまる番号をすべて選んでください。

1. 募集・採用の仕方 (15.3%)
2. 採用数 (19.6%)
3. 配置される職場 (26.8%)
4. 仕事の内容 (50.2%)
5. 賃金 (30.6%)
6. 昇進・昇格 (40.0%)
7. 管理職への登用 (42.1%)
8. 研修の頻度や内容 (7.2%)
9. 定年まで続けやすい雰囲気 (16.2%)
10. 休暇の取得に関して (13.2%)
11. その他 (7.2%)

男性の方が優遇されている
と回答した方
<問12(1)で1を選んだ方>

次のページ問12(3)へ

男性の方が優遇されている
以外の回答をした方
<問12(1)で2~4を選んだ方>

10ページ問13へ

政治における女性の参画についてお聞きします。

問16 あなたは政治に関心がありますか。あてはまる番号を1つ選んでください。

1. 非常に関心がある (11.1%)
2. やや関心がある (36.8%)
3. どちらともいえない (22.4%)
4. あまり関心がない (20.8%)
5. まったく関心がない (7.5%)

問17 あなたは、政治に関する情報をどのように入手していますか。また、どのようなかたちで政治にかかわっていると思いますか。あてはまる番号をすべて選んでください。

1. 新聞の「政治欄」を読む (29.4%)
2. テレビやラジオ、インターネット (SNSを含む) など政治報道を見る、聞く (90.1%)
3. 議会を傍聴する、議会中継を見る、聞く (3.8%)
4. 選挙の投票に行く (53.0%)
5. 個人的に、あるいは市民活動団体に参加して、政治的活動を行う (0.3%)
6. 選挙応援活動に参加する (0.9%)
7. 政治家の後援会の会合などに参加する (0.9%)
8. 政治や社会問題などの講座に参加する (0.9%)
9. その他 (1.8%)
10. 特になし (4.5%)
11. わからない (0.7%)

問13 3歳以下の方にお聞きします。>
職場において、方針や意思、重要事項を決定する際、男女いずれの方が影響力を持っていると思いますか。あてはまる番号を1つ選んでください。

1. 男性の影響力が非常に大きい (20.9%)
2. 男性の影響力がやや大きい (32.6%)
3. 男女とも同等の影響力がある (31.8%)
4. 女性の影響力がやや大きい (2.9%)
5. 女性の影響力が非常に大きい (1.2%)
6. わからない (9.0%)

問14 あなたが、職場における方針や意思決定の場に、女性の参画が必要だと思うのは、どのような理由からですか。あてはまる番号をすべて選んでください。

1. 決定される方針などは、女性にも関わることだから (63.5%)
2. 女性の意見や視点を様々な施策や運営に反映させるため (63.4%)
3. 社会全体の、女性の意見の参画を困難にする慣習やしきたりなどを改善するため (26.4%)
4. 現実には、女性が方針決定の場に参画する機会が少ないから (14.1%)
5. 人口の約半分が女性だから (17.2%)
6. その他 (4.6%)
7. 女性の参画は必要ない (0.5%)

問15 上場企業役員に占める女性の割合は4.1%*(平成30年)ですが、この割合についてどう思いますか。あてはまる番号を1つ選んでください。

1. このままでよい (8.7%)
2. 男性と女性の社員数の比率と同じ割合にすべきである (31.4%)
3. 男性と女性の割合を同じにすべきである (18.0%)
4. 男性より女性の方を多くすべきである (1.0%)
5. その他 (17.1%)
6. わからない (21.6%)

* (出典：内閣府「平成30年度 女性の政策・方針決定参画状況調べ」)

問21 平成30年5月23日に「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」が公布・施行されました。この法律は、衆議院、参議院及び地方議会の選挙において、男女の候補者の数ができる限り均等となることを目指すことなどを基本原則とし、国・地方公共団体の責務や、政党などが所属する男女のそれぞれの公職の候補者の数について目標を定めるなど、自主的に取り組むよう努めることなどを定めています。あなたは、この法律について知っていますか。

1. 言葉も内容も知っている (9.7%)
2. 言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない (35.8%)
3. 言葉も内容も知らない (53.3%)

自由記述

問22 女性の社会参画について、ご意見がございましたら自由にご記入ください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。
同封の返信用封筒に入れて、8月29日(木)までにご返函をお願いします。

問18 政治において、方針や意思、重要事項を決定する際、男女いずれの方が影響力を持っていると思いますか。あてはまる番号を1つ選んでください。

1. 男性の影響力が非常に大きい (50.9%)
2. 男性の影響力がやや大きい (28.5%)
3. 男女ともに同等の影響力がある (11.7%)
4. 女性の影響力がやや大きい (0.7%)
5. 女性の影響力が非常に大きい (0.6%)
6. わからない (6.4%)

問19 あなたが、政治における方針や意思決定の場に、女性の参画が必要だと思うのは、どのような理由からですか。あてはまる番号をすべて選んでください。

1. 決定される方針などは、女性にも関わることだから (72.2%)
2. 女性の意見や視点を様々な施策や運営に反映させるため (66.1%)
3. 社会全体の、女性の意見の参画を困難にする慣習やしきたりなどを改善するため (40.5%)
4. 現実には、女性が方針決定の場に参画する機会が少ないから (21.0%)
5. 人口の約半分が女性だから (25.8%)
6. その他 (2.8%)
7. 女性の参画は必要ない (0.3%)

問20 衆議院議員に占める女性の割合は10.1%*(平成30年)ですが、この割合についてどう思えますか。あてはまる番号を1つ選んでください。

1. このままでよい (12.6%)
2. 男性と女性の割合を同じにすべきである (47.8%)
3. 男性より女性の割合の方を多くすべきである (2.1%)
4. その他 (13.9%)
5. わからない (22.5%)

* (出典：内閣府「平成30年度 女性の政策・方針決定参画状況調べ」)

千葉市における女性の社会参画に関する意識調査
調査結果報告書

○令和2年3月 発行
○発行 千葉市市民局生活文化スポーツ部男女共同参画課
〒260-8722
千葉市中央区千葉港1番1号
電話 043-245-5060

千葉市男女共同参画センター
(指定管理者) 公益財団法人千葉市文化振興財団
〒260-0844
千葉市中央区千葉寺町1208番地2
電話 043-209-8771